

令和5年度シラバス (国語)

学番61 新潟県立柏崎高等学校

教科(科目)	国語(現代の国語)	単位数	2単位	学年(コース)	1学年(普通科)
使用教科書	数研出版『現代の国語』				
副教材等	数研出版『現代の国語』準拠ワーク 数研出版『プレミアムカラー 国語便覧』 尚文出版『品詞別 頻出漢字マスター3000』 尚文出版『現代文読解WORKS レッスン1』				

1 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) ことばが持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 指導の重点

- ① 語句の意味、用法を理解し、語彙を豊かにすることで、論理的な文章の話題や筆者の主張、論拠を的確にとらえられるようになること。
- ② 人間社会、自然科学など専門性の高いテーマの背景を知ること、筆者と問題意識を共有し、自分なりの問題意識や考えを持つようになること。
- ③ 自らの考えを論理的に組み立て整理し、深みと説得力のある文章で表現できるようになること。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに創造したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、ことばが持つ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。</li> </ul>

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに創造したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、ことばが持つ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。</li> </ul>
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査、小テストの分析 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査、小テストの分析 ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。

5 学習計画						
月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	社会と文化	3 A、C	内田樹 「コミュニケーション能力とは何か」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的・婉曲的表現について理解する。</li> <li>・文章中の情報を関係付けながら整理し、筆者の意図をくみ取り、自分の考えを深める。</li> <li>・二つの文章を読み解き、学習課題に沿って説明する。</li> </ul>	3	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の点検) 課題プリント (記述の分析)
5	社会と文化	6 A、B、C	山崎正和 「水の東西」  【ズームアップ】文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の主張や論拠、文章の構成、論理の展開を的確にとらえ、要点を把握する。</li> <li>・要約文を各自書き、互いの要約を読み比べる。</li> <li>・【表現編】「書き言葉の技術」・文章トレーニングに取り組み、説得力のある文章の特徴について考え、発表する。</li> <li>・「文化」の意味を確認し、そこから現代社会の諸問題を捉え、話し合う。</li> </ul>	6	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の点検) 課題プリント 発表の様子 (行動の確認)
	問題を提起する	4 B	山極寿一 「感情暴走社会の由来」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解する。</li> <li>・自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫する。</li> <li>・課題テーマについて積極的に自分の考えをまとめ、筆者の文章を参考にしながら、学習課題に沿って適切にまとめる。</li> </ul>	4	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の確認) レポート (記述の点検)
6	新しい視点	6 A、C	梶井厚志 「わらしべ長者」の経済学  【ズームアップ】情報とメディア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解する。</li> <li>・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、要旨や要点を把握する。</li> <li>・自分の考えが適切に伝わるように、主張や論拠の説明を補足しながら意見交換を行い、自分の考えをさらに深める。</li> </ul>	6	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の確認) 発表や意見交換の様子 (行動の確認)
7	期末考査	1			1	
8	ことばの働き	8 A、C	鈴木孝夫 「ものことば」  【ズームアップ】どこにも蝶などいないー言語論入門ー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉には、認識や思考を考える働きがあることを理解する。</li> <li>・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、要旨や要点を把握する。</li> <li>・筆者の意見や参考資料をもとに実社会の問題について考察し、適切に説明する。</li> <li>・テーマに関連する書籍を読むなど、読書の意義と効用について理解を深める。</li> </ul>	8	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の確認) 発表や意見交換の様子 (行動の確認)

9	賛否を述べる	8 B	柳澤桂子 「命は誰のものなのか」  【ズームアップ】科学と生命を考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主張と論拠など情報と情報との関係について理解する。</li> <li>・読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫する。</li> <li>・筆者の主張を的確に理解したうえで積極的に自分の考えを深め、論述する。</li> <li>・実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深める。</li> </ul>	8	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の確認) レポート (記述の点検)
10	環境と科学	8 A、C	山本茂行 「動物園というメディア」  【探究の扉】自然との連帯 【ズームアップ】環境問題のこれから	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。</li> <li>・目的に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討する。</li> <li>・筆者の考えを的確に理解したうえで、適切な実例を考え、発表する。</li> <li>・二つの論理的文章を比較考察し、適切に説明する。</li> <li>・実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深める。</li> </ul>	8	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の確認)  発表や意見交換の様子 (行動の確認)
11	具体例を示す	3 B	福岡伸一 「動的平衡の回復」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。</li> <li>・目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性を吟味して、伝えたいことを明確にまとめる。</li> <li>・筆者の意見に基づいて実社会における自照を考察し、適切にまとめる。</li> </ul>	3	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の点検)  課題プリント (行動の確認)
12	期末考査	1			1	
	人間と時間	7 A、C	内山節 「時間と自由の関係について」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深める。</li> <li>・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、要旨や要点を把握する。</li> <li>・同じテーマの文章を読み解き、自分の考えを発表する。</li> </ul>	7	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の点検) 課題プリント (行動の確認)
1	認識の枠組み	6 A、C	國分功一郎 「消費を妨げる社会」  【ズームアップ】自己と他者の理解とは	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句や語彙の構造や特色、用法などを理解し、語彙を豊かにする。</li> <li>・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、要旨や要点を把握する。</li> <li>・筆者が論じる問題を自分に引きつけて考察し、適切に説明しようとする。</li> </ul>	6	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の点検) 課題プリント (行動の確認)

2	実用の文章	2 B	資料を分析して考えをまとめる	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報の妥当性の吟味の仕方について理解を深め使う。</li> <li>目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を集め、集めた情報の妥当性を吟味して、伝えたいことを明確にする。</li> <li>課題資料を踏まえて身近な礼を考え、具体的にまとめる。</li> </ul>	2	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の確認) レポート (記述の点検)
2	期末考査	1			1	

計64時間 (55分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A 「話すこと・聞くこと」 20 時間	B 「書くこと」 24 時間	C 「読むこと」 20 時間
-----------------	------------------------	-------------------	-------------------

※ 増単している場合は、増単した割合に応じた授業時数を確保すること。

6 課題・提出物等

- ・朝学習では『頻出漢字マスター3000』の小テストに取り組み、当日提出することとなります。
- ・週課題は『現代文読解WORKS』を中心に取り組み、週明けに提出することとなります。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。(スタディサプリ、指定図書の見学レポートなど)
- ・中間考査は朝学習・週課題の範囲から主に出题し、期末考査、学年末考査は教科書・朝学習・週課題から主に出题します。

7 担当者からの一言

「現代の国語」は、実社会・実生活に生きて働く国語の能力を育成する科目です。実社会に必要な国語の知識や技能を身につけたり、言葉による見方考え方を働かせ、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像する力を伸ばしたり、言葉が持つ価値への認識を深めたりすることなどを目指します。「現代の国語」及び「言語文化」で学ぶことは、高校3年間だけでなく、皆さんの生涯にわたる基礎となります。授業では、基礎・基本を大切にするとともに、実際に話したり書いたりする学習活動を通して、応用力を高めていきます。楽しみながら、力を伸ばしていきましょう。

### 令和5年度シラバス (国語)

学番61 新潟県立柏崎高等学校

教科(科目)	国語(言語文化)	単位数	2単位	学年(コース)	1学年 (普通科)
使用教科書	数研出版『言語文化』				
副教材等	数研出版『言語文化』準拠ワーク 数研出版『読解をたいせつにする要点プラス 体系古典文法 改訂版』 数研出版『改訂版 古典文法要点整理ノート』 数研出版『三訂版体系漢文』 いいずな書店『わかる・読める・解ける Key&Point 古文単語 330 三訂版』 京都書房『ポイント書く解くマスター古典1』 数研出版『プレミアムカラー国語便覧』				

## 1 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

## 2 指導の重点

- ①自分の考えを持ち、相手の立場を考えながら表現方法を工夫して伝えることができるようにする。
- ②文章の内容を的確に読み取り要約できるようにするとともに、自分の考えを述べられるようにする。
- ③言語文化に特徴的な語句や表現の技法と効果について理解する。
- ④基本的な言語事項や漢字を習得する。

## 3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに創造したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	・言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、ことばが持つ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

## 4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに創造したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	・言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、ことばが持つ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表での表現の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシート(ワークシート)の記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシート(ワークシート)の記述の分析 などから、評価します。



## 5 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	古文：説話	4 B「読むこと」	児のそら寝(『宇治拾遺物語』)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文語のきまりを理解し、古文に親しむ。</li> <li>・歴史的仮名遣いの読み方を理解し、古文を音読する。</li> <li>・古文特有の表現や古典常識・文学史について、辞書や資料を活用しながら理解する。</li> <li>・説話のおもしろさを味わい、登場人物の心情の変化と結末の描写について考える。</li> </ul>	4	授業の取り組み姿勢 テキストの音読 応答と発問 予習・復習と課題の提出 ノートの整理 意見発表の意欲と的確さ 小テスト・定期考査の成績 ワークシート 等
	古文：文法	3 B「読むこと」	動詞 形容詞 形容動詞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古語の品詞や活用について理解し、古語辞典の引き方に慣れる。</li> </ul>	3	授業の取り組み姿勢 応答と発問 ワークシート
5	小説：近代小説	7 A「書くこと」 C「読むこと」	芥川龍之介『羅生門』 比べ読み(今昔物語集)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近代日本文学への入門的な短編を通して、内容や展開を的確に捉えることを学ぶ。</li> <li>・常用漢字を文章中で適切に用いる。</li> <li>・舞台設定・構成・描写に注目する。</li> <li>・本文と『今昔物語集』、初版の改稿前の末部を比較し、考察する。</li> <li>・「下人」の行動やその後について議論し、考えを深める。</li> </ul>	7	授業の取り組み姿勢 テキストの音読 応答と発問 予習・復習と課題の提出 ノートの整理 意見発表の意欲と的確さ 小テスト・定期考査の成績 ワークシート 等
6	漢文：入門	3 B「読むこと」	入門一 入門二	<ul style="list-style-type: none"> <li>・格言や短い漢文を読み、漢文に親しむ。</li> <li>・訓読のきまりや熟語の構造を理解し、文章の内容を叙述に即して読み取る。</li> </ul>	6	授業の取り組み姿勢 テキストの音読 応答と発問 予習・復習と課題の提出 ノートの整理 意見発表の意欲と的確さ 小テスト・定期考査の成績 ワークシート 等
	漢文：故事	3 B「読むこと」	「狐借虎威」(『戦国策』)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・故事成語の由来や意味と、現代の言葉とのつながりを理解する。</li> <li>・漢和辞典や国語便覧を用い、熟語やその他の故事成語を調べる。</li> </ul>		
	期末考査	1			1	
7	古文：歌物語	7 B「読むこと」	「芥川」(『伊勢物語』)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平安貴族の生活や恋愛に関して理解し、歌物語や古文常識に親しむ。</li> <li>・想像力を働かせ、人物の心情を考える。</li> </ul>	1 2	授業の取り組み姿勢 テキストの音読 応答と発問 予習・復習と課題の提出 ノートの整理 意見発表の意欲と的確さ 小テスト・定期考査の成績 ワークシート 等
8	古文：歌物語	5 A「書くこと」 B「読むこと」	「東下り」(『伊勢物語』)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・敬語の基本的知識をつける。</li> <li>・後人の注について分析し話し合う。</li> <li>・和歌の修辞技巧について理解する。</li> <li>・折句などの修辞技巧を用いて和歌を作ってみる。</li> </ul>		
9	漢文：史伝	4 B「読むこと」	「鶏口牛後」(『十八史略』)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・史伝の背景を理解し、漢文の世界に親しむ。</li> <li>・登場人物の言動・心情・考え方を的確に捉える。</li> <li>・史伝に描かれた人物の言動や生き方から学び、自己の生き方の糧にしようとしている。</li> </ul>	4	授業の取り組み姿勢 テキストの音読 応答と発問 予習・復習と課題の提出 ノートの整理 意見発表の意欲と的確さ 小テスト・定期考査の成績 ワークシート 等

	定期テスト				a, b	
10 ・ 11	小説：近代小説	9 A「書くこと」 B「読むこと」	中島敦 『山月記』 比べ読み 『人虎伝』	・難解な語句や表現について理解し、音読する。 ・叙述を基に内容を的確に捉え、人物の心情とその変化について考える。 ・李徴の心理や生き方について考え、自己の生き方の糧とする。 ・本文と『人虎伝』を比較し、考察する。 ・近代文学の流れや特徴について知識を付ける。	9	授業の取り組み姿勢 テキストの音読 応答と発問 予習・復習と課題の提出 ノートの整理 意見発表の意欲と的確さ 小テスト・定期考査の成績 ワークシート 等
12	古文：日記文学	5 B「読むこと」	「門出」 （『土佐日記』）	・日記文学の特徴や成立の背景を理解する。 ・当時の暦法や時刻について理解する。 ・諧謔などの表現の工夫を味わう。	5	授業の取り組み姿勢 テキストの音読 応答と発問 予習・復習と課題の提出 ノートの整理 意見発表の意欲と的確さ 小テスト・定期考査の成績 ワークシート 等
	期末考査	1			1	
1 ・ 2	漢文：思想	6 B「読むこと」	「論語」 「孟子」	・古代中国の思想の流れについて理解する。 ・「論語」「孟子」を学ぶことで、自己のものの見方・考え方を豊かにする。	6	授業の取り組み姿勢 テキストの音読 応答と発問 予習・復習と課題の提出 ノートの整理 意見発表の意欲と的確さ 小テスト・定期考査の成績 ワークシート等
2	期末考査	1			1	
3	漢文：漢詩	5 A「書くこと」 B「読むこと」	中国の詩	・漢詩のきまりと表現の特色について学び、漢詩に親しむ。 ・描かれた状況や心情を考えながら、漢詩文を読み味わう。 ・日本語や日本文学への影響について調べ、考察する。	5	授業の取り組み姿勢 テキストの音読 応答と発問 予習・復習と課題の提出 ノートの整理 意見発表の意欲と的確さ ワークシート等

計64時間 (55分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A「書くこと」 6 時間	B「読むこと」 古典 41 時間	B「読むこと」 近代以降の文章 17 時間
-----------------	-----------------	---------------------	--------------------------

※ 増単している場合は、増単した割合に応じた授業時数を確保すること。

6 課題・提出物等

- ・ 単元ごとに、振り返りシート（ワークシート）を記入し、提出することとなります。
- ・ 副教材の問題集を用いた週課題を課します。
- ・ 長期休業中の課題は別途指示します。（スタディサプリ、読書に関する課題など）

7 担当者からの一言

「言語文化」は、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する科目です。生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけたり、言葉による見方考え方を働かせ、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像する力を伸ばしたり、言葉が持つ価値への認識を深めたりすることなどを目指します。「現代の国語」及び「言語文化」で学ぶことは、高校3年間だけでなく、皆さんの生涯にわたる基礎となります。授業では、基礎・基本を大切にするとともに、実際に話したり書いたりする学習活動を通して、応用力を高めていきます。楽しみながら、力を伸ばしていきましょう。

令和5年度シラバス (国語)

学番61 新潟県立柏崎高等学校

教科(科目)	国語(論理国語)	単位数	2単位	学年(コース)	2学年
使用教科書	数研出版『論理国語』				
副教材等	数研出版『プレミアムカラー 国語便覧』、いっぴいな書店『現代文単語』、尚文出版『品詞別 頻出漢字マスター3000』、尚文出版『新成現代文2』				

1 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 指導の重点

- ① 語句の意味、用法を理解し、語彙を豊かにすることで、論理的な文章の話題や筆者の主張、論拠を的確にとらえられるようになること。
- ② 人間、社会、自然など専門性の高いテーマの背景を知ること、筆者と問題意識を共有し、自分なりの問題意識や考えを持つようになること。
- ③ 自らの考えを論理的に組み立て整理し、深みと説得力のある文章で表現できるようになること。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉が持つ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。</li> </ul>

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査、小テストの分析 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査、小テストの分析 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査、小テストの分析 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。
評価方法	内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとめりごとの評価基準は授業で説明します。		



5 学習計画						
月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の 観点	評価方法
4	逆説	5 A、B	清岡卓行 「手の変 幻」 【ズームア ップ】芸術 作品の「多 面性」	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。</li> <li>文章の内容や解釈を評価し、自分の考えを深める。</li> <li>筆者の主張を読み解き、学習課題に沿って要旨をまとめようとしている。</li> </ul>	a  b  c	ワークシート (記述の確認)  ワークシート (記述の点検)  課題プリント (行動の確認)
5	逆説	6 A、B	内田樹 「胆力につ いて」	<ul style="list-style-type: none"> <li>語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。</li> <li>筆者の逆説的な言説を理解したうえで、異なる事例を考え、表現する。</li> <li>学習課題に沿って積極的に慣用表現について調べ、理解を深めようとしている。</li> </ul>	a  b  c	ワークシート (記述の確認)  ワークシート (記述の点検)  課題プリント 発表の様子 (行動の確認)
	具体と抽 象	5 A、B	上田紀行 「内的成 長」社会へ 【ズームア ップ】資本 主義と本当 の「豊か さ」	<ul style="list-style-type: none"> <li>哲学的な意味を持つ語句について、その内容を理解する。</li> <li>現代日本社会における「中間社会」の現状と課題を読み解く。</li> <li>筆者の主張を読み解き、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。</li> </ul>	a  b  c	ワークシート (記述の確認)  ワークシート (記述の確認)  課題プリント (行動の確認)
6	言葉と創 造	5 A、B	外山滋比古 「添削の思 想」	<ul style="list-style-type: none"> <li>「添削」の役割について理解する。</li> <li>「添削」「推敲」についての筆者の考えと、近代芸術の問題点の内容を捉える。</li> <li>筆者の意見を参考にしながら、積極的に根拠や具体例を用いて文章を構成し、学習課題に沿って自分の意見をまとめようとしている。</li> </ul>	a  b  c	ワークシート (記述の確認)  ワークシート (記述の確認)  課題プリント (行 動の確認)
7	期末考査				a、 b	
8 9	近代と現 代の視点	6 A、B	岩井克人 「未来世代 への責任」 【ズームア ップ】地球環 境問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>主張とその前提や反証など情報と情報の関係について理解を深めている。</li> <li>人間、社会、自然などについて文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結びつけて、新たな観点から自分の考えを深めている。</li> <li>筆者の考えを踏まえて自分の意見を書こうとしている。</li> </ul>	a  b  c	ワークシート (記述の確認)  ワークシート (記述の確認)  発表や意見交換の 様子 (行動の確認)

9	近代と現代の視点	6 A、B	村上陽一郎 「科学・技術の歴史の中での社会」 【ズームアップ】近代科学の功罪	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主張と論拠など情報と情報との関係について理解を深めている。</li> <li>・科学・技術の歴史を読解し、『道具』としての意味合いを持った科学の内容を的確に捉えている。</li> <li>・科学と社会との関わりについて自分の考えを深めようとしている。</li> </ul>	a b c	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の確認) 課題プリント (行動の確認)
10	情報と社会	6 B	多木浩二 「消費されるスポーツ」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文中の比喩表現や強調表現の内容を理解している。</li> <li>・本文の内容をWEB記事の内容と関連づけて考察している。</li> <li>・筆者の考えを的確に理解したうえで、話し合おうとしている。</li> </ul>	a b c	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の確認) 発表や意見交換の様子 (行動の確認)
11	言葉と思考	8 A、B	野矢茂樹 「日本語は非論理的か」 【ズームアップ】日本文化を理解する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者が言葉の使い方について「論理的」「非論理的」と表現する内容を理解している。</li> <li>・文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるように工夫している。</li> <li>・課題テーマについて自分の考えを深め、学習課題に沿って適切にまとめようとしている。</li> </ul>	a b c	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の点検) 課題プリント (行動の確認)
12	期末考査				a、 b	
12	文章の背景	8 A、B	藤田省三 「安楽」への全体主義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。</li> <li>・人々の精神状態を「安楽の隷属」と表現する筆者の意図を読み取る。</li> <li>・現代社会の状況を分析し、文章構成を工夫して自分の意見を述べようとしている。</li> </ul>	a b c	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の点検) 課題プリント (行動の確認)
2	文章の背景	9 A、B	【探究の扉】 夏目漱石「現代日本の開化」・北川扶生子「漱石が生きた時代」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。</li> <li>・関連する文章を比較して読み、書き手の立場や目的を考えながら内容を解釈する。</li> <li>・時代背景が人間や作品に与える影響について考え、適切にまとめようとしている。</li> </ul>	a b c	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の点検) 課題プリント (行動の確認)
	学年末考査				a、 b	

計64時間 (55分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A 「書くこと」 23 時間	B 「読むこと」 41 時間
-----------------	----------------	----------------

※ 増単している場合は、増単した割合に応じた授業時数を確保すること。

## 6 課題・提出物等

- ・朝学習では『現代語単語』の小テストに取り組み、当日提出することとなります。
- ・週末課題は『新成現代文2』を中心に組み、週明けに提出することとなります。
- ・長期休業中の課題、休み明けの課題考査の範囲は別途指示します。
- ・定期考査の範囲は、教科書、『新成現代文2』『頻出漢字マスター3000』から主に出題します。

## 7 担当者からの一言

「論理国語」は、実社会において必要となる、論理的に書いたり批判的に読んだりする資質・能力を育成する科目です。論理的な文章の読解を通して、物事を筋道立てて説明する力を身に付けていきましょう。「論理国語」で身に付けた力は皆さんの生涯に役立ちます。授業を通して、力をつけていきましょう。

令和4年度シラバス (国語)

学番61 新潟県立柏崎高等学校

教科(科目)	国語(古典探究)	単位数	2単位	学年(コース)	2学年
使用教科書	数研出版『高等学校古典探究』				
副教材等	数研出版『読解をたいせつにする要点プラス 体系古典文法 改訂版』 数研出版『改訂版 古典文法要点整理ノート』 尚文出版『構造から読み解くこれからの漢文』 いいずな書店『わかる・読める・解ける Key&Point 古文単語 330 三訂版』 尚文出版『新成古典大学入学共通テスト対策 新装版』 数研出版『プレミアムカラー国語便覧』				

1 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 指導の重点

次の項目を指導の重点とする。

- ・ 古典を読むことを通して、筆者の主張や人物、情景、心情などを的確にとらえ、表現を味わうこと。
- ・ 古典作品を鑑賞することで、我が国の言語文化に対する理解を深め、必要とされる知識や教養を身につけること。
- ・ 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、自らの表現力に深みを持たせるようにすること。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。	・ 「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに創造したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	・ 言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉が持つ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで古典に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査、小テストの分析 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査、小テストの分析 ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

5 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観 点	評価方法
4	古文：説話	4 A	大江山 (十訓抄)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。</li> <li>・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現について評価している。</li> <li>・積極的に説話が示す教訓性について考察し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。</li> </ul>	a  b  c	授業の取り組み姿勢 テキストの音読 応答と発問 予習・復習と課題の提出 ノートの整理 意見発表の意欲と的確さ 小テスト・定期考査の成績 ワークシート 等
	漢文：故事	2 A	画竜点睛 (歴代名画記)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解している。</li> <li>・「読むこと」において、古典の作品や文章を多面的、多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。</li> <li>・朗読から受ける印象の違いを話し合う活動において、積極的に話し合いに参加している。</li> </ul>	a  b  c	授業の取り組み姿勢 テキストの音読 応答と発問 予習・復習と課題の提出 ノートの整理 意見発表の意欲と的確さ 小テスト・定期考査の成績 ワークシート 等
5	古文：随筆	3 A	ゆく河の流れ (方丈記)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現について理解を深めている。</li> <li>・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典の特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。</li> <li>・進んで作品内容を解釈し、学習課題に沿って作者の考えを説明しようとしている。</li> </ul>	a  b  c	授業の取り組み姿勢 テキストの音読 応答と発問 予習・復習と課題の提出 ノートの整理 意見発表の意欲と的確さ 小テスト・定期考査の成績 ワークシート 等
	中間考査				a、b	
5	古文：随筆	4 A	あだし野の露 (徒然草)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。</li> <li>・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。</li> <li>・主体性をもって作品内容を解釈し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。</li> </ul>	a  b  c	授業の取り組み姿勢 テキストの音読 応答と発問 予習・復習と課題の提出 ノートの整理 意見発表の意欲と的確さ 小テスト・定期考査の成績 ワークシート 等



6 7	漢文：史伝	1 2 A	鴻門之 会・四面 楚歌（史 記）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。</li> <li>・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典の特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。</li> <li>・本文から読み取った項羽や劉邦の人物像を踏まえて、作中の行動の経緯・理由を粘り強く考察し、主体性を持って話し合いに参加しようとしている。</li> </ul>	a  b  c	授業の取り組み姿勢 テキストの音読 応答と発問 予習・復習と課題の提出 ノートの整理 意見発表の意欲と的確さ 小テスト・定期考査の成績 ワークシート 等
	期末考査				a、b	
8	古文：日記文学	5 A	「東路の 道の果 て」（更 級日記）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。</li> <li>・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典の特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。</li> <li>・積極的に作者の心情をとらえ、学習の見通しをもって自分の考えを説明しようとしている。</li> </ul>	a  b  c	授業の取り組み姿勢 テキストの音読 応答と発問 予習・復習と課題の提出 ノートの整理 意見発表の意欲と的確さ 小テスト・定期考査の成績 ワークシート 等
9	古文：物語	6 A	「光源氏 誕生」 （源氏物 語）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。</li> <li>・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結びつけ、考えを広げたり深めたりしている。</li> <li>・登場人物の心情とそこから浮かび上がる人物像について粘り強く考察し、今までの学習を生かして話し合いに参加しようとしている。</li> </ul>	a  b  c	授業の取り組み姿勢 テキストの音読 応答と発問 予習・復習と課題の提出 ノートの整理 意見発表の意欲と的確さ 小テスト・定期考査の成績 ワークシート 等
	中間考査				a、b	
10	古文：物語	6 A	「光源氏 誕生」 （源氏物 語）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。</li> <li>・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結びつけ、考えを広げたり深めたりしている。</li> <li>・登場人物の心情とそこから浮かび上がる人物像について粘り強く考察し、今までの学習を生かして話し合いに参加しようとしている。</li> </ul>	a  b  c	授業の取り組み姿勢 テキストの音読 応答と発問 予習・復習と課題の提出 ノートの整理 意見発表の意欲と的確さ 小テスト・定期考査の成績 ワークシート 等

11 12	漢文：思想	10 A	「論語」 「孟子」 「老子」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、読書の意義と効用について理解を深めている。</li> <li>・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結びつけ、考えを広げたり深めたりしている。</li> <li>・諸子百家の文章から現代に通じる考え方を粘り強く見だし、積極的に文章に表そうとしている。</li> </ul>	b  b  c	授業の取り組み姿勢 テキストの音読 応答と発問 予習・復習と課題の提出 ノートの整理 意見発表の意欲と的確さ 小テスト・定期考査の成績 ワークシート 等
	期末考査				a、b	
1 2	古文：物語	12 A	「小柴垣のもと」 (源氏物語)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。</li> <li>・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典の特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。</li> <li>・積極的に登場人物の行動や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。</li> </ul>	a  b  c	授業の取り組み姿勢 テキストの音読 応答と発問 予習・復習と課題の提出 ノートの整理 意見発表の意欲と的確さ ワークシート等
	学年末考査					

計64時間 (55分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの	A 「読むこと」
授業時数合計	64 時間

※ 増単している場合は、増単した割合に応じた授業時数を確保すること。

6 課題・提出物等

- ・週末課題は『新成古典』を中心に取り組み、週明けに提出することとなります。
- ・長期休業中の課題、休み明け課題考査の範囲は別途指示します。
- ・定期考査の範囲は教科書、『新成古典』、『改訂版 古典文法要点整理ノート』から主に出題します。

7 担当者からの一言

「古典探究」は、古典を中心に学習する科目です。古典などを「読むこと」を通して、我が国の言語文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めると同時に、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響についても理解を深めていきましょう。そして、先人たちのものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分の中に脈打っているものを再発見していきましょう。

令和5年度シラバス (国語)

学番61 新潟県立柏崎高等学校

教科(科目)	国語(文学国語)	単位数	2単位	学年(コース)	2学年 (普通科文系)
使用教科書	数研出版『文学国語』				
副教材等	数研出版『プレミアムカラー 国語便覧』、いっぴいな書店『現代文単語』、尚文出版『品詞別 頻出漢字マスター3000』、尚文出版『新成現代文3ステップオリジナル問題集2』				

1 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- (2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 指導の重点

次の項目を指導の重点とする。

- ・ 文学的な文章を読むことを通して、人物、情景、心情などを的確にとらえ、表現を味わうこと。
- ・ 我が国の近代以降の文学作品を鑑賞することで、我が国の言語文化に対する理解を深め、必要とされる知識や教養を身につけること。
- ・ 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、自らも表現できるようにすること。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉が持つ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。</li> </ul>

4 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期考査、小テストの分析</li> <li>・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認</li> </ul> などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期考査、小テストの分析</li> <li>・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察</li> <li>・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認</li> </ul> などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察</li> <li>・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認</li> </ul> などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

## 5 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の 観点	評価方法
4 5	文学の扉	1 2 A、B	中島敦 「山月記」	<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。</li> <li>「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。</li> <li>人間が虎になるという設定の効果について粘り強く考察し、これまでの学習を生かして考えようとしている。</li> </ul>	a  b  c	ワークシート (記述の確認)  ワークシート (記述の点検)  課題プリント (行動の確認)
6	昭和後期の小説	1 0 B	井上ひさし 「ナイン」  【ズームアップ】 大衆が支持した文学	<ul style="list-style-type: none"> <li>情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増やし、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</li> <li>「読むこと」において、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。</li> <li>登場人物の心情と行動の関連性について粘り強く考察し、これまでの学習を生かして考えようとしている。</li> </ul>	a  b  c	ワークシート (記述の確認)  ワークシート (記述の点検)  課題プリント 発表の様子 (行動の確認)
	期末考査				a、 b	
7 8	平成の小説	6 A、B	原田マハ 「無用の人」  【ズームアップ】 平成期における女性作家の活躍	<ul style="list-style-type: none"> <li>情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増やし、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</li> <li>「読むこと」において、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。</li> <li>「無用の人」という題名の意味について粘り強く考察し、これまでの学習を生かして考えようとしている。</li> </ul>	a  b  c	ワークシート (記述の確認)  ワークシート (記述の確認)  レポート (記述の点検)
9 10 11	大正の小説	2 2 A、B	夏目漱石 「こころ」	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。</li> <li>「読むこと」において、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。</li> <li>作品の主題を粘り強く考察し、これまでの学習を生かして話し合おうとしている。</li> </ul>	a  b  c	ワークシート (記述の確認)  ワークシート (記述の確認)  発表や意見交換の様子 (行動の確認)
	期末考査				a、 b	

12		6 A, B	井伏鱒二 「山椒魚」	<p>・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。</p> <p>・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。</p> <p>・考えを整理して山椒魚の考え方や行動に対する感想を述べ、これまでの学習を生かして話し合おうとしている。</p>	a b c	<p>ワークシート (記述の確認)</p> <p>ワークシート (記述の確認)</p> <p>発表や意見交換の様子 (行動の確認)</p>
1 2	文学評論	8 B	安藤宏 「演技する『私』」  【ズームアップ】 文学とはいかなるものぞー文学評論のねらい	<p>・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。</p> <p>・「読むこと」において、他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。</p> <p>・作品の主題を粘り強く考察し、これまでの学習を生かして話し合おうとしている。</p>	a b c	<p>ワークシート (記述の確認)</p> <p>ワークシート (記述の確認)</p> <p>発表や意見交換の様子 (行動の確認)</p>
	期末考査				a、 b	

計64時間 (55分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A「書くこと」 14 時間	B「読むこと」 50 時間
-----------------	------------------	------------------

※ 増単している場合は、増単した割合に応じた授業時数を確保すること。

6 課題・提出物等

- ・朝学習では「論理国語」と併せて『現代文単語』の小テストに取り組み、当日提出することとなります。
- ・週末課題は「論理国語」と併せて『新成現代文2』を中心に取り組み、週明けに提出することとなります。
- ・長期休業中の課題、休み明け課題考査の範囲は別途指示します。
- ・定期考査の範囲は教科書、『新成現代文2』、『頻出漢字マスター3000』から主に出題します。

7 担当者からの一言

「文学国語」は、近代以降の文学的文章を中心に学習する科目です。文学的文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めると同時に、作者の世界観に深く共感したり豊かに想像したりして、感性や情緒を育てていきましょう。そして、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあるということを理解し、語感を磨き語彙を豊かにしていきましょう。



教科(科目)	国語(現代文B)	単位数	4	学年(コース)	3学年 普通科(文系)
使用教科書	新 探求現代文B(桐原書店)				
副教材等	新 探求現代文B予習復習ノート(桐原書店)、プレミアムカラー国語便覧(数研出版) 五訂版 正しく読み・解くための力をつける現代文 ステップ3				

1. 学習目標

現代文を的確に理解し、かつ適切に表現する能力を育成する。更に、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

2. 指導の重点

- ・論理的な文章について、論理の展開や要旨を的確にとらえること。
- ・文学的な文章について、人物、情景、心情などを的確にとらえ、表現を味わうこと。
- ・様々な文章を読むことを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりすること。
- ・語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえること。
- ・目的や課題に応じて様々な情報を収集し活用して、進んで表現すること。

3. 評価の観点, 及び内容, 方法

評価の観点	A 関心・意欲・態度	B 話す・聞く能力	C 書く能力	D 読む能力	E 知識・理解
評価の内容	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読みだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。
評価の方法	・学習活動への参加姿勢や態度 ・ノート、課題の提出状況など	・学習活動における発言内容や態度 ・プリント、ワークシートなど	・レポート、感想文、意見文 ・ノート、プリント、ワークシート、各種課題 ・定期考査	・学習活動における発言内容 ・ノート、プリント、ワークシート、各種課題 ・定期考査	・学習活動における発言内容 ・ノート、プリント、ワークシート、各種課題 ・定期考査

4. 指導計画(55分授業)

実施時期	配当時間	教材	評価の観点				
			A	B	C	D	E
1 中間考査	14時間	評論「オブジェとイメージ」	○	○	○	○	○
		評論「言葉の〈意味〉と〈表徴〉」	○	○	○	○	○
期未考査	18時間	小説「愛のサーカス」	○	○	○	○	○
		評論「市民社会化する家族」	○		○	○	○
2 中間考査	28時間	評論「詩人のふるさと」	○	○	○	○	○
		小説「舞姫」	○	○	○	○	○
期未考査	26時間	小説「舞姫」	○	○	○	○	○
		評論「ポストモダンと排除社会」	○		○	○	○
3 学年末	14時間	評論・共通テスト演習	○			○	○
		小説・共通テスト演習	○			○	○
合計	100時間						

5. 課題・提出物など

- ・速読などの大学入試対策演習問題を授業時間内に適宜実施する。
- ・週末課題を実施し、各学期の評価対象に含める。
- ・長期休業中の課題等は別途指示する。

教科(科目)	国語(現代文B)	単位数	2	学年(コース)	3学年 普通科(理系)
使用教科書	新 探求現代文B(桐原書店)				
副教材等	新 探求現代文B予習復習ノート(桐原書店)、プレミアムカラー国語便覧(数研出版)五訂版 正しく読み・解くための力をつける現代文 ステップ3				

1. 学習目標

現代文を的確に理解し、かつ適切に表現する能力を育成する。更に、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

2. 指導の重点

- ・論理的な文章について、論理の展開や要旨を的確にとらえること。
- ・文学的な文章について、人物、情景、心情などを的確にとらえ、表現を味わうこと。
- ・様々な文章を読むことを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりすること。
- ・語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえること。
- ・目的や課題に応じて様々な情報を収集し活用して、進んで表現すること。

3. 評価の観点、及び内容、方法

評価の観点	A 関心・意欲・態度	B 話す・聞く能力	C 書く能力	D 読む能力	E 知識・理解
評価の内容	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読みだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。
評価の方法	・学習活動への参加姿勢や態度 ・ノート、課題の提出状況など	・学習活動における発言内容や態度 ・プリント、ワークシートなど	・レポート、感想文、意見文 ・ノート、プリント、ワークシート、各種課題 ・定期考査	・学習活動における発言内容 ・ノート、プリント、ワークシート、各種課題 ・定期考査	・学習活動における発言内容 ・ノート、プリント、ワークシート、各種課題 ・定期考査

4. 指導計画(55分授業)

実施時期	配当時間	教材	評価の観点				
			A	B	C	D	E
1 中 考 期 末 考 査	8時間	評論「オブジェとイメージ」	○	○	○	○	○
	9時間	小説「愛のサーカス」	○	○	○	○	○
2 中 考 期 末 考 査	16時間	評論「詩人のふるさと」	○	○	○	○	○
	12時間	評論「ポストモダンと排除社会」	○	○	○	○	○
3 学 年 末	7時間	評論・センター演習	○	○	○	○	○
		小説・センター演習	○	○	○	○	○
合 計	52時間						

5. 課題・提出物など

- ・速読などの大学入試対策演習問題を授業時間内に適宜実施する。
- ・週課題を実施し、各学期の評価対象に含める。
- ・長期休業中の課題等は別途指示する。

教科(科目)	国語(古典B)	単位数	3	学年(コース)	3学年 普通科
使用教科書	改訂版 高等学校 古典B 古文編・漢文編(数研出版)				
副教材等	改訂版古典B古文編準拠ワーク・改訂版古典B漢文編準拠ワーク(数研出版), 読解をたいせつにする要点プラス体系古典文法(数研出版), 読解をたいせつにする要点プラス体系古典文法準拠ノート(数研出版), 改訂版体系漢文(数研出版), 完全頻度順入試対策ベストセレクション古文単語325[改訂版](尚文出版), 新演習 古典アチーブ3 三訂新版(桐原書店)				

1. 学習目標

国語を的確に理解し、適切に表現する能力を育成し、伝え合う力を高める。更に、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。  
 古典を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方をより深め、古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を育てる。

2. 指導の重点

- ・古文や漢文に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解すること。
- ・文章や作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえること。
- ・文章や作品に表れた思想や感情を読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。
- ・文章や作品の表現上の特色を理解し、優れた表現に親しむこと。
- ・古典を読んで、日本文化の特質や日本文化と中国文化の関係について考えること。

3. 評価の観点、及び内容、方法

評価の観点	A関心・意欲・態度	B話す・聞く能力	C書く能力	D読む能力	E知識・理解
評価の内容	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。
評価の方法	・学習活動への参加姿勢や態度 ・ノート、プリント、ワークシート、各種課題	・学習活動における発言内容や態度 ・プリント、ワークシート	・レポート・感想文、意見文など ・ノート、プリント、ワークシート、各種課題 ・定期考査	・学習活動における発言内容や態度 ・ノート、プリント、ワークシート、各種課題 ・定期考査	・学習活動における発言内容 ・ノート、プリント、ワークシート、各種課題 ・定期考査

4. 指導計画(55分授業)

実施時期	時間	教材	評価の観点				
			A	B	C	D	E
1 中間考査	12時間	古文 随筆 枕草子 「二月つごもりごろに」	○	○	○	○	○
		漢文 逸話 呂氏春秋 「知音」	○	○		○	○
		漢文 逸話 後漢書 「梁上君子」	○		○	○	○
期 末 考 査	18時間	古文 日記 蜻蛉日記 「うつろひたる菊」	○	○		○	○
		漢文 小説 本事詩 「人面桃花」	○			○	○
2 中間考査	20時間	古文 物語 大鏡 「南院の競射」	○	○	○	○	○
		古文 物語 大鏡 「貫之と躬恒」	○		○	○	○
		漢文 随筆 埤田録 「売油翁」	○	○	○	○	○
期 末 考 査	20時間	古文 評論 無名草子 「文」	○	○	○	○	○
		古文 評論 去来抄 「行く春を」	○			○	○
		漢文 史伝 史記 「廉頗・藺相如」	○	○		○	○
3 学年末考査	35時間	共通テスト対策演習	○			○	○
合計	105時間						

5. 課題・提出物など

- ・授業時間内に適宜、速読や小テストを実施する。
- ・週課題を実施し、各学期の評価に含める。
- ・長期休業中の課題は別途指示する。

## 令和 5 年度シラバス (国語科)

学番 6 1 新潟県立柏崎高等学校

教科(科目)	国語(国語表現)	単位数	2 単位	学年(コース)	3 学年(文系選択)普通科
使用教科書	国語表現(大修館書店)				
副教材等	プレミアムカラー国語便覧(教研出版)				

### 1 学習目標

国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。

### 2 指導の重点

- ・自分の考えをもち論理的に意見を述べたり,相手の考えを尊重して話し合ったりすること。
- ・情報を収集,整理し,正確かつ簡潔に伝える文章にまとめること。
- ・目的や場に応じて,言葉遣いや文体など表現を工夫して話したり書いたりすること。
- ・様々な表現についてその効果を吟味し,自分の表現や推敲に役立てること。
- ・国語の表現の特色,語句や語彙の成り立ち及び言語の役割について理解を深めること。
- ・論理的思考をもとに,論說的文章を深く読解すること。

### 3 指導計画(1 単位時間 55 分)

1	期末 27h	<p>1 書いて伝える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図や写真を見て文章を書き,相手に伝わることを意識してわかりやすい文章を書く。</li> <li>・意見を筋道を立てて小論文の基本的な書き方を理解する。</li> <li>・原稿用紙の使い方や推敲の観点を理解する。</li> <li>・問題演習</li> </ul>
2	期末 36h	<p>2 声でのコミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ことばと人間(ことばの性質を知る・単語の由来を探る)</li> <li>・現代社会に関する文章や資料を読み取り,自分の意見をまとめる。</li> <li>・話すことの順序を考えて,わかりやすいショートスピーチをする。</li> <li>・話し手が話しやすい聞き方をする。</li> <li>・問題演習</li> </ul>
3	学年末 7h	<p>3 総合演習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表(会話の目的と機能・意思決定,合意形成のための会議,グループプレゼンテーションを体験する)</li> <li>・問題演習</li> </ul>
		2 単位 64h (55 分授業)

#### 4 課題・提出物など

- ・定期考査のほか、授業における作業課題を評価の対象とします。
- ・週課題や長期休業中の課題はありません。授業に集中して取り組みましょう。

#### 5 評価規準と評価方法

評価の観点は次のとおりです	
関心・意欲・態度	進んで自分の意見や考えが表現でき、自分から学習しようとしている。 論理的に考え、表現しようとしている。
話す・聞く能力	自分の意見を相手にわかりやすいように組み立てたり、相手の話を的確に聞き取っている。
書く能力	自分の考え適切に文章として表現できる。
読む能力	積極的に読書に親しみ、様々な文章を読んでいる。
知識・理解	文章の構成や表現方法などを理解し身につけている。
以上の観点を踏まえ、次のものによって総合的に評価します ・授業の取り組み(授業態度、学習活動への参加状況) ・課題提出の内容 ・定期考査	



令和5年度 シラバス (公民) 学番61 新潟県立柏崎高等学校

教科 (科目)	公民 (公共)	単位数	2 単位	学年	1 学年
教科書	第一学習社『高等学校 公共』				
副教材	東京法令出版『フォーラム公共2023』東京法令出版『ニューコンパ スト公共2023』				

1 学習目標

人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ・現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ・現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。
- ・よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

2 指導の重点

- ・今日の日本および国際社会で発生する事象や諸問題と基本原理・基本理論とのかかわりについて理解できるようになること。
- ・現代の日本社会・国際社会が直面する諸課題について、望ましい解決のあり方を積極的に考察。
- ・特に経済分野については、統計資料やグラフ資料の分析力を高める。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養おうとしている。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深めようとしている。

#### 4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査の内容の確認  などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査、授業中の取組の観察、レポートなどの内容の確認  などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 授業中の取組の観察、レポートなどの内容の確認、提出物の状況  などから、評価します。

#### 5 学習計画

月	単元	学習内容	時間	評価の観点と評価方法
4	第1編 公共の扉 第1章 公共的な空間をつくる私たち	・ 社会に参画する自立した主体とは、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることを学ぶ。 ・ 公共的な空間において社会に参画する自立した主体となるために、何を考え行動すればよいかを理解する。	4	【1学期】 ab定期考査 abcレポート (記述の確認) c授業での取り組み、提出物の状況 (行動の確認)
5	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方	・ 古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、社会に参画する際の選択・判断するための手がかりとなる概念や理論を理解する。	4	
6	第3章 公共的な空間における基本的原理	・ 人権保障のあゆみや世界の政治体制、日本国憲法などを通して、公共的な空間における基本原理が、現代社会でどのような形で生かされているかを理解する。	8	
7	第2編	・ 安全で豊かに生き、法をよりよいものにするための権利や、それを実現するための法・規範を理解する。	8	
8	自立した主体としてのよりよい社会の形成に参画する私たち	・ なぜ裁判所が必要なのか、司法権の独立や裁判所のしくみ、最高裁判所の違憲審査権から理解する。	8	
9	第1章 法的な主体となる私たち	・ 選挙の意義や課題、世論の形成や政党の役割を理解する。主権者である国民と国会・内閣の関係を理解する。 ・ 主権国家が並び立つ国際社会は、どの	8	
10	第2章 政治的な主体となる私たち		8	【2学期】
11				

		ように成り立っているのかを理解する。 ・経済の基本的なしくみを理解し、経済的意思決定が将来の選択に役立つことを理解する。 ・第二次世界大戦後から現代までの日本経済のあゆみと、現代の経済の課題を理解する。	6	ab定期考査 abcレポート (記述の確認) c授業での取り組み、提出物の状況 (行動の確認)
1	第3章 経済的な主体となる私たち	・公正で自由な経済活動を通して、市場が効率的な資源配分を実現できるしくみを理解する。 ・経済において金融市場はどのような役割を果たしているかを理解する。 ・少子高齢化がすすむ中で、財政や社会保障を持続可能なものにするために、政府はどのような役割を果たしていくべきかを理解する。	4	【3学期】 ab定期考査 abcレポート (記述の確認) c授業での取り組み、提出物の状況 (行動の確認)
2		・経済がグローバル化していく中で、貧困や格差などの問題を乗り越え、すべての人が幸福に暮らすためにどうあるべきか考える。	4	
3	第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち	・持続可能な地域・国家・社会及び国際社会づくりに向けた役割を担う、公共の精神をもった自立した主体となることに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、現代の諸課題を探究する。	6	

計64時間 (55分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A 第1編 公共の扉 16 時間	B 第2編 自立した主体としてのよりよい社会の形成に参画する私たち 30 時間	C 第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち 18 時間
-----------------	---------------------	--	------------------------------------

※ 増単している場合は、増単した割合に応じた授業時数を確保すること。

6 課題と提出物

<ul style="list-style-type: none"> <li>・每学期各2回程度のレポート提出とワークの提出。</li> </ul>
--

7 担当者から一言

<ul style="list-style-type: none"> <li>・現実に社会で起きている事象に目を向け、関心を高めよう。</li> <li>・授業に集中し、わからないところはどんどん質問しよう。</li> <li>・興味のあるテーマについては、新書などを読み、理解と考察を深めよう。</li> </ul>
---

## 令和5年度 シラバス (地歴)

学番61 新潟県立柏崎高等学校

教科 (科目)	地理歴史 (歴史総合)	単位数	2 単位	学年	1 学年
教科書	山川出版社『歴史総合 近代から現代へ』				
副教材	浜島書店『新詳 歴史総合』 山川出版社『歴史総合 近代から現代へ ノート』				

### 1 学習目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

### 2 指導の重点

- ・今日の日本および国際社会で発生する事象や諸問題と基本原理・基本理論とのかかわりについて理解できるようになること。
- ・現代の日本社会・国際社会が直面する諸課題について、望ましい解決のあり方を積極的に考察。
- ・特に経済分野については、統計資料やグラフ資料の分析力を高める。

### 3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識：近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。 技能：諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

### 4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	知識：近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。 技能：諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査の内容の確認  などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査、授業中の取組の観察、レポートなどの内容の確認  などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 授業中の取組の観察、レポートなどの内容の確認、提出物の状況  などから、評価します。

## 5 学習計画

月	単元	学習内容	時間	評価の観点と評価方法
4	第1部 近代化と私たち 第1章 結びつく世界	<ul style="list-style-type: none"> <li>・18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、18世紀のアジアの経済と社会を理解する。</li> <li>・ヨーロッパで成立した主権国家と主権国家体制について、その特徴を理解し、ヨーロッパ人の海外進出について理解し、その影響について考察する。</li> </ul>	3	<b>【1学期】</b> ab定期考査 abcレポート (記述の確認) c授業での取り組み、提出物の状況 (行動の確認)
5	第2章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業革命と交通・通信手段の革新、中国の開港と日本の開国などを基にアジア諸国と欧米諸国との関係の変容を考察し、工業化と世界市場の形成を理解する。</li> <li>・18世紀前半のウィーン体制のもとで、政治体制はどのように変化していったか理解する。</li> <li>・18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向などを基に、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを考察し、立憲体制と国民国家の形成を理解する。</li> <li>・アメリカ合衆国の発展、ラテンアメリカ諸国の独立、西アジアの変容、南アジア・東南アジアの植民地化について理解する。</li> </ul>	10	
6	第3章 明治維新と日本の立憲体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定、明治初期の対外関係、自由民権運動の展開と立憲体制の成立を基に明治新政府がどのような国家の在り方を目指して改革を進めたかを理解する。</li> </ul>	7	
7	第4章 帝国主義の展開とアジア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争などを基に帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容を考察し、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。</li> <li>・産業革命によって日本の経済と社会は、どのように変わったのか考察する。</li> </ul>	8	<b>【2学期】</b> ab定期考査 abcレポート (記述の確認) c授業での取り組み、提出物の状況 (行動の確認)
8, 9	第5章 8 第一次世界大戦と大衆社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソ連の成立とアメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に、第一次世界大戦の性格と惨禍、社会主義革命の意味や影響、第一次世界大戦後の国際協調体制の特徴などを考察する。</li> <li>・大衆の政治参加と女性の地位向上、政党政治、大量消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達などを基に、大衆社会の形成と社会運動との関連を考察し、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解する。</li> </ul>	12	
10	第6章 6 経済危機と第二次世界大戦	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界恐慌、ファシズムの伸長、日本の対外政策、第二次世界大戦の勃発などを基に、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを考察し、国際協調体制の動揺や第二次世界大戦勃発の背景に関する事柄を理解する。</li> </ul>	8	
11				



12	第7章 5 戦後の国際秩序と日本の改革	・第二次世界大戦後の、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを基に、第2次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。	4	【3学期】 ab定期考査 abcレポート (記述の確認) c授業での取り組み、提出物の状況 (行動の確認)
1	第8章 10 冷戦と世界経済	・脱植民地化とアジア・アフリカ諸国、冷戦下の地域紛争、先進国の動向、軍備拡張や核兵器の管理などを基に、地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソ連の政策転換の容認などを多面的・多角的に考察し、国際政治の変容を理解する。	8	
2	第9章 5 グローバル化する世界	・石油危機、アジアの諸地域の経済発展、冷戦の終結などを基に市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割を考察し、市場経済の変容と課題を理解する。 ・民主化の進展、地域統合の拡大と変容、市場開放と経済の自由化、情報通信技術の発展、地域紛争の拡散とそれへの対応などを基に冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解する。	4	

計64時間 (55分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A 第1部 近代化と私たち 28 時間	B 第2部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 24 時間	C 第3部 グローバル化と私たち 12 時間
-----------------	---------------------------	-----------------------------------	------------------------------

※ 増単している場合は、増単した割合に応じた授業時数を確保すること。

6 課題と提出物

・毎学期各2回程度のレポート提出やワークの提出など。

7 担当者から一言

・歴史的事象を暗記するのではなく、近現代の歴史の変化に関わる事象について学ぶことで、現在を生きる私たちがよりよい社会を実現するために何を考え、どう行動していくことが大切なのか主体的に学習に取り組んでみよう。  
・授業に集中し、わからないところはどんどん質問しよう。  
・興味のあるテーマについては、書籍などを読み、理解と考察を深めよう。



令和5年度 シラバス (地歴) 学番61 新潟県立柏崎高等学校

教科 (科目)	地理歴史 (地理総合)	単位数	2 単位	学年	2 学年
教科書	二宮書店『地理総合 世界に学び地域へつなぐ』 二宮書店『詳解現代地図』				
副教材	第一学習社『最新地理図表 GEO』				

1 学習目標

社会的事象に関して、地理的な知識の獲得や地図や地理情報システムを用いて情報を収集する技能を習得し、さらに地理的課題の解決に向けて考察し、説明する活動を通じて、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

2 指導の重点

- ・今日の日本および国際社会で発生する事象や諸問題と基本原理・基本理論とのかかわりについて理解できるようになること。
- ・現代の日本社会・国際社会が直面する諸課題について、望ましい解決のあり方を積極的に考察。
- ・特に経済分野については、統計資料やグラフ資料の分析力を高める。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識：地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解する。 技能：地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	知識：地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解する。 技能：地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査の内容の確認  などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査、授業中の取組の観察、レポートなどの内容の確認  などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 授業中の取組の観察、レポートなどの内容の確認、提出物の状況  などから、評価します。

## 5 学習計画

4	第1章 地図とGISの活用 1 球面上の世界  2 世界から見た日本の位置と領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>地球上の位置情報の基礎として、球体としての地球、緯度・経度の基本的なしくみ、地球上での位置の示し方を理解する。</li> <li>経度の違いから時差の概念を捉え、日常生活における時差計算の技能を身につけ、球面として成り立つ世界認識をもつ。</li> <li>図法によって異なる世界地図の特色を捉え、スケール、視点、図法などを変化させながら、世界における日本の位置を理解する。</li> <li>グローバルな立場から日本の領域を理解するために、国境や国家の領域の世界的な基準を捉えながら、日本が抱える周辺諸国間との領有権の問題や海洋資源の利用について考える。</li> </ul>	4	<p>【1学期】</p> <p>ab定期考査 abcレポート (記述の確認) c授業での取り組み、提出物の状況 (行動の確認)</p> <p>【2学期】</p> <p>ab定期考査 abcレポート (記述の確認) c授業での取り組み、提出物の状況 (行動の確認)</p>
5	3 国内や国家間の結びつき  4 暮らしのなかの地図とGIS	<ul style="list-style-type: none"> <li>グローバル化が進む世界において、国家間の協調や不均衡を理解するために、世界の実態を捉えるための道具としての統計地図やグラフのつくり方を理解する。</li> <li>交通・通信、貿易・物流、観光の視点から、人やもの、情報、資本・サービスの移動のようすについて、統計地図やグラフなどの資料から読み取る技能を身につける。</li> <li>グローバルな視点から持続可能な社会の形成のために、資料を根拠として示しながら課題解決のための方策を多面的・多角的に考える。</li> <li>身近な地図を集め、それらの地図の特徴を捉え、地図情報の有用性を理解する。</li> <li>地図情報を活用する方法として、紙地図と電子地図としてのGISがあることを理解し、地理院地図や地形図を通して認識する。</li> <li>GISが日常生活にも利用されている事例を捉え、大量の地理情報を処理できるGISの特徴や利用方法、そのしくみについて理解する。</li> <li>GISで作成した地図を重ね合わせ、地域の特徴を分析する方法と技能を身につける。</li> </ul>	6	<p>c授業での取り組み、提出物の状況 (行動の確認)</p> <p>【3学期】</p> <p>ab定期考査 abcレポート (記述の確認) c授業での取り組み、提出物の状況 (行動の確認)</p>
6	第2章地理的環境の特色 1 地形と生活文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の大地形の広がりプレートテクトニクスにもとづくプレート境界と関連し、変動帯に位置する場所では山岳地域や高原を形成し、地震あるいは場所によって火山を伴うことを理解する。</li> <li>河川、海岸などの外的営力による地形の形成とその広がり、およびそれらの地形と対応した人々の生活と地形を取り巻く環境の変化について、写真や地形図などの資料を通して考える。</li> </ul>	6	
7	2 気候と生活文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界的な視野から大気や海流が循環するしくみを捉え、地球上ではそれらの影響を反映した気候の地域性が生まれていることを理解する。</li> <li>降水量と気温の特徴をふまえながら世界の気候をケッペンの気候区分から捉え、植生や農業などの人々の生活文化に多様な影響を与えていることを理解する。</li> <li>熱帯、乾燥帯、温帯、亜寒帯、寒帯の各気候は人々の生活文化とどのような関わりをもつのか、どのような生活の工夫があるのか、写真や雨温図などの資料から考える。</li> </ul>	6	
8.9	3 産業と生活文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の生活文化が各地域の環境に基づいて発達する産業を基盤に成り立つ現状を捉え、世界スケールにおける第1次産業、第2次産業、第3次産業の地域的な特徴をグローバル化の観点で</li> </ul>	8	

<p>10, 11</p>	<p>4 宗教・言語と生活文化</p> <p>第3章 世界各地の生活文化</p> <p>1 経済発展と生活文化の変化 ～東アジア</p> <p>2 宗教の多様性と生活文化 ～ASEAN諸国</p> <p>3 水の恵みと生活文化 ～南アジア</p> <p>4 イスラーム社会の多様性と生活文化 ～イスラーム圏</p> <p>5 多様な気候と生活文化 ～アフリカ</p> <p>6 経済統合による生活文化の変化 ～EUと周辺諸国</p>	<p>理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産業の発達と生活文化がどのようにかかわるのか、産業はどのように変化してきているのか、主題図などの資料を通じて理解を深める。</li> <li>・世界でみられる生活文化の多様性について、宗教、言語の分布や人々との関わりを主題図や写真などの資料を通じて理解するとともに分布を示す要因について理解する。</li> <li>・世界の少数民族、移民、難民の問題を捉えながら、マイノリティなどをふまえた多様な人々に配慮し、自他の文化を尊重する社会の実現を考える。</li> <li>・社会経済システムの変化に焦点を当て、東アジアの中国と韓国を例に両国の特徴を主題図やグラフなどの資料を通じて捉える。</li> <li>・特に世界や日本、中国、韓国の3か国とのつながりから両国の経済発展の発達過程について理解し、経済発展の結果として起きている様々な問題について生活文化と対応させながら考える。</li> <li>・多民族社会と地域統合に焦点を当て、様々な言語や宗教をもつ東南アジア諸国の人々の生活文化にはどのような特色がみられるのか、主題図や写真などの資料をもとに理解する。</li> <li>・特に仏教、イスラーム、キリスト教の各文化圏における生活文化の多様性や多言語・多民族社会の様子、また豊かな資源を背景に経済発展を遂げるASEAN諸国の現状と課題について考える。</li> <li>・水資源に焦点を当て、地形、気候などの自然環境を捉えながら、水資源と宗教、農業、文化や産業の成立の関わりを主題図やグラフなどの資料を通じて理解する。</li> <li>・経済成長を背景とした水資源の課題を周辺国とのつながりから考える</li> <li>・イスラームに焦点を当て、気候条件、宗派の違い、聖地メッカからの距離、エネルギー資源の有無などを基盤とした経済水準の違いについて理解する。</li> <li>・ムスリムの生活文化に差異をもたらしている要因を主題図や写真などの資料をもとに考える。</li> <li>・社会問題の例として、パレスチナやエルサレムの問題、少数民族の問題を民族・言語の分布から理解する。</li> <li>・自然環境と生活文化の対応とその多様さに焦点を当て、モノカルチャー経済の構造は残りながらも、多様性に富む自然環境や食文化をもち、資源開発などを背景とした近年の経済成長について主題図や写真などの資料を通じて理解する。</li> <li>・経済成長や開発などを背景としたアフリカの課題を自然環境と生活文化の関わりから考える。</li> <li>・産業の発達と地域統合に焦点を当て、ヨーロッパを例に多様性と一体化をもつ産業の特徴やその歴史的背景を捉え、気候、言語・宗教の分布などを関連させながら主題図やグラフなどの資料をもとに理解する。</li> <li>・地域統合の長所とともにイギリスのEU離脱や加盟各国の移民排斥の動きの強まりなどの課題を整理する。</li> <li>・地域間格差が生じている現状を捉え、これからのヨーロッパのよりよい社会を目指して課題について考える。</li> </ul>	<p>14</p>	
---------------	--	---	-----------	--

	<p>7 寒冷な気候と生活文化 ～ロシア</p> <p>8 グローバル化による生活文化の変化 ～アメリカ・カナダ</p> <p>9 土地の開発による生活文化の形成～ラテンアメリカ</p> <p>10 植民と移民による生活文化の形成～オセアニア</p>	<p>・寒冷な自然環境に焦点を当て、ロシアを例に主題図やグラフなどの資料をもとに気候に制約を受ける農業など、自然環境と人々の生活との対応を理解する。</p> <p>・豊富な鉱物資源を背景にしたヨーロッパ諸国や日本など東アジアとの結びつきや近年の開発による自然環境への影響を考える。</p> <p>・社会経済システムのグローバル化に焦点を当て、主題図や写真などの資料を通じて、民族構成から多様な社会と歴史的背景を理解する。</p> <p>・社会経済システムのグローバル化に焦点を当て、主題図や写真などの資料を通じて、民族構成から多様な社会と歴史的背景を理解する。</p> <p>・企業的農業の発達とアメリカ合衆国の外食産業やICT産業などの多国籍企業が世界の経済や生活文化に影響を与えている現状を捉える。</p> <p>・アメリカ合衆国の貿易の問題についてグローバルな視点で考える。</p> <p>・開発に焦点を当て、ラテンアメリカで様々な人々が生活している理由やプランテーションをはじめ農業や鉱業などの産業の多様性がみられる理由について、主題図やグラフなどの資料をもとに多様な自然環境や植民地時代の開発の影響、そして近年の社会経済システムの変化から捉える。</p> <p>・鉱工業が発展していく中で生じている貧富の差の現状を捉え、その解決に向けた取り組みを考える。</p> <p>・開発に焦点を当て、オーストラリアとニュージーランドの自然環境の違いを比較し、主題図や写真などの資料から植民の歴史とそこに展開する産業を捉え、両国の生活文化の違いを理解する。</p> <p>・オーストラリアとニュージーランドの生活文化の歴史的背景や現状と将来について、周辺国とのつながりや多文化社会と関連づけて考える。</p>		
11	<p>第4章 地球的課題と国際協力</p> <p>1 地球環境問題</p> <p>2 資源・エネルギー問題</p>	<p>・持続可能な地球社会を考えるうえで、地球規模で起きている環境問題は、一国だけで対応できるものではないこと、多面的・多角的に考えていくことが必要であること、自らとかわる問題であることをSDGsをふまえて認識する。</p> <p>・深刻な地球環境問題となっている大気汚染、森林減少、砂漠化、気候変動について事例をあげて捉え、それぞれの影響と将来の予測から解決の取り組みについて考える。</p> <p>・地球規模で起こる資源の問題について主題図などの資料をもとに考え、偏在して分布することで保有国と非保有国との間に格差があることを認識する。</p> <p>・エネルギー資源の変化を捉えながら資源の大量消費によって枯渇の恐れがあることを認識し、これらの解決のための取り組みをSDGsと関連づけて考える。</p>	4	
12	3 人口・食料問題	<p>・人口が急増している世界の現状を捉えるとともに、人口ピラミッドや相関図などの資料から人口問題の構造と地域差を捉え、人口問題の背景や問題点を整理する。</p> <p>・持続可能な社会をつくるために、飢餓とその要因である人口問題、食料問題について、主題図やグラフなどの資料を集め、グローバル、ローカルのそれぞれ異なる視点から根拠をもとに</p>	6	

	4 居住・都市問題	SDGsと関連づけ対応策を構想する。 ・世界では都市に人口が集まる現象がみられることを主題図やグラフから読み取り, 人口が集まる都市内部の構造を景観をふまえ理解する。 ・途上国の大都市を中心に人口集中に伴う問題が生じていることを捉え, 問題の要因を理解しながら, 都市の問題の改善を目指した都市計画を取り上げ, SDGsと関連づけ都市問題の解決策を考える。		
1	第5章 生活圏の諸課題 1 日本の自然環境と防災	・日本列島の地形と気候の特徴を主題図, グラフ, 写真などの資料をもとに, 多様性や自然の恩恵があることを認識しながら, 自然災害を与える要素があることを理解する。 ・日本各地では毎年のように様々な自然災害が起きていることを理解するため, 風水害, 火山, 地震・津波, 都市型の災害の具体的な事例について, 新旧の地形図, ハザードマップ, 気象情報, 電子地図などを利用する技能とともに捉える。 ・自然災害はどのような自然環境と関係しているのか, それに対する備えはどうすれば良いのか考え, 居住地域での防災・減災意識の向上につなげる。	6	
2,3	2 生活圏の諸課題と地域調査	・日本が抱える地域的な課題について, 身近な地域を例に取り上げ, 人口の少子高齢化, 過疎化について景観観察や聞き取りを通じた調査の技能を身につける。 ・現地調査と統計資料によって得られた結果を主題図などにまとめ, 他地域と比較して考察する技能を身につける。 ・調査結果をもとに, 地域の活性化に向けたまちづくりのプランを発表する。	4	

計64時間 (55分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの授業時数合計	A 第1部 地図とGISの活用 10 時間	B 第2部 地理的環境の特色 20 時間	第3章 世界各地の生活文化 14 時間	第4章 地球的課題と国際協力 10時間	第5部 生活圏の諸課題 10 時間
-------------	-----------------------------	----------------------------	---------------------------	---------------------------	-------------------------

※ 増単している場合は, 増単した割合に応じた授業時数を確保すること。

6 課題と提出物

- ・每学期各2回程度のレポート提出やワークの提出など。

7 担当者から一言

- ・地理は世界の地形や都市・産業などをただ暗記すればよい, という科目ではありません。それらの学習を通して, 地球上の様々な地域で暮らす人々の生活や, そこに存在する多様な価値観を理解し, 世界の諸問題を見つめ, 解決していく力を養っていく科目です。柏高生である皆さんの志がより高きものとなり, 本校の校歌の一節にある「世は我が起つを待てるなり」に応えようとする皆さんの大いなる活躍を願って, 授業を行います。
- ・授業に集中し, わからないところはどんどん質問しよう。
- ・興味のあるテーマについては, 書籍などを読み, 理解と考察を深めよう。



## 令和5年度 シラバス（地理歴史） 学番61 新潟県立柏崎高等学校

教科（科目）	地理歴史 (世界史探究)	単位数	2 単位	学年	2学年
教科書	山川出版社『詳説世界史』				
副教材	第一学習社『グローバルワイド世界史図表』				

### 1 学習目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

### 2 指導の重点

- ①各地域や各時代の特色や変遷を考察することによって、歴史的思考力を養うとともに、国際社会に主体的に生きる資質を養う。
- ②歴史への関心を高め、歴史的な見方や考え方を身に付ける。
- ③文字史料や図版などの資料に触れることで、歴史の「息遣い」を感じるとともに、世界全体の歴史の流れと各国の関わりへの理解を深める。また、各国・地域の文化を理解する。
- ④日々の学習で基本的な歴史的用語を理解・習得し、歴史の変遷の枠組みを把握できる力を養う。

### 3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

### 4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査の内容の確認  などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査、授業中の取組の観察、レポートなどの内容の確認  などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 授業中の取組の観察、レポートなどの内容の確認、提出物の状況  などから、評価します。



## 5 学習計画

月	単元	学習内容	時間	評価の観点と評価方法			
4	第1章文明の成立と古代文明の特質	①オリエントの風土と歴史の関係を考察し表現する。	5	【1学期】 ab定期考査 abcレポート (記述の確認) c授業での取り組み、 提出物の状況 (行動の確認)			
	1文明の誕生	②メソポタミア・エジプト文明の文化的遺産を理解する。					
	2古代オリエント文明とその周辺	③シリア・パレスチナ地方の民族が興亡の背景を理解する。					
	3南アジアの古代文明	④クレタ文明とミケーネ文明を比較しその違いを理解する。					
	4中国の古代文明	⑤アッシリア統一の背景を多面的多角的に考察し表現する。					
	第2章中央ユーラシアと東アジア世界	①インダス文明が栄えた場所の特徴を理解する。					
		②アーリヤ人進入による変化を多面多角的に考察し表現する。					
		①殷と周の支配形態を比較し、共通点と相違点を理解する。					
	1 中央ユーラシア	②春秋時代と戦国時代を比較し、違いを見出す。					
	2 秦・漢帝国	①騎馬遊牧民が強大な国家を築くことができた理由を多面的・多角的に考察し表現している。					
	3 中国の動乱と変容	②遊牧国家興亡が大陸の東西にもたらした変動を理解する。					
	4 東アジア文化圏の形成	①新たに現れた「皇帝」の特質について理解する。					
②漢の支配体制の変遷を理解する。							
③統一国家出現の影響を多面的・多角的に考察し表現する。							
第3章南アジア世界と東南アジア世界の展開	①遊牧民族と魏晋南北朝の動乱との関係について理解する。						
1 仏教の成立と南アジアの統一国家	②仏教や道教発展の要因や背景を考察し表現する。						
2 インド古典文化とヒンドゥー教の定着	③中国の情勢が朝鮮や日本に与えた影響について理解する。						
3 東南アジア世界の形成と展開	①唐の制度文化が近隣諸国に与えた影響について理解する。						
5	第4章西アジアと地中海周辺の国家形成	②安史の乱前後の変化を多面的・多角的に考察し表現する。	5				
	1 イラン諸国家の興亡とイラン文明	①仏教やジャイナ教に共通する点について理解する。					
	2 ギリシア人の都市国家	②マウリヤ朝のもとでの仏教の発展について理解する。					
	3 ローマと地中海支配	③クシャーナ朝と周辺を多面的・多角的に考察し表現する。					
	4 キリスト教の成立と発展	①グプタ朝における宗教や文化の展開を理解する。					
	5 第5章イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成	②ヒンドゥー教が根付く背景を多面多角的に考察し表現する。					
	1 アラブの大征服とイスラーム政権の成立	①東南アジアと南アジア・中国との関係を多面的・多角的に考察し表現する。					
	2 ヨーロッパ世界の形成	②アケメネス朝が広大な領域に中央集権的支配を築ことができた背景や要因を理解している。					
	6	第6章イスラーム教の伝播と西アジアの動向			③パルティアとササン朝の繁栄の背景や要因を理解する。	5	
					①ポリスの特徴およびそこでの人々の生活について理解する。		
					②民主政発達経緯、現代の民主主義との相違点を理解する。		
					③ギリシア文化の影響を多面的・多角的に考察し表現する。		
		①ローマ共和政の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。					
		②ローマの内乱の発生から終息までの経緯を理解する。					
	③「ローマの平和」が地中海世界に与えた影響を理解する。						
	④帝国の危機の要因を多面的・多角的に考察し表現する。						
	①キリスト教の成立の経緯を理解している。						
	②キリスト教への対応を多面的・多角的に考察し表現する。						
	①アラブ＝ムスリム軍による大征服の展開を理解する。						
	②ウマイヤ朝の領域とその支配の特徴を理解する。						
	③アッバース朝成立の背景とその統治の特徴を理解する。						
	④イスラーム文化の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。						
	①ヨーロッパ自然と人の移動との関係について理解する。						
	①ビザンツ帝国を同時期の西欧と比較し理解する。						
	②ローマ教会とフランクの関係を多面多角的に考察表現する。						
	③ノルマン人の西欧世界での歴史的役割を理解する。						
	④西ヨーロッパに特有の封建社会の仕組みを理解する。						
	①イスラーム化の中央アジアへの影響を理解する。						
	②南アジアのイスラーム教の受容の経緯を理解する。						

<p>7</p>	<p>1 イスラーム教の諸地域への伝播 2 西アジアの動向</p> <p>第7章ヨーロッパ世界の変容と展開 1 西ヨーロッパの封建社会とその展開 2 東ヨーロッパ世界の展開 3 西ヨーロッパ世界の変容</p> <p>第8章東アジア世界の展開とモンゴル帝国 1 アジア諸地域の自立化と宋 2 モンゴルの大帝国</p>	<p>③東南アジアのイスラーム化を考察し表現する。 ④アフリカのイスラーム化の要因を考察し表現する。 ①トルコ人の西アジアへの影響を考察し表現する。 ②十字軍やモンゴルの影響について考察し表現する。 ①中世西欧で教会が普遍的な権威を持った背景を理解する。 ②十字軍の経緯を理解し影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ③商業復活の理由を多面的・多角的に考察し表現する。 ④中世の都市の自治について理解する。 ①ビザンツ衰退要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ②スラヴ人が各地域で自立していった経緯を理解する。 ①封建社会解体の背景を多面的・多角的に考察し表現する。 ②教皇権の衰退と王権の伸張の関係について理解する。 ③各国の身分制議会の成立と王権の伸張の関係を理解する。 ④百年戦争の英仏変容を多面的・多角的に考察し表現する。 ①10世紀前半政権交替の背景や、諸国の共通点を理解する。 ②宋の対外関係の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。 ③宋における社会や経済の発展の様子を理解する。 ④宋代の文化の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。</p>	<p>5</p> <p>【2学期】 ab定期考査 abcレポート (記述の確認) c授業での取り組み、 提出物の状況 (行動の確認)</p>
<p>8,9</p>	<p>第9章大交易・大交流の時代 1 アジア交易世界の興隆 2 ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容</p> <p>第10章アジア諸帝国の繁栄 1 オスマン帝国とサファヴィー朝 2 ムガル帝国の興隆</p> <p>3 清代の中国と隣接諸地域</p>	<p>①モンゴル帝国成立・支配・解体を考察し表現する。 ①明の国内統治の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。 ②明の朝貢関係の影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ③明後期の社会・経済と世界の商業の活発化の関係を多面的・多角的に考察し表現する。 ①西欧が海洋進出した背景を多面的多角的に考察し表現する。 ②西欧の人々の進出のアジアへの影響や変化を理解する。 ③中南米がスペイン人に征服された要因を理解する。 ①オスマン帝国の勢力拡大の経緯を理解する。 ②帝国の統治の影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ③サファヴィー朝の支配がイラン社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ①ムガル帝国の基礎が築かれた経緯とヒンドゥー教徒とイスラーム教徒の関係を多面・多角的に考察し表現する。 ①清による他民族統治方法を理解する。 ②清の周辺諸国との関係を多面的多角的に考察し表現する。</p>	<p>5</p>
<p>10</p>	<p>第11章近代ヨーロッパ世界の動向 1 ルネサンス 2 宗教改革</p> <p>3 主権国家体制の成立 4 蘭英仏の台頭</p> <p>5 東欧の動向</p>	<p>①ルネサンスの担い手や彼らの動機について理解する。 ②ルネサンスを支えた精神の特徴を理解し、それが後世に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ①教会改革と16世紀の宗教改革の違いを考察し表現する。 ②カルヴァンの特徴や英国教会の成立の意義を理解する。 ③カトリック改革が持つ意義を多面的多角的に考察し表現する。 ①主権国家体制の成立を多面的・多角的に考察し表現する。 ②当時の「先進国」の体制と「後発国」の体制を多面的多角的に考察し表現する。 ①海外貿易が近世欧経済の動向に与えた影響を理解する。 ②英産業革命の世界への影響を多面的多角的に考察し表現する。 ③「世界の一体化」と産業革命との関係について理解する。</p>	<p>5</p>
<p>12</p>	<p>第12章産業革命と環大西洋革命 1 産業革命 2 アメリカ合衆国の独立と発展 3 フランス革命とナポレオンの支配</p> <p>4 中南米諸国の独立</p> <p>第13章イギリスの優位と欧米国民国家の形成 1 ウィーン体制とヨーロッパの政治・社会の変動</p>	<p>①北米大陸の欧諸国植民地の地理的分布と推移を理解する。 ②独立直後と今日を比較し、共通点と相違点を理解する。 ①革命中の仏国家体制の変遷や革命の影響を理解する。 ②人権宣言と独立宣言の共通点と相違点を理解する。 ③ナポレオンへの反応を多面的・多角的に考察し表現する。 ①中南米諸国の独立運動と欧との関係を理解する。 ①ウィーン会議とはどのような国際秩序かを理解する。 ②体制が動揺した要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ③19世紀英政治変革の特徴を、大陸諸国と比較し理解する。 ④英仏独における社会主義思想をそれぞれ比較し理解する。 ⑤1848年革命の影響を多面的・多角的に考察し表現する。</p>	<p>7</p>

1	2 列強体制の動揺とヨーロッパの再編成	①クリミア戦争での露英仏のそれぞれの思惑を理解する。 ②19世紀後半の欧諸国の状況を理解する。	7	
	3 アメリカ合衆国の発展	①領土拡大の影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ②南北戦争において北部が勝利した要因を理解する。		
	第14章アジア諸地域の動揺	①オスマンの動揺要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ②オスマンの列強への経済的な従属化の経緯を理解する。 ③オスマンの改革の成果と課題を理解する。		
	1 西アジア地域の変容	①イギリスによるインドの直接統治の特徴を理解する。 ②東南アジアの植民地化の経緯を理解する。		
	2 南アジア・東南アジアの植民地化	①清朝の危機の要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ②欧米の進出と日本台頭の東アジアへの影響を考察表現する。		
	3 東アジアの激動	①列強による植民地化の経緯を理解する。 ①日清日露戦争の影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ②改革にもかかわらず清朝が倒れた原因を理解する。		
	第15章帝国主義とアジアの民族運動	③インド民族運動の背景を多面的・多角的に考察表現する。 ④東南アジア各地の民族運動に共通する傾向を理解する。 ⑤西アジア各地における民族運動の共通点を理解する。		
	1 第2次産業革命と帝国主義	①世界大戦の原因を多面的・多角的に考察し表現する。 ②第一次大戦の影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ③ロシア革命の意義を多面的・多角的に考察し表現する。		
	2 列強の世界分割と列強体制の二分化	①第一次大戦後の新たな国際秩序形成の経緯を理解する。 ②国際協調をめぐる1920年代前半と後半の変化を理解する。 ③1920年代のソ連・アメリカの国内情勢を理解する。		
	3 アジア諸国の変革と民族運動	①第一次大戦のアジアの影響を多面多角的に考察し表現する。 ②日本拡大への中国・朝鮮の対応を考察し表現する。 ③南京国民政府による中国統一達成までの経緯を理解する。		
第16章第一次世界大戦と世界の変容	①世界恐慌の背景影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ②ニューディール・ブロック経済の特徴や影響を理解する。 ③ナチス＝ドイツが成立する経緯と政策内容を理解する。			
1 第一次世界大戦とロシア革命	④日本と中国の戦争の背景を多面・多角的に考察し表現する。			
2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国	①ヨーロッパでの第二次世界大戦の開戦・展開を理解する。 ②第二次世界大戦の終戦までの経緯を理解する。 ③第二次大戦の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。			
3 アジア・アフリカ地域の民族運動	①戦後国際秩序をいかなる構想で形成したかを理解する。 ②冷戦の世界への影響を理解する。			
第17章第二次大戦と新しい国家秩序の形成	①米ソの同盟網の広がりや核開発競争の経緯を理解する。 ②西欧と日本の経済復興の背景をそれぞれ理解する。 ③「雪解け」の変化を多面的・多角的に考察し表現する。			
1 世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊	①アフリカなど新興国の困難の内容とその原因を理解する。 ②キューバ革命の背景を多面的・多角的に考察し表現する。			
2 第二次世界大戦	①米ソ代理戦争としてのベトナム戦争の性格を理解する。 ②1960年代の米ソの変容を多面的多角的に考察し表現する。 ③開発独裁の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。			
3 新しい国際秩序の形成	①オイル＝ショックの影響を多面・多角的に考察し表現する。 ②1960～1970年代の中東における変容の経緯を理解する。			
第18章冷戦と第三世界の台頭	①ソ連改革と東欧革命の関係を多面多角的に考察し表現する。			
2,3	1 冷戦の展開		8	計64時間 (55分授業)
2 第三世界の台頭とキューバ危機				
3 冷戦体制の動揺				
第19章冷戦の終結と今日の世界				
1 産業構造の変容				
2 冷戦の終結				

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A 第Ⅰ部 原始・古代	B 第Ⅱ部 中世	C 第Ⅲ部 近世
	20 時間	21 時間	23 時間

6 課題と提出物

・毎学期各2回程度のレポート提出やワークの提出など。

担当者から一言

毎回の授業への取り組みが重要です。章や節毎に自分なりに整理をして、考査の学習を中心に記憶の軸を作ると、受験対策もスムーズに取り組みます。学びを通して歴史的思考力を養いましょう。



令和5年度 シラバス (地理歴史) 学番61 新潟県立柏崎高等学校

教科 (科目)	地理歴史 (日本史探究)	単位数	2単位	学年	2学年
教科書	山川出版社『詳説日本史』				
副教材	第一学習社『最新日本史図表』 浜島書店『ゼミナール日本史』				

1 学習目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

2 指導の重点

- ①各時代の特色や変遷を考察することによって、歴史的思考力を養うとともに、国際社会に主体的に生きる資質を養う。
- ②歴史への関心を高め、歴史的な見方や考え方を身に付ける。
- ③文字史料や図版などの資料に触れることで、日本全体の歴史の流れと近隣諸国との関わりや地域社会の歴史への理解を深めるとともに、日本の文化や文化財保護の重要性を理解する。
- ④日々の学習で基本的な歴史的用語を理解・習得し、歴史の変遷の枠組みを把握できる力を養う。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査、授業中の取組の観察、レポートなどの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 授業中の取組の観察、レポートなどの内容の確認、提出物の状況 などから、評価します。



## 5 学習計画

月	単元	学習内容	時間	評価の観点と評価方法
4	第Ⅰ部 第1章 日本文化のあけぼの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人類文化の発生を考え、日本の旧石器・縄文文化の社会を理解する。</li> <li>・打製石器・磨製石器・縄文土器の発掘、堅穴住居の状況など考古学の成果によって教科書の叙述が成り立っていることに気づく。</li> <li>・大陸からの稲作伝播の様子や地域性の顕著な道具の分布を踏まえて、弥生文化の形成を考察する。</li> <li>・集落・墓の変容から富の蓄積を理解し、小国が形成される過程を東アジア世界との交流と関連づけて考察する。</li> <li>・原始社会の特色の考察を踏まえ、時代を通観する問いを表現する。</li> </ul>	5	【1学期】 ab定期考査 abcレポート (記述の確認) c授業での 取り組み、 提出物の状況 (行動の確認)
	第2章 古墳とヤマト政権	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の首長の出現から統一国家への過程を古墳の変容からとらえる。</li> <li>・ヤマト政権による国家の形成過程を東アジアとの関係から考察する。</li> <li>・古墳時代後期から終末期の変容とヤマト政権の政治制度を理解する。</li> <li>・ヤマト政権の権力争いや大陸文化の摂取から、飛鳥時代を考察する。</li> </ul>	5	
5	第3章 律令国家の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・律令国家が成立するまでの政治過程について考察する。</li> <li>・律令にもとづく国内統治体制について理解する。</li> <li>・律令体制の完成する奈良時代を多角的・多面的にとらえて考察する。</li> <li>・平城京における政治動向について、土地政策も含めて考察する。</li> <li>・律令国家の成立期に当たる白鳳文化の形成過程について考察する。</li> <li>・天平文化における政治性と国際性、国家仏教の展開などに着目して、古代国家の展開を理解する。</li> <li>・平安前期の東北経営や政治改革、地方統治から律令制の変質を考察する</li> <li>・東アジアとの関係を踏まえて、弘仁・貞観文化を理解する。</li> </ul>		
	第4章 貴族政治の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察する。</li> <li>・日本と東アジアの関係が民間の貿易や交流が中心だったことを捉える</li> <li>・大陸文化の消化と末法思想を前提とした新しい貴族文化として、国風文化が展開されたことを理解する。</li> <li>・摂関政治の在り方と文化の展開の関係を考察する。</li> </ul>		
6	第Ⅱ部 第5章 院政と武士の躍進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地方統治への対応が公領支配の変質、荘園拡大に至る経過を考察する</li> <li>・地方の反乱やその鎮圧など、源氏を例に武士の成長過程を考察する。</li> <li>・土地支配の形態から、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。</li> <li>・外戚関係や人材登用など、後三条天皇が摂関家に遠慮せず改革を進めた背景を考察する。</li> <li>・政治の動向、国際関係・経済・文化への対応を踏まえて、平氏政権の特性について考察する。</li> <li>・古代から中世への変化を考察し、時代を通観する問いを表現する。</li> </ul>		
	第6章 武家政権の成立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的武家政権となる過程を理解する。</li> <li>・鎌倉幕府の成立時期について、諸説の根拠を明確にして考察する。</li> <li>・承久の乱後の公武関係の変化と、執権政治に至る過程を理解する。</li> <li>・土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握した過程を考察する。</li> <li>・モンゴル襲来による影響が、幕府衰退につながることを理解する。</li> <li>・非御家人への権限拡大など幕府勢力が西国に浸透したことを考察する</li> <li>・庶民や武士の活動が活発化し、鎌倉仏教が成立するなど、文化の新しい気運が生まれたことを理解する。</li> <li>・伝統的な公家文化で、有職故実・古典研究が進展した背景を考察する</li> </ul>		
7	第7章 武家社会の成長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定を、各地の動向から考察する</li> <li>・琉球・蝦夷ヶ島を含む東アジアとの交流が日本に与えた影響を理解する</li> <li>・庶民の活動が社会秩序の変革の原動力として成長していったことを踏まえて、幕府の動揺や下剋上の風潮を考察する。</li> </ul>		



8, 9	<p>第Ⅲ部 第8章 近世の幕開け</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・諸産業の発達による庶民の台頭など多様な展開を幅広く理解する。</li> <li>・武家政権の支配の進展や東アジア世界との交流に着目して、武家文化と公家文化および、大陸文化と伝統文化の関わりについて理解する。</li> <li>・庶民文化の萌芽や、文化の地方伝播、普及を理解する。</li> <li>・応仁の乱以降、地方権力として登場した戦国大名や各地に展開した都市について、諸地域の地理的条件と関連づけて考察する。</li> <li>・ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察する。</li> <li>・信長・秀吉の統一事業から秀吉の朝鮮侵略と続く織豊政権の特色と意義、その後の時代への影響について理解する。</li> <li>・新興の大名や都市の豪商の精神を反映した桃山文化について、町衆の生活にも着目し、時代的背景を踏まえて考察する。</li> <li>・中世から近世への変化を考察し、時代を通観する問いを表現する。</li> </ul>	10	<p>【2学期】 ab定期考査 abcレポート (記述の確認) c授業での 取り組み、 提出物の状況 (行動の確認)</p>
10	<p>第9章 幕藩体制の成立と展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・江戸幕府の成立による幕藩体制の確立過程を理解する。</li> <li>・江戸幕府の鎖国政策を、単なる対外貿易の遮断ではないことを理解し、鎖国後の貿易関係の影響と歴史的意義について考察する。</li> <li>・経済・社会を兵農分離や村落・都市支配から多面的・多角的に考える</li> <li>・被支配身分の特質や周縁部分に生きる人々の社会的役割を理解する。</li> <li>・17世紀後半から18世紀前半までの平和と秩序の確立を考察する。</li> <li>・諸藩における政治の安定化や刷新について、その特色を理解する。</li> <li>・農業・商工業の発展を、諸産業相互の関係や社会的役割から考察する</li> <li>・全国市場や商品流通の拡大から、特産物が生まれたことを理解する。</li> <li>・経済の発展と町人文化の形成を踏まえ、幕藩体制の安定を理解する。</li> <li>・儒学の特色を理解し、その発達が他の学問に与えた影響を考察する。</li> </ul>	6	
11	<p>第10章 幕藩体制の動揺</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幕藩体制が動揺する中、幕府や諸藩がおこなった諸改革を考察する。</li> <li>・百姓一揆や、都市の打ちこわしの実態について理解する。</li> <li>・洋学や国学、文学・芸能・美術を、幕藩体制の動揺とともに考察する</li> <li>・武士の教育に加え、民間の私塾や寺子屋が開かれた背景を理解する。</li> <li>・欧米諸国のアジア進出や幕政の対処から幕府衰退の過程を理解する。</li> <li>・近代化の基盤の形成について、産業経済面や軍事面などに着目して、雄藩の浮上という地方からの視点から考察する。</li> <li>・化政文化を諸分野の新たな展開と地方との交流に着目して考察する。</li> </ul>	7	
12	<p>第Ⅳ部近代・現代 第11章 近世から近代へ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して、日本の開国を社会・経済面での変化と関わらせて考察する。</li> <li>・幕末の動乱における天皇を中心とする統一国家構想の芽生えから幕府の滅亡、旧幕勢力の一掃に至るまでの経過を理解する。</li> </ul>		
12	<p>第12章 近代国家の成立</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・諸改革や富国強兵・殖産興業政策に着目し、国家形成過程を考察する</li> <li>・欧米の文化・思想の導入と一連の近代化政策に対する反動としての士族反乱・農民一揆の失敗と、言論による要求実現への転換を理解する。</li> <li>・明治初期の対外政策を、対欧米、対アジアの違いについて考察する。</li> <li>・政府の強力な中央集権体制の志向の中、自由民権運動の始まりから立憲国家の成立に至る間、近代国家の基盤が形成される過程を考察する。</li> <li>・大日本帝国憲法の性格について具体的・多角的に理解する。</li> </ul>	4	
1	<p>第13章 近代国家の展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際環境が変容し、不平等条約改正・日清戦争に至る過程を考察する</li> <li>・開戦に至る国際関係や、日露戦争の経過、戦後の日本の国際的地位の変化と植民地支配の推進を諸外国の動向と関連付けて考察する。</li> <li>・第一次世界大戦前後の政治の動向及び対外政策の推移について、政党政治の発展や日本の中国進出の状況を踏まえて考察する。</li> <li>・第一次世界大戦が日本の社会経済や政治に及ぼした影響について、欧米・アジア経済との関連や政党内閣の成立などに関連させて考察する。</li> <li>・ワシントン体制に至る国際環境の推移を日本の立場から考察する。</li> <li>・民主主義的風潮による社会運動と、政党内閣制成立の意義を考察する</li> </ul>	5	

2	第14章 近代の産業と生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日清・日露戦争前後にかけて資本主義国家の基礎が確立された過程を、産業革命や近代産業の発展に着目して考察する。</li> <li>・近代産業の発展に伴う社会問題の発生と政府の対応について考察する</li> <li>・伝統的な文化のうえに欧米文化を摂取するなど二元性を持って成立した近代文化の特色について、政治・経済・外交などから考察する</li> <li>・義務教育の普及・定着とともに、国家主義的教育の浸透を理解する。</li> <li>・労働者や都市中間層の拡大による大衆社会の基盤の成立に着目し、都市化や市民生活の変化を踏まえて、大衆文化の特色について考察する。</li> <li>・教育の普及・発展、マスメディアの発達について理解する。</li> </ul>	4	【3学期】 ab定期考査 abcレポート (記述の確認) c授業での 取り組み、 提出物の状況 (行動の確認)
	第15章 恐慌と第二次世界大戦	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和恐慌に至る動揺を、国内外の経済状況と対策に着目して理解する</li> <li>・軍部の政治的進出を踏まえ、協調外交が挫折していく過程を考察する</li> <li>・日本の対外政策の推移について、世界情勢や軍部の政治的進出に着目して、政党内閣の崩壊や国際的孤立の過程について考察する。</li> <li>・恐慌から脱出し、国家主義が高揚するなかで、五・一五事件から二・二六事件にかけて、軍部の影響力が増大していく過程を考察する。</li> <li>・日中戦争の勃発から太平洋戦争の突入にいたる過程について、国民生活の変化や諸統制に着目して全体主義的な国家体制の進展を考察する。</li> <li>・第二次世界大戦について、この戦争が空前の惨禍をもたらした点に着目して、平和で民主的な国際社会の実現に努める重要性を認識する。</li> <li>・戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策及び戦後の民主化政策とそれに伴う諸改革について、その経過と内容を考察する。</li> <li>・戦後政治の動きを踏まえて、日本国憲法制定の意義を理解する。</li> </ul>		
3	第16章 占領下の日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際情勢の変化から、占領支配が終結し日本が独立した意義を考える</li> <li>・日本占領の終結と、その後の日米関係を各国の立場から考察する。</li> <li>・独立後の日本国内政治について、衆議院を保守・革新の二大勢力が占める55年体制の成立から安定した保守政権となるまでの経過を考察する</li> <li>・冷戦構造の中で日本が国際社会に復帰したことについて、国際連合への加盟、アメリカ・中国・韓国との関係に着目して考察する。</li> </ul>	5	
	第17章 高度経済成長の時代	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝鮮特需による経済復興とその後の高度経済成長について、経済の国際化と国内の技術革新などの側面に着目して考察する。</li> <li>・消費革命による社会の変貌と経済成長による社会問題を考察する。</li> </ul>		
	第18章 激動する世界と日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドル＝ショックなどから、主要先進国首脳会議開催の意義を考察する</li> <li>・高度成長が終焉し、保守政権が動揺するなか、二度の石油危機を乗り越え、経済大国の道を歩んだ日本の状況を多面的・多角的に考察する</li> <li>・冷戦体制の終結とそれに関わる国内の状況について、日本の政治・外交・経済・生活文化面を踏まえて多面的・多角的にとらえる</li> <li>・科学技術・産業の発達によって派生する環境問題やエネルギー問題などの日本の課題とそれに対する日本の役割を認識する。</li> </ul>		

計64時間 (55分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A 第I部 原始・古代 13 時間	B 第II部 中世 15 時間	C 第III部 近世 16 時間	D 第IV部 近代・現代 20 時間
-----------------	----------------------	--------------------	---------------------	-----------------------

※ 増単している場合は、増単した割合に応じた授業時数を確保すること。

6 課題と提出物

・毎学期各2回程度のレポート提出やワークの提出など。

7 担当者から一言

何よりも重要なのは、日々の授業への取り組みです。平常時は授業にきちんと取り組み、章や節の区切りに自分なりに整理をしておけば、考査前の学習が大変はかどります。各考査の学習を中心に記憶の軸を作っておくことで、3年次の受験対策もスムーズに取り組めるはずです。日本史の学びを通して、歴史的思考力を養いましょう。

令和5年度シラバス (公民)

学番 61 新潟県立柏崎高等学校

教科(科目)	公民(倫理)	単位数	3 単位	学年	3 学年 普通科
使用教科書	第一学習社『高等学校 改訂版 倫理』				
副教材等	第一学習社『テオリア 最新倫理資料集 新版五訂』 啓隆社『新倫理ノート』				

1 学習目標

人間尊重の精神に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方についての理解と思索を深めるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、生きる主体としての自己の確立を目指し、良識ある公民として必要な能力と態度を育みます。

2 指導の重点

- ・本校においては大学等に進学を希望する生徒が大多数であることから、
  - ①大学入学共通テストに対応できる学力の確実な習得を目指します。
  - ②自己を取り巻く諸問題について、自らの思考を論理的に確立できる能力の習得を目指します。
  - ③自らの思索をさまざまな方法で表現できる能力の習得を目指します。
  - ④自らの思索をもとに、現代社会のさまざまな状況に主体的に関わっていく積極的な態度の習得を目指します。

3 学習計画 (1 単位時間 55 分)

月	単元名	学習内容	時間	評価方法
4	第1章 青年期の課題と自己形成 (青年期) 1 よく生きることを求めて 1 青年期の課題	人間とは何か 青年期とは何か 青年期の思考と感情 青年期の間人間関係 青年期の自己形成	16	中間考査の成績 授業の取り組み
5	第2章 人間としての自覚 (源流思想) 1 ギリシアの思想	哲学の形成 ソクラテス プラトン アリストテレス ギリシア思想の展開		
6	第2章 人間としての自覚 (源流思想) 2 キリスト教 3 イスラーム 4 仏教	ユダヤ教の世界 イエス キリスト教の発展 イスラーム インドの思想文化 ゴータマの教説 仏教思想の展開	20	期末考査の成績 授業の取り組み
7	第2章 人間としての自覚 (源流思想) 5 中国の思想  1 芸術と私たちの生き方	中国の思想文化 儒教の思想 道家の思想	9	中間考査の成績 授業の取り組み
8	第3章 国際社会に生きる日本人としての自覚 (日本思想)  2 世界に生きる日本人の伝統	日本の風土と伝統 外来思想の受容 町人意識のめざめと庶民思想 西洋思想との出会い	課外 授業	授業の取り組み
9	第4章 現代に生きる人間の倫理 (西洋思想) 1 人間の尊厳	ルネサンスと宗教改革 人間性の探究	15	中間考査の成績 授業の取り組み
10	2 近代の科学革命と自然観 3 自由で平等な社会の実現 3 自由であることの意味	近代の科学革命 経験論と合理論 社会契約の思想 人格の尊厳と自由—カント	10	授業の取り組み
11	4 人間性の回復と主体性の確立 5 現代の思想と人間像 6 生命への畏敬と社会参加	人倫の自由の実現—ヘーゲル 功利主義の思想 社会主義の思想 実存主義の思想 プラグマティズムの思想 心の深層と無意識		

		生の哲学と現象学 近代的理性と言語 正義と社会 他者と偏見		期末考査の成績
12	第5章 現代の諸課題と倫理 (現代の諸課題) 1 生命の問題と倫理課題 2 環境の問題と倫理課題 3 家族・地域社会と倫理課題 4 情報社会と倫理課題 5 宗教・文化と倫理課題 6 国際平和と人類の福祉	生殖医療と遺伝子操作 脳死臓器移植と再生医療 自己決定の尊重と末期医療 有限な地球環境 生物多様性と自然との共生 予防原則と世代間倫理 少子化と男女共同参画社会 高齢化と地域社会 情報の洪水と情報リテラシー ネットワーク社会と情報モラル 宗教信仰への理解と現代世界 異文化理解と多文化共生 地球市民として 平和な世界に向けて	12	
		問題演習	14	授業の取り組み
			96	

#### 4 課題・提出物等

- ・教科書第3章「国際社会に生きる日本人としての自覚」(日本思想)に該当する部分は夏季課外で行います。大学入学共通テストを「倫理」または『倫理, 政治・経済』で受験する予定の者は必ず出席してください。
- ・定期考査の問題や授業内での課題は, 大学入学共通テストを念頭において, 知識・理解を求める問題だけでなく, 自らの思索を問い, それを表現してもらおう問題も含まれます。内容の根本的な理解が必要です。

#### 5 評価規準と評価方法

- ・評価は次の4観点から行います。

①関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間尊重の精神と自己形成について関心を高めようとする。</li> <li>・人格の形成と生きる主体としての自己の確立に努める積極的な意欲をもっている。</li> <li>・倫理的な諸課題を主体的に思索・探究しようとする態度を身につけ, 人間としての在り方生き方について自覚を深めようとしている。</li> </ul>
②思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的な自己の確立と人間の存在や価値などについて, 広く課題を見出し, 多面的・主体的に思索・探究している。</li> <li>・良識ある公民として, 広い視野に立って公正に判断している。</li> <li>・学習の成果を適切に表現している。</li> </ul>
③資料活用の技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青年期における自己形成や, 人間としての在り方生き方, 現代の倫理的な諸課題に関する諸資料を収集し, それらを考察している。</li> <li>・収集した資料を自己形成に役立てるために, 活用している。</li> </ul>
④知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青年期における自己形成や人間としての在り方生き方, 現代の倫理的な諸課題などに関わる基本的な事柄を, 生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し, 人格の形成に活かす知識を身につけている。</li> </ul>
以上の観点を踏まえ, ・授業への取り組み(授業に取り組む意欲・態度, 学習活動への参加状況など) ・授業中に使用するプリントなどの内容 ・定期考査の学習成績 などから, 総合的に評価します。	

#### 6 担当者からの一言

授業では, 紀元前の遠い過去から現代でも活躍中の思想家の思想や, 皆さんと同年代の人たちの心のメカニズムなども学んでいきます。  
 時代や場所が変われば変わってゆくもの(流行), 時代や場所が変わっても変わらないもの(不易), 「倫理」の授業ではそのようなことに思いをはせてもらえればと思います。



令和5年度シラバス (公民)

学番61 新潟県立柏崎高等学校

教科(科目)	公民 (公民探究)	単位数	2単位	学年・コース	3学年普通科(文系)
使用準教科書	第一学習社『高等学校 世界史A』・第一学習社『高等学校 改訂版政治・経済』				
副教材等	第一学習社『グローバルワイド最新世界史図表』・第一学習社『最新政治・経済資料集』				

1 学習目標

政治、経済、国際関係などを客観的に理解し、世界の諸課題について、世界市民の一人として主体的に考察する。また、世界との相互理解を深めるために、事象を多面的・多角的にとらえて公正に判断できる力を身に付ける。さらに、論点を整理し、問題の所在と解決の方向性を、自分の言葉で説明できる表現力を培う。

2 指導の重点

- ①世界史Aや現代社会で学習した基礎的な知識・理解を土台として、国際政治・国際経済の今日的諸課題について主体的に考察できる力を身に付けることをめざす。
- ②持続可能な地球社会の構築に向けて、日本が国際社会の中でどのような責任を果たしていくべきかという視点を交えて考察する。

3 学習計画 (1単位時間55分)

月	単元名	指導項目(主なテーマ)
4	(1)二つの世界大戦と平和構築の模索	1)国際社会と国際法 ・ウエストファリア条約の歴史的背景を概観しつつ、国際法の意義と今日的課題を考察する。 2)国際機構 ・各種国際機構設立の歴史的背景を概観しつつ、国際機構の機能と今日的課題を考察する。
5	(2)三つの世界と日本の役割	1)三つの世界 ・東西冷戦、アジアとアフリカの自立を理解するとともに、核兵器問題や発展途上地域が抱える課題について考察する。
6		2)国際政治の中の日本 ・戦後日本の外交、国際平和への貢献、日本のODAを理解するとともに、今後、日本が国際社会において果たすべき役割を考察する。
7		3)探究活動 ・2)の考察結果をグループごとに発表し、意見交換を行う。
8	(3)地球社会への歩みと日本の役割	1)国際経済のしくみと地域経済統合 ・貿易の発展の歴史を概観しつつ、国際収支や為替相場のしくみを理解する。 ・地域的経済統合の進展を理解するとともに、日本と諸外国の経済連携のあり方を考察する。
9		2)国際経済格差と国際協力 ・南北問題、南南問題を歴史的背景を踏まえて理解するとともに、格差の解消に向けた国際協力、支援のあり方を考察する。
10	(4)持続可能な社会への展望	3)探究活動 ・1)、2)の考察結果をグループごとに発表し、意見交換を行う。
11		・地球環境や資源・エネルギーをめぐる問題、地域紛争を歴史的経緯を踏まえて理解するとともに、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について考察する。

4 課題・提出物等

- ①テーマ毎に、考察結果をレポートにまとめて提出する。
- ②各学期、1～2テーマについてグループ単位で考察し、考察結果をグループごとに発表し、意見交換を行う。
- ③長期休業中に、学習テーマに沿った新書を読み、所定の様式のレポートを提出する。

5 評価規準

(A) 評価の観点

◎評価は「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「資料活用の技能」「知識・理解」の4つの観点から行います。	
「関心・意欲・態度」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の様々な出来事や動きについて関心を持ち、意欲的に課題を追究しようとしている。</li> <li>・他の生徒と積極的に意見交換することができる。</li> </ul>
「思考・判断・表現」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会の諸問題を様々な角度から考察することができる。</li> <li>・考察結果をまとめ、自分の言葉で適切に表現することができる。</li> </ul>
「資料活用の技能」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図や統計資料、年表や史料、写真や映像資料等を選択、分析し、理解を深めることができる。</li> </ul>
「知識・理解」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史事象と公民的知識を関連づけて理解することができる。</li> <li>・知識を体系化し、持続可能な社会の実現への課題について探究できる。</li> </ul>

(B) 評価の規準

- 以上のような観点をふまえ
- ①授業への取り組み（授業中の発言、グループ討論、発表への参加状況等）
  - ②レポート、発表用資料などの内容
  - ③定期考査
- などから総合的に評価を行う。



令和5年度 シラバス (地理歴史)

学番61 新潟県立柏崎高等学校

教科(科目)	地理歴史(世界史探究Ⅱ)	単位数	3単位	学年・コース	3学年普通科(文系)
使用教科書	山川出版社『詳説世界史B』・第一学習社『高等学校改訂版現代社会』				
副教材等	第一学習社『グローバルワイド世界史図表』、東京法令出版『ウィニングコンパス』 東京法令出版『フォーラム現代社会2021』				

1 学習目標

世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 指導の重点

- ①世界史や現代社会の基礎的な知識・理解を基盤として、世界の今日的諸課題について主体的・多角的に思索できる能力の習得を目指す。
- ②グローバル化が進展する現代社会において、日本が国際社会の中でどのような責任を果たしていくべきかという点についても考察する。

3 学習計画(1単位時間55分)

月	単元名	指導項目(主なテーマ)
4 5	風土、民族、宗教などユーラシアを中心に形成された諸地域世界の特質と諸地域相互の交流、世界の一体化につながる交流圏の成立	①1、2年次で学習した「帝国主義」～「東西冷戦」をふまえ、現代の世界を形成した古代を取り上げる。 ②歴史の舞台としての自然環境について各地域の自然環境を概観するとともに、古代文明の後世への影響について理解させることに留意する。 ③古代の西アジア世界では多種多様な民族によって歴史が展開されたこと。地中海世界の歴史とその後世への影響を把握させる。 ④探求活動 各地域の諸事情を考察し、考察結果をグループごとに発表し意見交換を行う。
6 7 9 10 11	東アジアの特質 中国の政治や北方民族との関係 東アジアの国際秩序 南アジアの多様性 宗教と社会制度 東南アジアにおける多様な社会・文化の形成	①中国を中心とする東アジア世界について、その歴史上に展開した社会と文化の特徴とその拡大。また、内陸アジア世界の特徴と諸民族の活動による文化の交流について理解させる。 ②漢字・儒教・仏教・道教などに関する様々な資料を活用して東アジアの特質を理解するとともに、日本の文化とも関連付けて多角的に考察し、その結果を適切に表現する。 ③探究活動 南アジアの多様性について関心を高め、南アジアの宗教に関する様々な資料を活用して、各宗教が及ぼした影響について考察し、その結果を適切に表現し、意見交換を行う。
12 1	アメリカ大陸と太平洋 イスラーム世界の形成と拡大	①アメリカ大陸と太平洋地域の古代文明について理解させる。 ②イスラームの成立とその拡大によって形成されたイスラーム世界の基本事項を理解させるとともに、その後の世界史に大きな影響をあたえたことを把握させる。 ③探求活動 現代におけるイスラーム世界の課題について考察し、その結果を適切に表現し、意見交換を行う。

4 課題・提出物等

①小単元ごとに小テストを実施し、成績に加味する。 ②定期考査ごとにノート・プリント等の点検を実施する。 (各テーマの考察結果をしっかりとまとめておくこと。) ③長期休業中の課題は別途指示する。
---

5 評価基準

(A) 評価の観点

◎評価は「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「資料活用の技能」「知識・理解」の4つの観点から行います。	
「関心・意欲・態度」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に積極的に参加している。</li> <li>・世界史に関する様々なテーマについて、「現代社会」の知識も含めて多目的に生かして、意欲的に学んでいる。</li> </ul>
「思考・判断・表現」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「世界史探究」の授業で学習したことをもとに、現代社会の諸問題を様々な角度から考察している。</li> </ul>
「資料活用の技能」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料(図表なども含む)や史料当の視聴覚教材を積極的に活用し、歴史や現代社会に対する理解を深めている。</li> </ul>
「知識・理解」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代世界を理解するために必要な歴史的・公民的知識を身につけている。</li> <li>・学習を通じて、現代の社会をよりよく、より鋭く考察している。</li> </ul>

(B) 評価の基準

以上のような観点をふまえ ①授業への取り組み(授業に取り組む意欲・態度、授業中の発言、学習への参加状況等) ②授業中に使用するプリント、小テストなどの内容 ③定期考査 などから総合的に評価を行う。
--

## 令和5年度 地歴・公民科シラバス

科目	政治・経済	単位数	3 単位	学年・科	3年	普通科
教科書	第一学習社『高等学校 改訂版 政治・経済』					
副教材	第一学習社『最新政治・経済資料集 新版』					

### 1 学習目標

- ・民主主義の本質に関する理解を深める。
- ・現代における政治・経済・国際関係について客観的に理解する。
- ・政治・経済・国際関係に関する諸課題について、主体的に考察する態度を身に付けるとともに、公正に判断する能力や健全な批判力を養う。
- ・国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現、推進に向けて主体的に参加、協力する態度を身に付ける。

### 2 指導の重点

- ・現実の社会には様々な立場やいろいろな考え方がることを理解する。
- ・今日の日本および国際社会で発生する事象や諸問題と基本原理・基本理論とのかかわりについて考える。
- ・現代の日本社会・国際社会が直面する諸課題について、望ましい解決のあり方を積極的に考察する。
- ・特に経済分野については、統計資料やグラフ資料の分析力を高める。
- ・大学入学共通テストに向け、問題演習をとおして実践力を高める。

### 3 指導計画

月	単元と教材	学習のねらい	時間	評価方法
4 5	人権保障と世界の政治体制	民主主義の成り立ちを歴史的観点、比較政治的観点から理解する。 世界の主な政治体制を理解し、民主主義がどのように実現されているのか考察する。	4	1学期 定期考査 授業の取組
	日本国憲法と平和主義	日本国憲法の普遍性ならびに三大原理について、歴史的経緯をふまえてその特長を捉える。 日本国憲法の平和主義の理念をふまえたうえで、今後の国際社会において国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割について考察する。	5	
	基本的人権の保障	日本国憲法が保障する各種人権の意義と内容について理解する。 変化する社会に対応して、基本的人権をどのように広げていけばよいか考察する。	5	
6 7	国民主権と政治機構	三権の働きと互いの関係、地方自治制度について、そのしくみを捉え、課題について考察する。	6	
	現代日本の政治	マスコミ・選挙制度・政党政治の現状を理解したうえで、望ましい政治のあり方や国民の政治参加のあり方を考察する。	4	
7 8	経済社会と経済活動	資本主義経済の発展と変容、その特徴を、社会主義経済との対比をとおして理解する。	4	
	現代経済のしくみ	資本主義経済の特徴である市場機構のしくみを理解し、問題点を考察する。 金融と財政の意義と役割について理解する。 各経済指標の特色、経済成長と景気循環の概念を理解する。	8	
9	日本経済の歩みと現状	戦後日本経済の発展と変容について理解する。 中小企業問題・農業問題・公害・消費者問題について、現代社会で学んだ基礎知識をもとに理解を深める。	3	

学番 61 県立柏崎高等学校

9	労働と社会保障	労働三権の意義と内容を理解する。 日本型労働慣行とその変化について理解する。 世界各国と日本の社会保障制度を比較しながら内容や課題を理解する。	6	2学期 定期考査 授業の取組
10	現代の国際政治と日本	国際法の意義と役割について理解する。 国際連合のしくみについて、国際連盟と比較しながらその特色を理解する。 二次世界大戦後の国際政治の動向について理解する。冷戦後の国際社会における諸課題を理解し、その解決について考察する。	9	
11	国民経済と国際経済	国際経済を貿易の面から捉え、国際分業と自由貿易の意義および国際収支と外国為替の基本的しくみを理解する。 第二次世界大戦後の国際経済秩序について、その成立と変容を理解する。 国際経済と日本経済の関係について理解するとともに、国際経済の中で日本が果たすべき役割について考察する。	9	
12	国際社会の諸課題	地球環境問題および民族問題について、個々の問題の内容や現状を理解し、解決に向けての方策を考察する。	4	
	現代日本の諸課題	中小企業問題、少子高齢化問題について、現状を理解しするとともに今後を展望し、対応策を考察する。	3	
12 1 2	特編授業	大学入学共通テスト、私大入試に向けての問題演習	2 6	
※「時間」は授業コマ数。(1コマ55分)			9 6	

4 課題と提出物等

・授業内で、時事に関するレポートを課すので、普段から世の中の動きに関心を持っておいください。

5 評価規準と評価方法

評価の4つの観点			
①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用の技能	④知識・理解
学習事項に関する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、平和で民主的な社会生活の実現について客観的に考えようとしている。	学習事項から課題を見だし、その本質や特質、望ましい解決のあり方について、多角的に考察するとともに、様々な立場、考え方を踏まえ判断しようとしている。考察の過程や結果を様々な方法で表現しようとしている。	学習事項に関わる諸資料を様々なメディアを通して収集し、情報を主体的に活用しようとしている。	基本的な事柄や本質、特質、動向をとらえる基本的な概念や理論を理解し、知識を身につけている。
以上4つの観点をふまえ、定期考査を中心に、授業態度などから総合的に判断し、評価する。			

6 担当者から一言

- ・現実に社会で起きている事象に目を向け、関心を高めよう。そのためにも、毎日新聞を読もう。
- ・授業に集中し、わからないところはどんどん質問しよう。
- ・受験勉強を軌道に乗せるためにも、夏休みの補習（大学入学共通テスト対策）には必ず参加すること。
- ・興味のあるテーマについては、新書（岩波や講談社）などを読み、理解と考察を深めよう。

## 令和5年度シラバス（地理歴史）

学番61 新潟県立柏崎高等学校

教科(科目)	地理歴史(地理探究)	単位数	3単位	学年(コース)	3学年普通科
使用教科書	二宮書店『新編 詳解地理B改訂版』 二宮書店『詳解現代地図』 第一学習社『改訂版 世界史A』				
副教材等	第一学習社『最新地理図表GEO五訂版』、啓隆社『新地理要点ノート』 第一学習社『グローバルワイド最新世界史図表』				

### 1. 学習目標

世界の諸地域に見られる様々な問題に対して興味関心を引き出すとともに、歴史的背景を踏まえて各地域の多様な特色を地誌的に学習し、現在及び将来直面する地球的課題に対して多面的・多角的に考察し、問題解決の方向性を自分の言葉や地図で説明できる表現力を培う。

### 2. 指導の重点

- ①地理Bで学習した現代世界の地理的事象を系統地理的知識や技能を土台に、さらに世界史Aで学習した基礎的な知識・理解を踏まえ、世界の諸地域に見られる政治・経済・文化などの地球的諸課題について主体的に考察できる力を身に付けることをめざす。
- ②グローバル化が進展する現代社会において、持続可能な地球社会の構築に向けて、日本が国際社会の中でどのような責任を果たしていくべきかという視点を交えて考察する。

### 3 学習計画（1 単位時間 55 分）

月	単元名	学習活動（指導内容）
4 5	東アジア、東南アジアと地域的課題	①中国、韓国、東南アジアの国々の自然、経済、政治、文化の地理的事象をヨーロッパや中国、日本との歴史的つながりを踏まえながら学習する。 ②自然環境、農業、食事、宗教などの文化の類似性や、地域的特色について気づかせる。 ③探究活動 民族問題、都市問題、領土問題などの地域的課題についてグループごとに考察し、意見交換を行う。
5 6	南アジア、西・中央アジア、アフリカと地域的課題	①インドを中心とする南アジア地域と、北アフリカから西・中央アジアに広がる乾燥地域、中東アフリカ地域に分け、それぞれ自然、経済、政治、文化の地理的事象を学習する。 ②ヨーロッパによる植民地支配の歴史を踏まえながら三地域の宗教、言語（公用語）、自然、農業、工業、生活、住居の地域的特色を考察し、地域内の類似性や法則性に気づかせる。 ③探究活動 中東問題やカシミール問題に代表される民族の違いから起こる地域的課題についてグループごとに考察し、意見交換を行う。
7 8 9 10	ヨーロッパ、アングロアメリカ、ラテンアメリカ、オーストラリアと地域的課題	①ヨーロッパ、アングロアメリカ、ラテンアメリカ、オセアニアの自然、経済、政治、文化の地理的事象を学習する。 ②大航海時代から産業革命を経て成長したヨーロッパからの移民の歴史を踏まえながら、宗教、言語（公用語）の類似性と農業、工業の地域的特色について気づかせる。 ③探究活動 拡大するEU、複雑になる民族構成、解消されない経済格差、都市・交通事情の悪化、国土開発と熱帯林破壊、高齢社会と人口減少などの様々な地域的課題についてグループごとに考察し、意見交換を行う。
11	日本の地域的課題と世界の中の日本の役割	①探究活動 ・急速にグローバル化が進む今日、日本が今後直面する地理的課題を発見し、その課題を多面的・多角的に考察し、課題の解決の方向性や将来の国の在り方について展望し、意見交換を行う。 ・人口、食糧、資源、エネルギー、環境、貧富格差、貿易摩擦、民族紛争等、地球的課題を多面的・多角的に考察し、課題の解決の方向性や日本の果たすべき役割について展望し、意見交換を行う。



4. 課題・提出物等

- ①テーマ毎に、考察結果をレポートにまとめて提出する。  
 ②各学期、1～2テーマについてグループ単位で考察し、考察結果をグループごとに発表し、意見交換を行う。  
 ③長期休業中に、学習テーマに沿った新書を読み、所定の様式のレポートを提出する。

5. 評価の観点・評価規準

(A) 評価の観点

◎評価は「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「資料活用の技能」「知識・理解」の4つの観点から行います。	
「関心・意欲・態度」	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。
「思考・判断・表現」	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、歴史背景を踏まえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その課程や結果を適切に表現している。
「資料活用の技能」	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。
「知識・理解」	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。

(B) 評価の規準

- 以上のような観点をふまえ
- ①授業への取り組み（授業に取り組む意欲・態度、授業中の発言、学習への参加状況等）
  - ②授業中に使用するプリント、小テストなどの内容
  - ③定期考査
- などから総合的に評価を行う。

## 令和5年度 シラバス (地理歴史)

学番61 新潟県立柏崎高等学校

教科(科目)	地理歴史 (日本史探究)	単位数	3単位	学年・コース	3学年普通科
使用教科書	山川出版社『詳説日本史』・第一学習社『世界史A』				
副教材等	第一学習社『最新日本史図表』、山川出版社『要点整理 ゼミナール 日本史』 第一学習社『グローバルワイド最新世界史図表』				

### 1 学習目標

現在起きている世界や国内の様々な問題に対して興味・関心を深めるとともに、その背景にある因果関係や歴史的事象を幅広く学習する。また、日本の歴史と世界の歴史との相互理解を多面的・多角的に調べ考察する力や、様々な論点を整理して、その問題の原因や経過を自ら説明できる表現力を身につける。

### 2 指導の重点

- ①日本史や世界史の基礎的な知識・理解を基盤として、世界の今日的諸課題について主体的・多角的に思索できる能力の習得を目指す。
- ②グローバル化が進展する現代社会において、日本が国際社会の中でどのような責任を果たしていくべきかという点についても考察する。

### 3 学習計画 (1単位時間55分)

月	単元名	指導項目(主なテーマ)
4 5 6	(1) 帝国主義の時代	1) 東アジアと明治維新 ・欧米諸国がアジアに進出する過程の中で、植民地化や従属化、抵抗と挫折、伝統文化の変容などが起こったことを理解させる。こうした中で、日本が開国から明治維新を経て近代国家へと変貌していく過程を考察させる。 ・幕末の変動、明治政府の成立と諸改革、自由民権運動と立憲体制の成立、文明開化などを扱う。 2) 東アジアの構造変動と日本 ・帝国主義諸国の抗争、アジア・アフリカ諸国の対応など、19世紀末から20世紀初頭にかけての東アジアの近代史の展開を理解させる。 3) 探究活動 ・条約改正、日清・日露戦争期の対外問題の変化、産業革命の進行、社会問題の発生、教育の普及、都市社会の整備などに注目・考察し、考察結果をグループごとに発表し意見交換を行う。
7 8 9	(2) 世界戦争と国際社会の平和への歩み	1) 第一次世界大戦と日本 ・初の世界大戦が起こった原因、総力戦としての性格などを考察させた上で、1910年代の近代史の展開を理解させる。 ・日本の参戦、大戦景気、国際連盟の成立、ワシントン体制の成立、日本の植民地支配などを扱う。 2) デモクラシー状況と日本 ・ヴェルサイユ体制、ワシントン体制を国際秩序として成立した、1920年代の近代史の展開を理解させる。 ・大正デモクラシー状況の広がり、政党政治の推移、関東大震災の影響、大衆文化の形成、大陸政策の転換、昭和恐慌への対応などを扱う。 3) 第二次世界大戦と日本 ・世界恐慌から、ヴェルサイユ体制の崩壊を経てファシズムが台頭していく1930年代から、第二次世界大戦が終結する1945年に至るまでの近代史の展開を理解させる。 4) 探究活動

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・満州事変から日中戦争、総動員体制の構築、太平洋戦争、戦時体制、植民地の動向などを学習・考察し、考察結果をグループごとに発表し意見交換を行う。</li> </ul>
10	(3)地球社会の一員としての日本	1) 占領政策と日本 <ul style="list-style-type: none"> <li>・第二次世界大戦後、国際連合が成立する一方で、米ソの冷戦が始まった1950年代までの戦後史の展開を理解する。</li> <li>・占領政策と諸改革、日本国憲法の形成、朝鮮戦争、独立回復と沖縄、平和運動の展開などを扱う。</li> </ul>
11		2) 冷戦と日本 <ul style="list-style-type: none"> <li>・冷戦の激化、アジア・アフリカ諸国の民族運動、植民地支配からの独立などの状況を考察させ、1980年代までの戦後史の展開を理解させる。</li> <li>・日韓基本条約、ヴェトナム戦争、沖縄返還、日中国交正常化、高度経済成長、公害の発生、革新自治体、経済大国化、日米同盟のあり方などを扱う。</li> </ul>
12		3) 現代社会と日本 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域紛争の頻発、環境や資源・エネルギーをめぐる問題など、地球規模で深刻化する問題について考察させ、21世紀に入ってから今日までの日本の社会の動向を理解させる。</li> </ul> 4) 探究活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・冷戦構造の崩壊、経済のグローバル化などの問題を扱い、それらが今日的課題に与えた影響を考察し、考察結果をグループごとに発表し意見交換を行う。</li> </ul>

#### 4 課題・提出物等

①小単元ごとに小テストを実施し、成績に加味する。 ②定期考査ごとにノート・プリント等の点検を実施する。 (各テーマの考察結果をしっかりとまとめておくこと。) ③長期休業中の課題は別途指示する。
---

#### 5 評価基準

##### (A) 評価の観点

◎評価は「関心・意欲・態度」「思考・判断」「資料活用の技能・表現」「知識・理解」の4つの観点から行います。	
「関心・意欲・態度」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本史に関する様々なテーマについて、「世界史」の知識も含めて多目的に生かして、意欲的に学ぶことができる。</li> <li>・他の生徒と積極的に意見交換することができる。</li> </ul>
「思考・判断・表現」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「日本史探求」の授業で学習したことをもとに、現代社会の諸問題を様々な角度から考察することができる。</li> <li>・国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現できる。</li> </ul>
「技能」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料(図表なども含む)や史料当の視聴覚教材を積極的に活用し、歴史や現代社会に対する理解を深めることができたか。</li> </ul>
「知識・理解」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代世界を理解するために必要な歴史的知識を身につけることができる。</li> <li>・学習を通じて、現代の社会の現状と課題についてよりよく、より鋭く考察することができる。</li> </ul>

##### (B) 評価の基準

以上のような観点をふまえ ①授業への取り組み(授業に取り組む意欲・態度、授業中の発言、学習への参加状況等) ②授業中に使用するプリント、小テストなどの内容 ③定期考査 などから総合的に評価を行う。
--

令和5年度シラバス ( 数学 )

学番61 新潟県立柏崎高等学校

教科 (科目)	数学 (数学 I・A)	単位数	5 単位	学年	1 学年
使用教科書	東京書籍『数学 I Advanced』				
副教材等	東京書籍『PRIME 数学 I + A』 東京書籍『NEW ACTION LEGEND 数学 I + A』				

1 学習の到達目標等

<p>数と式、2次関数、図形と計量、場合の数と確率、図形の性質およびデータの分析について</p> <p>(1) 概念を理解することを目指します。</p> <p>(2) 基礎的な知識の習得と計算処理技能の習熟を目指します。</p> <p>(3) 習得した知識、習熟した技能を的確に活用する能力を伸ばすことを目指します。</p> <p>(4) 数学的な見方や、考え方のよさを認識できることを目指します。</p>
---

2 指導の重点

<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎・基本の徹底</li> <li>・学習習慣の確立</li> <li>・きめ細かな指導</li> </ul>	<p>基本的事項については、反復練習などによって全員が理解できるよう指導する。</p> <p>課題を細かく出して点検することによって、毎日の家庭学習の習慣を確立させる。</p> <p>基本的事項から発展的内容まで、個々に応じたきめ細かな指導を展開する。</p>
---	--

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。</li> <li>・図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。</li> <li>・数学と人間の活動の関係について認識を深めている。</li> <li>・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりすることができる。</li> <li>・図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現することができる。</li> <li>・関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察できる。</li> <li>・図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察することができる。</li> <li>・不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断することができる。</li> <li>・数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察することができる。</li> <li>・社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。</li> <li>・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。</li> </ul>

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。</li> <li>・図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。</li> <li>・数学と人間の活動の関係について認識を深めている。</li> <li>・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりすることができる。</li> <li>・図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現することができる。</li> <li>・関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察できる。</li> <li>・図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察することができる。</li> <li>・不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断することができる。</li> <li>・数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察することができる。</li> <li>・社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。</li> <li>・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。</li> </ul>

評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテストの分析 ・ 観察、実験、式やグラフでの表現の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認  などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテストの分析 ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・ 振り返りシートの記述の分析  などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテストの分析 ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・ 振り返りシートの記述の分析  などから、評価します。
------	--	--	--

### 5 学習計画

月	単元名	授業時数	学習活動（指導内容）	評価の観点	評価方法
4	数学 I 1章 数と式 1節 式の計算	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>式についての用語の意味を理解する。また、特定の文字や式の次数への着目を通して、式について多様な見方をすることができる。</li> <li>多項式の加法・減法、指数法則、多項式の乗法について基本的な計算ができる。また、2次の乗法公式を理解し、見直しをもって式を展開することができる。</li> <li>乗法公式と関連付けながら因数分解の公式を理解し、たすき掛けを含む因数分解ができる。また、見直しをもって式を因数分解することができる。</li> </ul>	a	ワークシート
				a b	ワークシート
				a b c	ワークシート
4	数学 I 1章 数と式 2節 実数	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校までに学習した数を分類、統合し、実数について理解する。また、絶対値の定義を数直線と関連づけて理解し、絶対値の性質について理解する。</li> <li>平方根の定義を理解し、根号を含む式の計算をすることができる。また、分母の有理化を理解し、分母に根号を含む基本的な分数について有理化したり計算したりすることができる。</li> </ul>	a	ワークシート
				a b	ワークシート
5	数学 I 1章 数と式 3節 1次不等式	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>不等式の意味を理解し、等式の性質と関連付けながら不等式の性質を考察することができる。</li> <li>不等式を解くことの意味を理解する。また、不等式の性質をもとに1次不等式を解く方法を考察するとともに、その解を求めることができる。</li> <li>連立不等式を解いたり、1次不等式を日常の事象の問題解決に活用したりすることができる。また、絶対値記号を含む基本的な方程式・不等式を解くことができる。</li> </ul>	a c	ワークシート
				a b	ワークシート
				a b c	ワークシート レポート
5	数学 I 2章 集合と論証 1節 集合  数学 A 1章 場合の数と確率 1節 場合の数	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>集合に関する基本的な概念を理解し、集合と要素の関係や集合どうしの関係について記号や図を用いて適切に表現することができる。また、ド・モルガンの法則を理解し、利用することができる。</li> <li>集合の要素の個数に関する基本的な関係を理解し、日常の事象の問題解決に活用することができる。</li> <li>樹形図を用いた数え上げや、和の法則、積の法則という数え上げの原則を理解し、場合の数を求めることができる。</li> </ul>	a b	ワークシート
				a b c	ワークシート レポート
				a b	ワークシート
5	定期考査	1		a b c	ペーパーテスト
5	数学 A 1章 場合の数と確率 1節 場合の数	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>順列の意味を理解し、その総数を求めることができる。また、状況に応じて、場合の数を求める方法を多面的に考察することができる。</li> <li>組合せの意味を理解し、その総数を求めることができる。また、状況に応じて、場合の数を求める方法を多面的に考察することができる。</li> </ul>	a b	ワークシート
				a b	ワークシート
5	数学 A 1章 場合の数と確率 2節 確率とその基本性質	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>事象という観点から確率を捉え直し、確率の意味を理解する。</li> <li>確率の基本性質について集合と関連付けながら理解し、性質を利用して確率を求めることができる。</li> </ul>	a b	ワークシート
				a	ワークシート
5	数学 A 1章 場合の数と確率 3節 いろいろな確率	2	独立な試行の意味を理解し、独立な試行の確率を求めることができる。また、状況に応じて、確率を求める方法を多面的に考察することができる。	a b	ワークシート
6	数学 I 3章 2次関数 1節 関数とグラフ	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>関数についての基本的な概念を理解する。また、定義域が制限された1次関数の最大値・最小値を、グラフを利用して求めることができる。</li> <li>中学校で学んだ<math>y=ax^2</math>のグラフをもとに、一般の2</li> </ul>	a	ワークシート
				a b c	ワークシート



			<p>次関数<math>y=ax^2+bx+c</math>のグラフを書く方法を考察することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定義域に応じて、2次関数の最大値・最小値を、グラフを利用して求めることができる。また、日常の事象の問題解決に2次関数を活用することができる。</li> <li>・2次関数のグラフについて、与えられた条件を満たす2次関数を求めることができる。</li> <li>・2次関数のグラフについて学んだことを振り返り、2次関数<math>y=ax^2+bx+c</math>の各係数の変化とグラフの変化の関係を多面的に考察し、その結果を説明することができる。</li> </ul>	<p>a b c</p> <p>a</p> <p>b c</p>	<p>ワークシート レポート</p> <p>ワークシート</p> <p>ワークシート</p>
6	<p>数学 I</p> <p>3章 2次関数</p> <p>2節 2次方程式・2次不等式</p>	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・因数分解や解の公式を用いて、2次方程式の解を求めることができる。</li> <li>・2次方程式<math>ax^2+bx+c=0</math>の実数解の個数と判別式<math>D=b^2-4ac</math>の符号との関係を理解する。</li> <li>・2次関数のグラフとx軸の共有点の個数と、判別式<math>D</math>の符号との関係を理解する。</li> <li>・関数のグラフを利用して不等式を解く方法を理解し、2次不等式を2次関数のグラフを利用して解くことができる。</li> <li>・2次不等式を含む連立不等式を解くことができる。また、2次不等式を日常の事象の問題解決に活用することができる。</li> </ul>	<p>a</p> <p>a</p> <p>a b</p> <p>a c</p> <p>a b c</p>	<p>ワークシート</p> <p>ワークシート</p> <p>ワークシート</p> <p>ワークシート</p> <p>ワークシート レポート</p>
7	<p>定期考査</p>	1		a b c	ペーパーテスト
7	<p>数学 A</p> <p>1章 場合の数と確率</p> <p>3節 いろいろな確率</p>	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・反復試行の意味を理解し、反復試行の確率を求めることができる。また、状況に応じて、確率を求める方法を多面的に考察することができる。</li> <li>・条件付き確率の意味と確率の乗法定理について理解し、条件付き確率を求めることができる。また、状況に応じて、確率を求める方法を多面的に考察することができる。</li> <li>・期待値の意味を理解し、期待値を求めることができる。また、期待値を意思決定に活用することができる。</li> </ul>	<p>a b</p> <p>a b c</p> <p>a b c</p>	<p>ワークシート</p> <p>ワークシート</p> <p>ワークシート レポート</p>
	<p>数学 I</p> <p>2章 集合と論証</p> <p>2節 命題と論証</p>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・命題や条件に関する基本的な概念を理解する。また、命題の真偽や条件どうしの関係を、条件を満たすもの全体の集合の包含関係と関連付けて考えることができる。</li> <li>・命題の逆・裏・対偶を理解し、対偶を利用した証明法や背理法を用いて簡単な証明をすることができる。</li> </ul>	<p>a b c</p> <p>a b</p>	<p>ワークシート</p> <p>ワークシート</p>
8	<p>課題考査</p>	1		a b	ペーパーテスト
8	<p>数学 A</p> <p>2章 図形の性質</p> <p>1節 三角形の性質</p>	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内分や外分について理解する。また、三角形の重心の定理について理解する。</li> <li>・三角形の外心の定理、三角形の垂心の定理について理解する。また、三角形の重心・外心・垂心の関係について、論理的に考察し説明することができる。</li> <li>・角の二等分線と比の定理について理解する。また、三角形の内心の定理について理解する。</li> <li>・メネラウスの定理、チェバの定理について理解し、論理的に考察し説明することができる。</li> </ul>	<p>a</p> <p>a b c</p> <p>a b</p> <p>a b c</p>	<p>ワークシート</p> <p>ワークシート</p> <p>ワークシート</p> <p>ワークシート</p>
9	<p>数学 I</p> <p>4章 図形と計量</p> <p>1節 鋭角の三角比</p>	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鋭角の三角比の意味を三角形の構成要素間の関係に関連付けて理解し、様々な場面に应用することができる。</li> <li>・三角比の相互関係や<math>90^\circ - A</math>の三角比について理解する。</li> </ul>	<p>a b c</p> <p>a</p>	<p>ワークシート レポート</p> <p>ワークシート</p>
9	<p>数学 I</p> <p>4章 図形と計量</p> <p>2節 三角比の拡張</p>	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し、<math>0^\circ</math> から<math>180^\circ</math> までの三角比を求める方法を理解する。また、三角比のとり得る値の範囲や直線の傾きと正接の関係について理解する。</li> <li>・拡張した三角比の相互関係や<math>180^\circ - \theta</math>の三角比について理解する。</li> </ul>	<p>a b c</p> <p>a c</p>	<p>ワークシート</p> <p>ワークシート</p>
10	<p>定期考査</p>	1		a b c	ペーパーテスト
10	<p>数学 A</p> <p>2章 図形の性質</p> <p>2節 円の性質</p>	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同一円周上にある点を結んでできる角についての様々な定理を理解し、利用することができる。また、これらの定理の関係について、統合的に考察することができる。</li> <li>・接線の長さの定理、方べきの定理とその逆について理解する。</li> <li>・2つの円の位置関係とそれらの共通接線について理解する。</li> <li>・平行線の作図、内分点の作図、平方根の作図について</li> </ul>	<p>a b c</p> <p>a b c</p> <p>a b</p> <p>a</p>	<p>ワークシート</p> <p>ワークシート</p> <p>ワークシート</p> <p>ワークシート</p>

			て理解する。		
10	数学 A 2章 図形の性質 3節 空間図形	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>空間における直線と平面の基本的な性質について理解する。また、直線と平面の垂直条件、三垂線の定理について理解する。</li> <li>正四面体の性質について、論理的に考察し説明することができる。</li> </ul>	a c b	ワークシート ワークシート
11	数学 I 4章 図形と計量 3節 三角形への応用	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>三角形の辺と角、外接円の半径の間に成り立つ関係を考え、正弦定理を導くことができる。また、三角形の決定条件と関連付けて正弦定理を理解し、利用することができる。</li> <li>三平方の定理の拡張として、三角形の辺と角の間に成り立つ関係を考え、余弦定理を導くことができる。また、三角形の決定条件と関連付けて余弦定理を理解し、利用することができる。</li> <li>三角形の面積を、三角比を用いて表す方法を理解する。また、円に内接する四角形の面積を求めることができる。</li> <li>空間図形の構成要素に着目して、三角比を空間図形の計量に応用することができる。</li> </ul>	a b a b c a b b	ワークシート ワークシート ワークシート ワークシート
11	数学 I 5章 データの分析 1節 データの散らばりの大きさ	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヒストグラムや箱ひげ図といったデータを整理する方法について理解し、それらからデータの傾向を把握することができる。</li> <li>データの散らばり具合を数値で表す方法の考察を通して偏差、分散、標準偏差を理解し、それらの値を求めることができる。また、分散や標準偏差を利用して複数のデータの散らばりの大きさを比較することができる。</li> <li>変数を変換した際に分散、標準偏差の値がどのように変化するかを考察し、それらの性質を利用することができる。</li> </ul>	a b a b c b c	ワークシート ワークシート レポート ワークシート
11	数学 I 5章 データの分析 2節 データの相関	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>2つの変数の組からなるデータについて、散布図および相関係数を用いて相関関係を捉えることができる。また、外れ値を知り、外れ値の統計量への影響について理解する。</li> </ul>	a c	ワークシート
11	数学 I 5章 データの分析 3節 データの分析の応用	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>統計的手法を用いた問題解決の枠組みについて知る。また、目的に応じて複数のデータを収集し、適切な統計量やグラフや手法を選択して分析を行い、データの傾向を把握して問題解決に利用することができる。</li> </ul>	a b c	ワークシート レポート
11	数学 I 5章 データの分析 4節 仮説検定の考え方	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>仮説検定の考え方を理解し、仮説検定の考え方を利用して不確実な事象に関する主張の妥当性について考察することができる。</li> </ul>	a b c	ワークシート
12	定期考査	1		a b c	ペーパーテスト
12	発展学習 数学 II 1章 方程式・式と証明 1節 多項式の乗法・除法と分数式	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>3次式の乗法公式と因数分解の公式を理解し、それらを用いて式の展開や因数分解をすることができる。</li> <li>二項定理について理解し、応用することができる。</li> <li>多項式の除法について整数の除法と関連付けながら理解し、計算することができる。</li> <li>分数式の四則計算の方法を理解し、簡単な場合について計算することができる。</li> </ul>	a a b c a c a c	ワークシート ワークシート ワークシート ワークシート
12	発展学習 数学 II 1章 方程式・式と証明 2節 2次方程式	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>数を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の四則計算をすることができる。</li> <li>解の範囲を複素数まで拡張したときの2次方程式の解の公式や解の判別について理解する。</li> <li>2次方程式の解と係数の関係、2次式の因数分解について理解し、応用することができる。</li> </ul>	a c a a b	ワークシート ワークシート ワークシート
1	課題考査	1		a b	ペーパーテスト
1	発展学習 数学 II 1章 方程式・式と証明 3節 高次方程式	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>剰余の定理、因数定理について理解し、多項式の除法や因数分解に応用することができる。</li> <li>さまざまな高次方程式を、因数分解や因数定理を用いて解くことができる。</li> </ul>	a b a b	ワークシート ワークシート
1	発展学習 数学 II 1章 方程式・式と証明 4節 式と証明	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>恒等式について理解する。また、等式の性質をもとに、等式が成り立つことを論理的に考察し、証明することができる。</li> <li>不等式の性質や実数の性質をもとに、不等式が成り立つことを論理的に考察し、証明することができる。</li> </ul>	a a b	ワークシート ワークシート
1	発展学習 数学 II 2章 図形と方程式 1節 点と直線	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>座標を用いて、数直線上、座標平面上の2点間の距離を表すことができる。</li> <li>座標を用いて、数直線上、座標平面上の内分点・外分点の位置を表すことができる。</li> <li>座標平面上の直線が1次方程式で表されることを理解する。また、与えられた条件を満たす直線の方程</li> </ul>	a b a a b	ワークシート ワークシート ワークシート

			式を求めることができる。 ・座標平面上の2直線の関係について、方程式を用いて考察することができる。また、点と直線の距離や図形の性質についても、座標や方程式を用いて考察することができる。	a b c	ワークシート レポート
2	数学 A 3章 数学と人間の活動 1節 生きている数学	2	・日常の事象を数学の考えを用いて考察し、問題解決にそれらを利用することができる。また、平面や空間において点の位置を表す座標の考え方と人間の活動との関わりについて理解する。 ・歴史的な話題を通して数学と文化との関わりについての理解を深め、数量や図形に関する概念などと人間の活動との関わりについて理解したり、目的に応じて考察したりする。	a b c a b c	ワークシート レポート ワークシート レポート
2	数学 A 3章 数学と人間の活動 2節 考える楽しみ	4	・パズルやゲームなどに数学的な要素を見だし、目的に応じて考察することができる。また、数理的なゲームやパズルを通して、数学と文化との関わりについての理解を深める。 ・約数や倍数、ユークリッドの互除法、2進法などの整数の性質と人間の活動との関わりについて理解する。また、それらの整数の性質について、関心に基づいて発展させ考察することができる。	a b c a b c	ワークシート レポート ワークシート レポート
2	定期考査	1		a b c	ペーパーテスト
3	発展学習 数学 II 2章 図形と方程式 2節 円	6	・座標平面上の円がどのように表されるかを理解する。また、与えられた条件を満たす円の方程式を求めることができる。 ・座標平面上の円と直線の位置関係について、方程式を用いて考察することができる。 ・座標平面上の2つの円の位置関係について、方程式を用いて考察することができる。	a c a b a b	ワークシート ワークシート ワークシート

計 140 時間 (55 分授業)

## 6 課題・提出物等

- ・単元ごとに小テスト（単元テスト）を実施します。
- ・授業の中で振り返りシートを適宜提出してもらいます。
- ・授業の中でレポート等を提出してもらうことがあります。
- ・授業の中でグループワークを行い、成果物の提出を求めることがあります。
- ・提出物は ①授業ごとの課題、②週末課題、③考査課題、④長期休業課題、⑤考査等解き直し 等があります。

## 7 担当者からの一言

数学は積み重ねが大切な科目です。

- ・授業内容が1番重要です。毎時間関心を持ち意欲的に取り組んでください。
- ・数学の内容はつながっています。授業後はしっかり復習して、内容を定着させましょう。
- ・チャイムが鳴るまでに着席して授業の準備をし、前回までの内容を思い出しておきましょう。
- ・余裕があれば、家庭学習で次回にやる内容の予習をしておきましょう。

以上のことを意識して、授業に臨んでください。数学は積み重ねの科目ですから、途中が抜けると積み重ねられません。わからないことは、「すぐに」「どんどん」質問してください。『聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥』

令和5年度シラバス(数学) 学番61 新潟県立柏崎高等学校

教科(科目)	数学(数学Ⅱ)	単位数	4単位	学年	2学年
使用教科書	東京書籍『数学Ⅱ Advanced』				
副教材等	東京書籍『PRIME 数学Ⅱ+B』 東京書籍『NEW ACTION LEGEND 数学Ⅱ+B』				

### 1 学習の到達目標等

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

- いろいろな式, 図形と方程式, 指数関数・対数関数, 三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに, 事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- 数の範囲や式の性質に着目し, 等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力, 座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し, 方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり, 図形の性質を論理的に考察したりする力, 関数関係に着目し, 事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力, 関数の局所的な変化に着目し, 事象を数学的に考察したり, 問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。
- 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度, 粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

### 2 指導の重点

・基礎・基本の徹底	基本的事項については、反復練習などによって全員が理解できるよう指導する。
・学習習慣の確立	課題を細かく出して点検することによって、毎日の家庭学習の習慣を確立させる。
・きめ細かな指導	基本的事項から発展的内容まで、個々に応じたきめ細かな指導を展開する。

### 3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな式, 図形と方程式, 指数関数・対数関数, 三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。</li> <li>事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数の範囲や式の性質に着目し, 等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察することができる。</li> <li>座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し, 方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり, 図形の性質を論理的に考察したりすることができる。</li> <li>関数関係に着目し, 事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察することができる。</li> <li>関数の局所的な変化に着目し, 事象を数学的に考察したり, 問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり, 粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。</li> <li>問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとしている。</li> </ul>

### 4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。		
知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな式, 図形と方程式, 指数関数・対数関数, 三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。</li> <li>事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数の範囲や式の性質に着目し, 等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察することができる。</li> <li>座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し, 方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり, 図形の性質を論理的に考察したりすることができる。</li> <li>関数関係に着目し, 事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察することができる。</li> <li>関数の局所的な変化に着目し, 事象を数学的に考察したり, 問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり, 粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。</li> <li>問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとしている。</li> </ul>

評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテストの分析 ・ 観察、実験、式やグラフでの表現の観察 ・ レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテストの分析 ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・ 振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテストの分析 ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・ 振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
------	--	--	--

### 5 学習計画

月	単元名	授業 時数	学習活動（指導内容）	評価の 観点			評価方法
				a	b	c	
4	課題考査	1		a	b	c	提出物 ペーパーテスト
	2章 図形と方程式	[14]					
	2節 円	(7)					
4	1 円の方程式	2	座標平面上の円がどのように表されるかを理解する。また、与えられた条件を満たす円の方程式を求めることができる。	a		c	ワークシート
4	2 円と直線	3	座標平面上の円と直線の位置関係について、方程式を用いて考察することができる。	a	b		ワークシート
4	3 2つの円	2	座標平面上の2つの円の位置関係について、方程式を用いて考察することができる。	a	b		ワークシート
5	3節 軌跡と領域	(7)					
5	1 軌跡の方程式	2	軌跡について理解し、さまざまな軌跡の方程式を求めることができる。	a	b		ワークシート
5	2 不等式の表す領域	4	不等式の表す領域について理解し、不等式の表す領域を図示することができる。また、命題の証明に領域を応用することができる。	a	b		ワークシート
5	[課題学習] 活用 線形計画法	1	不等式の表す領域を日常の事象の問題解決に活用することができる。		b	c	レポート
5	定期考査	1		a	b	c	提出物 ペーパーテスト 振り返りシート
	3章 三角関数	[22]					
	1節 三角関数	(14)					
5	1 一般角と弧度法	1	一般角および弧度法を理解し、弧度法を利用して扇形の弧の長さや面積を求めることができる。	a			ワークシート



5	2 三角関数	3	三角比の拡張として三角関数の定義を理解し、三角関数の符号やとり得る値の範囲について考察することができる。	a		c	ワークシート
5	3 三角関数の性質	3	三角比の相互関係の拡張として三角関数の相互関係性を理解する。また、相互関係の公式を用いて簡単な式の値を求めたり、三角関数の性質について理解を深めたりすることができる。	a		c	ワークシート
6	4 三角関数のグラフ	3	単位円を利用して三角関数のグラフを考察し、その周期性や対称性について三角関数の性質と対応させて理解する。また、定数倍や平行移動や周期に着目して、様々な三角関数のグラフをかくことができる。	a	b		ワークシート
6	5 三角関数の応用	3	三角関数を含む方程式や不等式について単位円やグラフと関連させながらその解を求めることができる。	a	b		ワークシート
6	〔課題学習〕活用 生活の中の正弦曲線	1	三角関数を、日常の事象の問題解決に活用することができる。		b	c	レポート
	2節 加法定理	(8)					
6	1 加法定理	2	加法定理について理解し、ある加法定理を利用して他の加法定理を導くことができる。また、 $15^\circ$ 、 $75^\circ$ 、 $105^\circ$ などを2つの角の和や差と見なして三角関数の値を求めることができる。	a	b		ワークシート
6	2 加法定理の応用	3	加法定理の応用として2倍角の公式や半角の公式を導き、それらを方程式・不等式を解くときに利用することができる。	a	b		ワークシート
6	3 三角関数の合成	2	三角関数の合成について理解し、それを関数の最大値・最小値や方程式の解を求めるときに利用することができる。	a	b		ワークシート
6	〔課題学習〕活用 音と正弦曲線	1	三角関数を、日常の事象の問題解決に活用することができる。		b	c	レポート
6	定期考査	1		a	b	c	提出物 ペーパーテスト 振り返りシート
	4章 指数関数・対数関数	[18]					
	1節 指数関数	(7)					

7	1 指数法則	1	指数を整数の範囲に拡張しても指数法則が成り立つように, 指数が0や負の整数の場合について考察することができる。	a		c	ワークシート
7	2 累乗根	1	累乗根の意味を理解し, 基本的な累乗根の計算ができる。	a			ワークシート
7	3 指数の拡張	2	累乗の指数について, 整数から有理数, 実数の範囲に拡張できることを理解する。また, 指数法則を利用して累乗や累乗根を含む式を計算することができる。	a		c	ワークシート
7	4 指数関数とそのグラフ	3	指数関数の値の変化やグラフの特徴について, 表の観察や他のグラフとの比較を通して理解する。また, 指数関数を含む方程式や不等式を解くことができる。	a	b	c	ワークシート
8	課題考査	1		a	b	c	提出物 ペーパーテスト
	2節 対数関数	(11)					
9	1 対数とその性質	3	指数関数と関連づけながら対数の定義を理解し, 指数法則と関連づけながら対数の基本的な性質について理解する。また, 対数を含む簡単な式の計算ができる。	a			ワークシート
9	2 対数関数とそのグラフ	4	対数関数の値の変化やグラフの特徴について, 指数関数のグラフと関連づけながら理解する。また, 対数関数を含む方程式や不等式を解くことができる。	a	b	c	ワークシート
9	3 常用対数	2	よく用いられる対数として常用対数を理解し, 常用対数表を利用して自然数の累乗の桁数を求めたり日常に関する問題を解決したりすることができる。	a	b	c	ワークシート
9	〔課題学習〕探究 常用対数と最高位の数字	1	常用対数の学習を振り返り, 自然数の累乗の値についてより詳しく調べる方法について考察する。		b	c	レポート
9	〔課題学習〕活用 星の等級と対数	1	指数関数・対数関数を, 日常の事象の問題解決に活用することができる。	a	b	c	レポート
9	定期考査	1		a	b	c	提出物 ペーパーテスト 振り返りシート
	5章 微分と積分	[31]					ワークシート
	1節 微分係数	(6)					ワークシート

	と導関数						
9	1 微分係数	2	平均の速さや瞬間の速さといった身の回りの事象と関連付けながら、平均変化率や微分係数について、その図形的な意味も含めて理解する。	a		c	ワークシート
10	2 導関数	4	微分係数を関数的に捉えることで導関数の定義を理解し、関数の定数倍、和差の導関数について考察したり簡単な関数を微分したりすることができる。	a			ワークシート
	2節 導関数の応用	(12)					ワークシート
10	1 接線	2	微分係数を利用して、曲線の接線の方程式を求めることができる。	a	b		ワークシート
10	2 関数の増減と極大・極小	4	導関数の符号と関連づけて関数の増加・減少を調べることができる。さらに、関数の極値について理解し、増減表を用いてグラフをかくことができる。	a	b		ワークシート
11	3 関数の最大・最小	2	増減表を利用して区間における関数の最大値・最小値を求めることができる。また、それを日常の事象の問題解決に活用することができる。		b	c	ワークシート
11	4 方程式・不等式への応用	3	関数のグラフとx軸や直線 $y=a$ の関係に着目し、方程式の解の個数を求めたり、不等式を証明したりすることができる。		b	c	ワークシート
11	[課題学習] 探究 箱の容積の最大値	1	微分を用いて箱の容積といった具体的な量を求める学習を振り返り、式と関連づけながら条件を変えた場合の量の変化について考察する。		b	c	ワークシート
	3節 積分	(13)					ワークシート
11	1 不定積分	2	微分法の逆演算として不定積分を理解し、定数倍、和・差の不定積分について考察したり、簡単な関数の不定積分を求めたりすることができる。	a			ワークシート
11	2 定積分	4	定積分の定義を理解し、定数倍、和・差の定積分の値を求めたり、定積分の性質について考察したりすることができる。また、定積分と微分の関係について理解する。	a	b		ワークシート
11	定期考査	1		a	b	c	提出物 ペーパーテスト 振り返りシート

12	3 定積分と面積	4	定積分の図形的な意味を理解し、曲線や直線で囲まれた図形の面積を定積分を利用して求めることができる。	a	b		ワークシート
12	〔課題学習〕探究 絶対値記号を含む関数の最大・最小	2	積分を用いて面積を求めた学習を振り返り、文字を含んだ関数の積分の最大値や最小値について考察する。		b	c	ワークシート
12	〔課題学習〕活用 宅配便で送る荷物の体積	1	微分や積分を、日常の事象の問題解決に活用することができる。		b	c	ワークシート
1	課題考査	1		a	b	c	提出物 ペーパーテスト
	発展学習数学Ⅲ 1章関数と極限	[25]					
	1節 関数	(7)					
1	1 分数関数とそのグラフ	2	分数関数とそのグラフについて理解し、既に学習した関数の性質と関連付けて多面的に考察することができる。	a	b	c	ワークシート
1	2 無理関数とそのグラフ	2	無理関数とそのグラフについて理解し、既に学習した関数の性質と関連付けて多面的に考察することができる。	a	b	c	ワークシート
1	3 逆関数と合成関数	2	逆関数や合成関数の意味を理解し、それらを求めることができる。	a			ワークシート
1	〔課題学習〕探究 無理式を含む方程式・不等式	1	無理不等式について学んだことを振り返り、統合的・発展的に考察することができる。		b	c	ワークシート
	2節 数列の極限	(10)					
1	1 数列の極限	3	数列の極限について理解し、さまざまな数列の極限を求めることができる。	a	b		ワークシート
1	2 無限等比数列	2	無限等比数列の収束、発散について理解し、これをもとにさまざまな数列の極限について考察することができる。	a	b		ワークシート
2	3 無限級数	1	無限級数の収束、発散について理解し、その和を求めることができる。	a			ワークシート
2	4 無限等比級数	2	無限等比級数の収束、発散について理解し、その和を求めたり、応用したりすることができる。	a	b		ワークシート
2	5 いろいろな	1	無限級数の和・差・実数倍の性質を利用し	a			ワークシート

	無限級数		て, さまざまな無限級数の和を求めることができる。				
2	[課題学習] 探究 いろいろな漸化式と極限值	1	漸化式で定められる数列の極限について学んだことを振り返り, 発展的に考察することができる。		b	c	ワークシート
2	定期考査	1		a	b	c	提出物 ペーパーテスト 振り返りシート
	3節 関数の極限	(8)					
2	1 関数の極限	3	関数の極限について理解し, さまざまな関数の極限を求めることができる。	a	b	c	ワークシート
2	2 三角関数と極限	2	三角関数の極限について理解し, これをもとにさまざまな関数の極限について考察することができる。	a	b	c	ワークシート
2	3 関数の連続性	2	関数の連続性について理解し, 関数の連続性を調べたり, 連続関数をもつ性質を調べたりすることができる。	a	b		ワークシート
3	[課題学習] 探究 2つの関数の商と差の極限	1	2つの関数の商と差の極限について学んだことを振り返り, 統合的・発展的に考察することができる。		b	c	ワークシート
3	[課題学習] 活用 ニュートン法	1	関数の極限について学んだことを, 問題解決に活用することができる。		b	c	レポート
	2章 微分	[10]					
	1節 微分法	(10)					
3	1 導関数	3	微分可能性について理解し, 定義に基づいて関数の導関数を求めることができる。また, 導関数の基本的な性質を理解する。	a	b		ワークシート
3	2 積・商の微分法	3	積, 商の導関数について理解し, それらを用いて基本的な関数の導関数を求めることができる。	a			ワークシート
3	3 合成関数の微分法	4	合成関数の微分法および逆関数の微分法について理解し, それらを用いていろいろな関数の導関数を求めることができる。	a	b		ワークシート

図形 14+三角 22+指針 18+微積 31+発展 35+考査 8=計 128 時間 (55 分授業)

## 6 課題・提出物等

- ・ 単元ごとに単元テストを実施します。
- ・ 授業の中で振り返りシートを適宜提出してもらいます。



- ・授業の中でレポート等を提出してもらうことがあります。
- ・授業の中でグループワークを行い、成果物の提出を求めることがあります。
- ・提出物は ①授業ごとの課題、②週末課題、③考査課題、④長期休業課題、⑤考査等解き直し 等があります。

## 7 担当者からの一言

数学は積み重ねが大切な科目です。

- ・授業内容が1番重要です。毎時間関心を持ち意欲的に取り組んでください。
- ・数学の内容はつながっています。授業後はしっかり復習して、内容を定着させましょう。
- ・チャイムが鳴るまでに着席して授業の準備をし、前回までの内容を思い出しておきましょう。
- ・余裕があれば、家庭学習で次回にやる内容の予習をしておきましょう。

以上のことを意識して、授業に臨んでください。数学は積み重ねの科目ですから、途中が抜けると積み重ねられません。わからないことは、「すぐに」「どんどん」質問してください。『聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥』

(担当：中原 健二)

令和5年度シラバス (数学) 学番61 新潟県立柏崎高等学校

教科(科目)	数学(数学B)	単位数	1単位	学年	2学年
使用教科書	東京書籍『数学B Advanced』				
副教材等	東京書籍『PRIME 数学II+B』 東京書籍『NEW ACTION LEGEND 数学II+B』				

### 1 学習の到達目標等

<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p> <p>(1) 数列についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。</p> <p>(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>
--

### 2 指導の重点

<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎・基本の徹底</li> <li>・学習習慣の確立</li> <li>・きめ細かな指導</li> </ul>	<p>基本的事項については、反復練習などによって全員が理解できるよう指導する。</p> <p>課題を細かく出して点検することによって、毎日の家庭学習の習慣を確立させる。</p> <p>基本的事項から発展的内容まで、個々に応じたきめ細かな指導を展開する。</p>
---	--

### 3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・等差数列と等比数列について理解し、それらの一般項や和を求めることができる。</li> <li>・いろいろな数列の一般項や和を求める方法について理解している。</li> <li>・漸化式について理解し、事象の変化を漸化式で表したり、簡単な漸化式で表された数列の一般項を求めたりすることができる。</li> <li>・数学的帰納法について理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事象から離散的な変化を見だし、それらの変化の規則性を数学的に表現し考察することができる。</li> <li>・事象の再帰的な関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、数列の考えを問題解決に活用することができる。</li> <li>・自然数の性質を見だし、それらを数学的帰納法を用いて証明するとともに、他の証明方法と比較し多面的に考察することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事象を数列の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。</li> <li>・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。</li> </ul>

### 4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・等差数列と等比数列について理解し、それらの一般項や和を求めることができる。</li> <li>・いろいろな数列の一般項や和を求める方法について理解している。</li> <li>・漸化式について理解し、事象の変化を漸化式で表したり、簡単な漸化式で表された数列の一般項を求めたりすることができる。</li> <li>・数学的帰納法について理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事象から離散的な変化を見だし、それらの変化の規則性を数学的に表現し考察することができる。</li> <li>・事象の再帰的な関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、数列の考えを問題解決に活用することができる。</li> <li>・自然数の性質を見だし、それらを数学的帰納法を用いて証明するとともに、他の証明方法と比較し多面的に考察することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事象を数列の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。</li> <li>・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。</li> </ul>

評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテストの分析 ・ 観察、実験、式やグラフでの表現の観察 ・ レポートやワークシート、提出物などの内容の確認  などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテストの分析 ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・ 振り返りシートの記述の分析  などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテストの分析 ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・ 振り返りシートの記述の分析  などから、評価します。
------	--	--	--

### 5 学習計画

月	単元名	授業 時数	学習活動 (指導内容)	評価の 観点			評価方法
	1章 数列	[29]					提出物 ペーパーテスト
	1節 数列	(19)					
4	1 数列	1	数列についての基本的な用語の意味を理解する。	a			ワークシート
4	2 等差数列	5	等差数列について理解し、一般項や和を求めることができる。	a	b		ワークシート
5	3 等比数列	5	等比数列について理解し、一般項や和を求めることができる。	a	b		ワークシート
5	定期考査	1		a	b	c	提出物 ペーパーテスト 振り返りシート
5	4 和の記号 $\Sigma$	3	和の記号 $\Sigma$ について理解し、一般項が3次以下の多項式で表される数列の和を求めることができる。	a	b	c	ワークシート
6	5 階差数列	2	階差数列について理解する。また、数列の和と一般項の関係について理解し、一般項を求めることができる。	a			ワークシート
6	6 いろいろな 数列	2	いろいろな数列の和や、群数列について考察することができる。		b	c	ワークシート
6	探究 いろいろ な数列の和の求 め方	1	数列の和について学んだことを振り返り、数列の和の求め方について統一的・発展的に考察することができる。		b	c	レポート
6	定期考査	1		a	b	c	提出物 ペーパーテスト 振り返りシート
	2節 漸化式と 数学的帰納法	(10)					
7	1 漸化式	5	漸化式について理解し、さまざまな事象の考察に応用することができる。	a	b		ワークシート
9	2 数学的帰納 法	3	数学的帰納法について理解し、数学的帰納法を用いてさまざまな命題を証明するこ	a	b	c	ワークシート

			とができる。				
9	探究 数列の漸化式の様々な見方	1	漸化式について学んだことを振り返り, 多面的に考察することができる。		b	c	レポート
9	活用 複利法とローンの返済	1	数列を日常の事象の問題解決に活用することができる。		b	c	レポート
9	定期考査	1		a	b	c	提出物 ペーパーテスト 振り返りシート

数列 19+漸化式 10+考査 3=計 32 時間 (55 分授業)

## 6 課題・提出物等

- ・ 単元ごとに単元テストを実施します。
- ・ 授業の中で振り返りシートを適宜提出してもらいます。
- ・ 授業の中でレポート等を提出してもらうことがあります。
- ・ 授業の中でグループワークを行い、成果物の提出を求めることがあります。
- ・ 提出物は ①授業ごとの課題、②週末課題、③考査課題、④長期休業課題、⑤考査等解き直し 等があります。

## 7 担当者からの一言

数学は積み重ねが大切な科目です。

- ・ 授業内容が 1 番重要です。毎時間関心を持ち意欲的に取り組んでください。
- ・ 数学の内容はつながっています。授業後はしっかり復習して、内容を定着させましょう。
- ・ チャイムが鳴るまでに着席して授業の準備をし、前回までの内容を思い出しておきましょう。
- ・ 余裕があれば、家庭学習で次回にやる内容の予習をしておきましょう。

以上のことを意識して、授業に臨んでください。数学は積み重ねの科目ですから、途中が抜けると積み重ねられません。わからないことは、「すぐに」「どんどん」質問してください。『聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥』

(担当：中原 健二)

令和5年度シラバス(数学) 学番61 新潟県立柏崎高等学校

教科(科目)	数学(数学C)	単位数	1単位	学年	2学年
使用教科書	東京書籍『数学C Advanced』				
副教材等	東京書籍『PRIME 数学C』 東京書籍『NEW ACTION LEGEND 数学C』				

### 1 学習の到達目標等

<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) ベクトルについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。</p> <p>(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>
---

### 2 指導の重点

<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎・基本の徹底</li> <li>・学習習慣の確立</li> <li>・きめ細かな指導</li> </ul>	<p>基本的事項については、反復練習などによって全員が理解できるよう指導する。</p> <p>課題を細かく出して点検することによって、毎日の家庭学習の習慣を確立させる。</p> <p>基本的事項から発展的内容まで、個々に応じたきめ細かな指導を展開する。</p>
---	--

### 3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平面上のベクトルの意味、相等、和、差、実数倍、位置ベクトル、ベクトルの成分表示について理解している。</li> <li>・ベクトルの内積及びその基本的な性質について理解している。</li> <li>・座標及びベクトルの考えが平面から空間に拡張できることを理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実数などの演算の法則と関連付けて、ベクトルの演算法則を考察することができる。</li> <li>・ベクトルやその内積の基本的な性質などを用いて、平面図形や空間図形の性質を見いだしたり、多面的に考察したりすることができる。</li> <li>・数量や図形及びそれらの関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルやその内積の考えを問題解決に活用することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事象をベクトルの考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。</li> <li>・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。</li> </ul>

### 4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平面上のベクトルの意味、相等、和、差、実数倍、位置ベクトル、ベクトルの成分表示について理解している。</li> <li>・ベクトルの内積及びその基本的な性質について理解している。</li> <li>・座標及びベクトルの考えが平面から空間に拡張できることを理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実数などの演算の法則と関連付けて、ベクトルの演算法則を考察することができる。</li> <li>・ベクトルやその内積の基本的な性質などを用いて、平面図形や空間図形の性質を見いだしたり、多面的に考察したりすることができる。</li> <li>・数量や図形及びそれらの関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルやその内積の考えを問題解決に活用することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事象をベクトルの考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。</li> <li>・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。</li> </ul>



評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテストの分析 ・ 観察、実験、式やグラフでの表現の観察 ・ レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテストの分析 ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・ 振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテストの分析 ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・ 振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
------	--	--	--

### 5 学習計画

月	単元名	授業 時数	学習活動（指導内容）	評価の 観点			評価方法
	1章 ベクトル	[30]					
	1節 平面上のベクトル	(10)					
10	1 ベクトルの意味	1	ベクトルの意味，相等などについて理解する。	a			
10	2 ベクトルの加法・減法・実数倍	3	ベクトルの和，差，実数倍，平行，分解について理解し，それらを図示したり求めたりすることができる。また，多項式の演算法則と関連付けて，ベクトルの演算法則を考察することができる。	a		c	ワークシート
10	3 ベクトルの成分	2	ベクトルの成分表示について理解し，演算，分解，平行についての問題を成分表示を利用して解くことができる。	a	b		ワークシート
10	4 ベクトルの内積	3	ベクトルの内積及びその基本的な性質について理解し，様々な場面に応用することができる。	a	b		ワークシート
11	探究 内積と図形の性質	1	ベクトルの内積について学んだことを振り返り，平面図形の性質を見いだしたり，多面的に考察したりすることができる。		b	c	レポート
	2節 ベクトルの応用	(10)					
11	1 位置ベクトル	5	位置ベクトルについて理解し，点の位置や図形の性質について考察することができる。	a	b		ワークシート
11	定期考査	1		a	b	c	提出物 ペーパーテスト 振り返りシート
12	2 ベクトル方程式	4	ベクトル方程式について理解する。また，条件を満たす点の存在範囲などについて考察することができる。	a	b	c	ワークシート
12	探究 直線の方程式 $ax+by=c$	1	直線の法線ベクトルについて学んだことを振り返り，直線 $ax+by=c$ における定数		b	c	レポート

	の $c$ の意味		$c$ が直線に関するどのような条件から定まるかについて考察することができる。				
	3節 空間におけるベクトル	(10)					
1	1 空間における座標	1	空間の座標について理解し、2点間の距離、座標平面に平行な平面の方程式を求めることができる。	a			ワークシート
1	2 空間におけるベクトル	3	空間におけるベクトルの意味や演算、内積などについて、平面の場合と関連付けながら理解する。	a		c	ワークシート
2	3 位置ベクトルと空間図形	3	空間における位置ベクトルについて理解し、空間図形の考察に応用することができる。	a	b		ワークシート
2	定期考査	1		a	b	c	提出物 ペーパーテスト 振り返りシート
3	探究 三角形の重心と四面体の重心	1	空間における位置ベクトルについて学んだことを振り返り、四面体の性質を見いだしたり、多面的に考察したりすることができる。		b	c	レポート
3	活用 ビリヤードにおける玉の衝突	1	ベクトルを日常の事象の問題解決に活用することができる。		b	c	レポート

ベクトル 30+考査 2=計 32時間 (55分授業)

## 6 課題・提出物等

- ・ 単元ごとに単元テストを実施します。
- ・ 授業の中で振り返りシートを適宜提出してもらいます。
- ・ 授業の中でレポート等を提出してもらうことがあります。
- ・ 授業の中でグループワークを行い、成果物の提出を求めることがあります。
- ・ 提出物は ①授業ごとの課題、②週末課題、③考査課題、④長期休業課題、⑤考査等解き直し 等があります。

## 7 担当者からの一言

数学は積み重ねが大切な科目です。

- ・ 授業内容が1番重要です。毎時間関心を持ち意欲的に取り組んでください。
- ・ 数学の内容はつながっています。授業後はしっかり復習して、内容を定着させましょう。
- ・ チャイムが鳴るまでに着席して授業の準備をし、前回までの内容を思い出しておきましょう。
- ・ 余裕があれば、家庭学習で次回にやる内容の予習をしておきましょう。

以上のことを意識して、授業に臨んでください。数学は積み重ねの科目ですから、途中が抜けると積み重ねられません。わからないことは、「すぐに」「どんどん」質問してください。『聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥』

令和5年度シラバス ( 数学 ) 学番61 新潟県立柏崎高等学校

教科 (科目)	数学Ⅲ	単位数	5	学年 (コース)	3 (普通科)
使用教科書	東京書籍『数学Ⅲ Advanced』				
副教材等	東京書籍『PRIME 数学Ⅲ』、東京書籍『PRIME 数学Ⅲ 演習ノート』 東京書籍『NEWACTION LEGEND 数学Ⅲ』 東京書籍「ニューグローバル 数学Ⅲ」				

1 学習目標

関数と極限, 微分法, 積分法, 式と曲線, 複素数平面について理解を深め, 知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察し処理する能力を育てる。

2 指導の重点

- ・理科系の大学, 学部要充分合格できるレベルまで知識・理解を深めます。
- ・特に微分法とその応用, 積分法とその応用に力を入れ, 理解を深めます。

3 学習計画 ( 55分 )

月	単元名	教材	主要学習領域	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4	4章 微分	教科書	知識・理解 関心・意欲・態度	1節 微分法 1 導関数 2 積・商の微分法 3 合成関数の微分法 2節 いろいろな関数の導関数 1 三角関数の導関数 2 対数関数・指数関数の導関数 3 高次導関数	15 時間	授業態度 日々の課題 定期考査
5	5章 微分の応用			1節 接線, 関数の増減 1 接線・法線の方程式 2 平均値の定理 3 関数の増減 4 関数の極大・極小 5 第2次導関数とグラフ 2節 微分のいろいろな応用 1 最大・最小 2 方程式・不等式への応用 3 速度・加速度 4 近似式	15 時間	授業態度 日々の課題 定期考査
6	6章 積分とその応用			1節 不定積分 1 不定積分とその基本公式 2 置換積分法と部分積分法 3 いろいろな関数の不定積分 2節 定積分 1 定積分	25 時間	授業態度 日々の課題 定期考査
7				2 定積分の置換積分法 3 定積分の部分積分法		

				4 定積分で表された関数 5 定積分と区分求積法 6 定積分と不等式 3節 面積・体積・長さ 1 面積 2 体積 3 曲線の長さと道のり		
8	2章 複素数平面			1節 複素数平面 1 複素数平面 2 複素数の極形式 3 ド・モアブルの定理 2節 図形への応用 1 円と分点 2 複素数と三角形	15 時間	授業態度 日々の課題 定期考査
9 10 11	個別学力試験 対策	ニュー グロ バル	思考・判断・表現 観察・実験の技能	マーク形式の中で利用できる発 展的内容を整理し、解答の流れも 意識して解答を導く方法を考察 する。	50 時間	授業態度 定期考査
12 1 2 3					40 時間	授業態度
					160	

4 課題・提出物等

予定表を配付して、指示します。

5 評価基準と評価方法

	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の 観点・ 規準	極限、微分法、積分法、式と曲線、複素数平面に関心をもつとともに、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、極限、微分法、積分法、式と曲線、複素数平面における数学的な見方や考え方を身に付けている。	極限、微分法、積分法、式と曲線、複素数平面において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	極限、微分法、積分法、式と曲線、複素数平面における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評価 方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習活動への参加状況</li> <li>発表内容</li> <li>課題の内容</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査</li> <li>課題の解法</li> <li>質問に対する発言や発表の内容</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査</li> <li>課題の内容</li> <li>質問に対する発言や発表の内容</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査</li> <li>単元テスト</li> <li>質問に対する発言や発表の内容</li> </ul>

6 担当者からの一言

難易度が高くなり、進度もかなり速くなります。予習・復習をしっかりとってください。意欲的に取り組むことが大切です。

令和4年度シラバス ( 数学 )

学番61 新潟県立柏崎高等学校

教科 (科目)	数学総合	単位数	5	学年 (コース)	3 (普通科)
使用教科書	「数学Ⅰ」、「数学A」、「数学Ⅱ」、「数学B」(東京書籍)				
副教材等	東京書籍 「ニューグローバルマーチ 数学ⅠAⅡB」 ラーズ 「共通テスト対策 実力養成 重要問題演習 数学」				

1 学習目標

数学における概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高めるとともに、習得した知識や技能を活用して問題解決的な課題を探究することをおして、思考力・判断力・表現力を高め、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を育成する。

2 指導の重点

2年次までに学習した内容を総合的に復習することで理解を深め、他の単元と関連させた多角的な考察力を養う。

3 学習計画 ( 55分 )

月	単元名	教材	主要学習領域	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4	数学ⅠⅡAⅡBの 発展学習	ニュー グロー バルマ ーチ	知識・理解 思考・判断・表現 関心・意欲・態度	「数と式」(Ⅰ)	60 時間	授業態度 課題の提出 定期考査
5				「2次関数」(Ⅰ)		
6				「図形と計量」(Ⅰ)		
7				「確率」(A)		
8				「整数の性質」(A)		
				「図形の性質」(A)		
				「複素数と方程式」(Ⅱ)		
				「三角関数」(Ⅱ)		
9	共通テスト対策 個別学力試験対策	重要問 題演習	思考・判断・表現 観察・実験の技能	「指数関数と対数関数」(Ⅱ)	60 時間	授業態度 定期考査
				「式と証明」(Ⅱ)		
				「図形と方程式」(Ⅱ)		
10			「微分法と積分法」(Ⅱ)			
11			「ベクトル」(B)			
12			「数列」(B)			
1	共通テスト直前対 策	重要問 題演習	思考・判断・表現 観察・実験の技能	マーク形式の中で利用できる発 展的内容を整理し、効率よく解答 を導く方法を考察する。	40 時間	授業態度 定期考査
2						
3						
					160	

4 課題・提出物等



予定表を配付して、指示します。

## 5 評価基準と評価方法

	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の観点・規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に積極的に取り組んでいる。</li> <li>・数学的論拠に基づいて判断しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を多様な単元や分野と関連させ、総合的に事象を考察している。</li> <li>・他者の考えを参考に多面的・発展的に考え、数学的な見方を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事象を数学的に考察している。</li> <li>・自らの思考の過程やその結果を論理的に表現し、数学的に表現、処理する技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学における概念や原理・法則、用語や記号などを体系的に理解し、知識を身に付けている。</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動への参加状況</li> <li>・レポートの内容</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・プリントや課題の解法</li> <li>・質問に対する発言や発表の内容</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・質問に対する発言や発表の内容</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・質問に対する発言や発表の内容</li> </ul>

## 6 担当者からの一言

解説に頼り、短期的な暗記による学習の進め方ではなく、自分で考える学習へ切り替えてください

令和5年度シラバス ( 数学 )

学番 6 1 新潟県立柏崎高等学校

教科 (科目)	数学探究 I	単位数	2	学年 (コース)	3 (普通科)
使用教科書	「数学 I」、「数学 A」、「数学 II」、「数学 B」(東京書籍)				
副教材等	東京書籍 「ニューグローバルマーチ 数学 I A II B」 ラーズ 「共通テスト対策 実力養成 重要問題演習 数学」				

1 学習目標

数学 I II A Bにおける概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高めるとともに、発展的な問題について習得した知識や技能を活用することで、思考力・判断力・表現力を高め、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を育成する。

2 指導の重点

- ・共通テストにおいて全国平均点以上を取ることができるレベルまで知識・理解を深めます。
- ・発展的な問題について、多角的に考察する力を養います。

3 学習計画 ( 55分 )

月	単元名	教材	主要学習領域	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4 5 6 7	数学 II B の 発展学習	ニューグ ローバ ルマー チ 重要問題 演習	知識・理解 思考・判断・表現 関心・意欲・態度	「複素数と方程式」(II) 「三角関数」(II) 「指数関数と対数関数」(II) 「式と証明」(II) 「図形と方程式」(II) 「微分法と積分法」(II) 「ベクトル」(B) 「数列」(B)	20 時間	授業態度 課題の提出 定期考査
8 9	数学 I A の 発展学習			「数と式」(I) 「2次関数」(I) 「図形と計量」(I) 「確率」(A) 「整数の性質」(A) 「図形の性質」(A)	14 時間	授業態度 定期考査
10 11 12 1 2 3	共通テスト 対策 個別学力試 験対策	重要問題演 習	思考・判断・表現 観察・実験の技能	マーク形式の中で利用できる発展 的内容を整理し、効率よく解答を 導く方法を考察する。	10 時間 20 時間	授業態度 定期考査
					64	

#### 4 課題・提出物等

予定表を配付して、指示します。

#### 5 評価基準と評価方法

	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の観点・規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に積極的に取り組んでいる。</li> <li>・数学的論拠に基づいて判断しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を多様な単元や分野と関連させ、総合的に事象を考察している。</li> <li>・他者の考えを参考に多面的・発展的に考え、数学的な見方を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事象を数学的に考察している。</li> <li>・自らの思考の過程やその結果を論理的に表現し、数学的に表現、処理する技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学における概念や原理・法則、用語や記号などを体系的に理解し、知識を身に付けている。</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動への参加状況</li> <li>・発表内容</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・課題の解法</li> <li>・質問に対する発言や発表の内容</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・質問に対する発言や発表の内容</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・質問に対する発言や発表の内容</li> </ul>

#### 6 担当者からの一言

マーク形式の問題に慣れ、効率よく解答を導く方法を考察し、その力をつけて下さい。

令和5年度シラバス ( 数学 )

学番61 新潟県立柏崎高等学校

教科 (科目)	数学探究Ⅱ	単位数	5	学年 (コース)	3 (普通科)
使用教科書	「数学Ⅰ」、「数学A」、「数学Ⅱ」、「数学B」(東京書籍)				
副教材等	東京書籍 「ニューグローバルマーチ 数学ⅠAⅡB」 ラーズ 「共通テスト対策 実力養成 重要問題演習 数学」				

1 学習目標

数学における概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高めるとともに、習得した知識や技能を活用して問題解決的な課題を探究することをおして、思考力・判断力・表現力を高め、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を育成する。

2 指導の重点

2年次までに学習した内容を総合的に復習することで理解を深め、他の単元と関連させた多角的な考察力を養う。

3 学習計画 ( 55分 )

月	単元名	教材	主要学習領域	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4	数学ⅠⅡAⅡBの 発展学習	ニュー グロー バルマ ーチ	知識・理解 思考・判断・表現 関心・意欲・態度	「数と式」(Ⅰ)	60 時間	授業態度 課題の提出 定期考査
5				「2次関数」(Ⅰ)		
6				「図形と計量」(Ⅰ)		
7				「確率」(A)		
8				「整数の性質」(A)		
				「図形の性質」(A)		
				「複素数と方程式」(Ⅱ)		
				「三角関数」(Ⅱ)		
9	共通テスト対策 個別学力試験対策	重要問 題演習	思考・判断・表現 観察・実験の技能	「指数関数と対数関数」(Ⅱ)	60 時間	授業態度 定期考査
				「式と証明」(Ⅱ)		
				「図形と方程式」(Ⅱ)		
				「微分法と積分法」(Ⅱ)		
				「ベクトル」(B)		
10	「数列」(B)					
11						
12	共通テスト直前対 策	重要問 題演習	思考・判断・表現 観察・実験の技能		40 時間	授業態度 定期考査
					160	

4 課題・提出物等

予定表を配付して、指示します。

## 5 評価基準と評価方法

	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の観点・規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に積極的に取り組んでいる。</li> <li>・数学的論拠に基づいて判断しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を多様な単元や分野と関連させ、総合的に事象を考察している。</li> <li>・他者の考えを参考に多面的・発展的に考え、数学的な見方を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事象を数学的に考察している。</li> <li>・自らの思考の過程やその結果を論理的に表現し、数学的に表現、処理する技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学における概念や原理・法則、用語や記号などを体系的に理解し、知識を身に付けている。</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動への参加状況</li> <li>・レポートの内容</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・プリントや課題の解法</li> <li>・質問に対する発言や発表の内容</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・質問に対する発言や発表の内容</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・質問に対する発言や発表の内容</li> </ul>

## 6 担当者からの一言

解説に頼り、短期的な暗記による学習の進め方ではなく、自分で考える学習へ切り替えてください



令和5年度シラバス ( 数学 ) 学番61 新潟県立柏崎高等学校

教科 (科目)	数学探究Ⅲ	単位数	2	学年 (コース)	3 (普通科)
使用教科書	「数学Ⅰ」、「数学A」、「数学Ⅱ」、「数学B」、「数学Ⅲ」(東京書籍)				
副教材等	東京書籍 「ニューグローバル 数学Ⅲ」 東京書籍 「ニューグローバルマーチ 数学ⅠAⅡB」 ラーズ 「共通テスト対策 実力養成 重要問題演習 数学」				

1 学習目標

数学ⅠⅡⅢABにおける概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高めるとともに、発展的な問題について習得した知識や技能を活用することで、思考力・判断力・表現力を高め、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を育成する。

2 指導の重点

- ・理科系の大学、学部要充分合格できるレベルまで知識・理解を深めます。
- ・発展的な問題について、多角的に考察する力を養います。

3 学習計画 ( 55分 )

月	単元名	教材	主要学習領域	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4 5 6 7 8	数学ⅠⅡABの 発展学習	ニューグローバルマーチ 重要問題演習	知識・理解 思考・判断・表現 関心・意欲・態度	「数と式」(Ⅰ) 「2次関数」(Ⅰ) 「図形と計量」(Ⅰ) 「確率」(A) 「整数の性質」(A) 「図形の性質」(A) 「複素数と方程式」(Ⅱ) 「三角関数」(Ⅱ) 「指数関数と対数関数」(Ⅱ) 「式と証明」(Ⅱ) 「図形と方程式」(Ⅱ) 「微分法と積分法」(Ⅱ) 「ベクトル」(B) 「数列」(B)	24 時間	授業態度 課題の提出 定期考査
9 10 11	数学Ⅲの 発展学習	ニューグローバルマーチ ニューグローバル数学Ⅲ	知識・理解 思考・判断・表現 関心・意欲・態度 観察・実験の技能	「複素数平面」(Ⅲ) 「式と曲線」(Ⅲ) 「極限」(Ⅲ) 「微分と積分」(Ⅲ)	20 時間	授業態度 定期考査
12 1 2 3	共通テスト対策 個別学力試験対策	重要問題演習 ニューグローバルマーチ ニューグローバルⅢ	思考・判断・表現 観察・実験の技能	マーク形式の中で利用できる発展的内容を整理し、効率よく解答を導く方法を考察する。	20 時間	授業態度 定期考査
					64	

4 課題・提出物等

予定表を配付して、指示します。

## 5 評価基準と評価方法

	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の 観点・ 規準	科目を横断した数学の演習に関心をもつとともに、それら的事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	科目を横断した数学の演習において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数学の基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評価 方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動への参加状況</li> <li>・発表内容</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・課題の解法</li> <li>・質問に対する発言や発表の内容</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・質問に対する発言や発表の内容</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・質問に対する発言や発表の内容</li> </ul>

## 6 担当者からの一言

難易度が高くなり、進度もかなり速くなります。予習・復習をしっかりとってください。意欲的に取り組むことが大切です。

教科(科目)	理科(物理基礎)	単位数	2単位
学年	1学年		
使用教科書	第一学習社『高等学校 新物理基礎』		
副教材等	第一学習社『プロGRESS 物理基礎』 第一学習社『セミナー物理基礎』		

1 学習目標

- ・各物理量の定義を覚え、それらを用いて諸現象を数式で表現出来るようにする。
- ・方程式を用いて導出した解に、どのような意味があるのかを考察する姿勢を養う。
- ・諸現象に対し疑問を持ち、既存の知識でそれらを理解しようとする姿勢を養う。

2 指導の重点

- ・各物理量の定義を丁寧に伝える。
- ・基礎的な計算を丁寧に行う。
- ・発問をし、生徒に疑問を抱かせる時間を作る。

3 学習計画 (※時数の数値は、55分授業の実施回数を記載しています。)

月	単元	学習内容	時間	学習の目標・到達目標
4	<b>第1編 運動とエネルギー</b>			
5	第1章 運動の表し方	1. 速度	8	速度をベクトルとして取り扱うことができる
		2. 加速度		等加速度運動を、式・グラフを通して理解する
	第2章 運動の法則	3. 落体の運動		等加速度運動の例として落体の運動を理解する
		1. 力とそのはたらき 2. 力のつりあい		力を図示できる 力のつりあいと作用・反作用を区別できる
1学期中間考査				
6	第2章 運動の法則	3. 運動の法則	10	運動方程式を立てることができる
		4. 摩擦を受ける運動		摩擦力の性質がわかる
		5. 液体や気体から受ける力		圧力の式とその単位について理解させる ・アルキメデスの原理(浮力)を理解する
7	第3章 仕事と力学的エネルギー	1. 仕事		仕事, エネルギーの定義を理解する
1学期期末考査				
8		2. 運動エネルギー	10	運動エネルギーの式が導ける。受けた仕事と運動エネルギーとの関係を理解する
9		3. 位置エネルギー		仕事とエネルギーの関係を用いて, 物体の運動を理解する
		4. 力学的エネルギーの保存		
<b>第2編 熱</b>				
10	第1章 熱とエネルギー	1. 熱と熱量	5	熱運動, 熱量の保存を理解する
		2. 熱と物質の状態		熱運動と, 物質の状態変化の関係を理解する。
		3. 熱と仕事		内部エネルギー、熱力学第一法則を理解する。
		4. 不可逆変化と熱機関		熱力学第二法則、熱効率を理解する
2学期中間考査				

月	単元	学習内容	時間	学習の目標・到達目標
<b>第3編 波</b>				
11	第1章 波の性質	1. 波と媒質の運動	15	波の性質を理解し、波の振動や波形をグラフや式で表すことができる
		2. 波の伝わり方		重ね合わせの原理をもとに、定常波や干渉など、波のいろいろな現象を正しく理解する
12	第2章 音	1. 音の性質		発音体の固有振動、共振・共鳴現象を関連づけて理解する
		2. 発音体の振動と共振・共鳴		
2学期期末考査				
<b>第4編 電気</b>				
1	第1章 物質と電気抵抗	1. 電気の性質	11	静電気が引き起こす様々な現象について正しく理解する
		2. 電流と電気抵抗		電気回路におけるオームの法則(電流・電圧・抵抗)について正しく理解する
2	第2章 交流と電磁波	3. 電気とエネルギー		消費電力および電気エネルギーについて定量的に正しく取り扱うことができる。
		1. 交流		発電機の仕組み、変圧器の性質を理解する
3	第5編 物理学と社会	2. 電磁波	電波の種類と、波の性質も理解する	
		第1章 エネルギーとその利用	エネルギー変換方法やその応用を理解する	
3	第2章 物理学が拓く世界	1. エネルギーの移り変わり	5	各種エネルギーの発電の仕組みが分かる
		2. エネルギー資源と発電		身近な世界での摩擦力の利用について理解する。
3	第2章 物理学が拓く世界	1. 摩擦をコントロールする		様々なエネルギーの利用を考えられる
		2. エネルギーを有効利用する		超音波、X線、CTなどの可視化を理解する
3	第2章 物理学が拓く世界	3. 見えないものを見る	超音波、X線、CTなどの可視化を理解する	
		学年末考査		

計 64 55分授業

**4 課題・提出物等**

- ・実験レポートの提出(不定期)
- ・定期考査を区切りに課題を提出

**5 指導の観点の要旨**

知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各物理量の定義を覚えている。定義および法則を数式で表すことができる。	諸現象と、それに関わる法則を関連づけることができる。複雑な現象を、要素に分解することができる。	未知の現象に対して、自分が持っている知識を用いて説明しようとする。自ら疑問を発見し、それを解決しようとする。

上記の観点をふまえ、以下の①～③により総合的に評価する。

- ① 定期考査
- ② 課題・レポート等の提出物
- ③ 授業・実験等への取り組み

**6 担当者から**

物理で最も重要なのは、「速度」や「温度」などの定義を正しく理解することです。それらを用いれば、様々な現象をシンプルに表現することができます。物理基礎を学習する上で重要なことは、1回の学習時間を最低1時間、確保することです。10分程度で毎日やるよりも、週に1回1時間学習した方がよりよい結果が得られるはずで、その理由は授業で説明します。

教科 (科目)	理科 (生物基礎)	単位数	2単位	学年	1学年
使用教科書	東京書籍「生物基礎」				
副教材等	第一学習社「スクエア最新図説生物 neo」 数研出版「リードα生物基礎」				

1 学習目標

日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

2 指導の重点

- 教科書の基本的な内容の理解を深めるとともに、発展的な内容に対する興味・理解を高める。
- 観察・実験を多く取り入れ、探究の過程を重視した指導を進める。
- 問題演習に積極的に取り組み、学習の定着をはかるとともに、自ら学習の深化をはかる姿勢を育成する。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
生物の共通性と多様性に関する基本的な概念・原理・法則などの理解・定着がなされている。	生物の共通性と多様性について、実証的・分析的・総合的に考察を進め、理解を深めようとしている。	生物の共通性と多様性に関する事物、現象について積極的に科学的探究を深めようとしている。

4 評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・レポートやワークシートなどの内容確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・レポートやワークシートなどの内容確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシートなどの内容確認 などから、評価します。
	内容のまとめりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。		

5 学習計画 (1 単位時間 55 分)

月	単元名	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4	1 編 生物の特徴	・生物の種と分類・系統について理解を深める。	16	・授業への取り組み ・レポート ・定期考査 ・課題テスト 等をもとに、総合的に判断する。
5		・生物の基本的な特徴を理解する。		
6		・同化や異化の代謝の過程で生じるエネルギーの授受に ATP が利用されていることを理解する。 ・酵素の基本的な特徴を理解する。 ・光合成、呼吸の仕組みについて理解する。		
7	2 編 遺伝子とそのはたらき	・生命現象には多種多様なタンパク質が関与していることを理解し、その構造についての理解を深める。 ・遺伝情報は、ATGC の 4 つの文字のみで表現されており、4 文字の組み合わせによって 遺伝情報を表現していることを理解する。 ・転写と翻訳のしくみについて理解する。 ・個体を構成する細胞は、同一の遺伝情報をもつが、それぞれの細胞で発現する遺伝子は、その細胞の機能により異なることを理解する。	8	1 学期期末考査まで
8	3 編 ヒトの体の調節	・体内環境と体液の関係について理解する。	18	2 学期中間考査まで  2 学期期末考査まで
9		・フィードバックによって、体内環境の恒常性が維持されていることを理解する。		
10		・人体のさまざまな器官とその役割や構造を知る。 ・神経細胞の構造と情報伝達のしくみについて理解を深める。 ・体内環境の維持と自律神経系による調節を関連付けて		



11		理解する。 ・内分泌腺と分泌されるホルモン, その作用について知り, ホルモンが受容されるしくみを理解する。		
12		・免疫について分類や特性を理解するとともに, それを支えるリンパ球の種類と役割を理解する。 ・免疫記憶と二次応答について理解する。 ・アレルギー, を例に免疫機能の低下による疾患について理解する。		
1	4編 生物の多様性と生態系	・環境要因と環境形成作用の関係について理解する。 ・森林の階層構造と光環境の関係について理解する。 ・環境要因としての土壌の構造や成り立ちについて理解する。	19	
2		・植生の遷移について, モデル的な過程とその要因を理解する。		
3		・バイオームと種多様性の関係について理解する。 ・食物網について理解する。 ・種多様性の高さが生態系全体のバランスを保つことを理解する。 ・人為的攪乱, 自然攪乱について生物の多様性との関係を理解する。 ・生物多様性と生態系サービスの関係について理解する。		
3	結章 生物基礎と私たち	・生物基礎の学習内容を関連するさまざまな活動を通して, 生物基礎が日常のさまざまな場面で関わっていることを体感する。また, 体感したことを表現し, 他者に伝える。	3	学年末考査まで
			64	

6 課題・提出物等

- ・定期考査ごとにワークの提出があります。
- ・レポートの提出 (不定期)

7 担当者からの一言

医療や食糧生産など、21世紀の私たちの生活の基盤を支える生命科学の基礎を学び、自然科学に対する興味関心を高めるとともに、科学的な見方、考え方を身につけてほしい。

令和5年度シラバス(理科) 学番61 新潟県立柏崎高等学校

教科(科目)	理科(化学基礎)	単位数	2単位	学年	2学年(理系1・理系2)
使用教科書	数研出版『化学基礎』				
副教材等	第一学習社『セミナー 化学基礎+化学』、文英堂『必修整理ノート 化学基礎』、実教出版『サイエンスビュー 新化学資料』				

1 学習目標

<p>物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3)物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>
---

2 指導の重点

<p>①思考力・判断力・表現力のもとになる、基礎事項の理解の徹底を図る。</p> <p>②応用事項についての理論構築ができる力を身につけさせる。</p> <p>③問題解決的な演習にも取り組み、化学的な思考力、判断力、表現力を養成する。</p>
---

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	物質とその変化から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

4 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査等の分析 ・観察、実験、式やグラフでの表現の観察 ・レポート、提出物などの内容の確認や分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査等の分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポート、提出物などの内容の確認や分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポート、提出物などの内容の確認や分析 などから、評価します。
	<p>内容のまとめりごとに、次観点で評価します。</p> <p>「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」</p> <p>内容のまとめりごとの評価規準は授業等で説明します。</p>		

5 学習計画

月	単元名	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4	物質の構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・混合物と純物質について、物質は混合物と純物質に分類されることを理解する。混合物から純物質を得る方法についても理解する。</li> <li>・物質とその成分について、元素は元素記号で表されることを理解し、元素の種類により単体や化合物に分類されることを理解する。</li> <li>・物質の三態と熱運動について、物質の三態と絶対温度の定義について理解する。</li> </ul>	4	授業への取組 レポート 定期考査 課題テスト  等をもとに、総合的に判断する。
	物質の構成粒子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原子とその構造において、原子の構造について理解する。また、同位体・電子配置・価電子について原子の構造と関連させながら理解する。</li> <li>・イオンの電子配置が貴ガス型をとり安定化していることを理解。</li> <li>・元素の性質から考え出された周期律と周期表との関係を理解する。また、価電子の数やイオン化エネルギーの周期性についても、周期表と関連しながら理解する。</li> </ul>	4	
	粒子の結合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イオン結合について原子や原子団がどのようにして電気を帯びるか、さらにその電気を帯びた粒子がどのような力によって結合するかを理解する。さらに、イオンからなる物質の種類や表し方・特徴的な性質を理解する。</li> </ul>	2	
5	粒子の結合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共有結合のしくみを理解する。また、分子式をはじめ電子式や構造式を理解する。さらに、配位結合と錯イオンについて理解する。</li> <li>・電気陰性度を理解し、共有結合では電子の偏りが生じること、分子の形によって分子全体として極性が生じること理解する。</li> </ul>	4	
	定期考査		1	
	粒子の結合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分子からなる物質の固体である分子結晶や共有結合の結晶について、性質が大きく異なることを理解する。</li> <li>・金属結合について理解し、身のまわりで使われている金属について学ぶ。</li> </ul>	3	
	物質質量と 化学反応式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原子量・分子量・式量について、原子の質量はきわめて小さいため、原子量という概念によって異なる元素の原子の質量が比較しやすくなることを理解する。また、物質質量についてそれを単位として扱うほうが便利であることを理解し、物質質量の概念を学ぶ。</li> </ul>	2	

月	単元名	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
5	物質と 化学反応式	・物質は化学全体にわたって必須の概念なので、数値的な扱い方を体得する。また、気体については物質と体積も重要な関係があるのであわせて理解する。	3	授業への取組 レポート 定期考査 課題テスト  等をもとに、総合的に判断する。
6	物質と 化学反応式	・溶液の濃度について、パーセント濃度やモル濃度の定義を学び、扱いに慣れる。 ・化学反応式と物質について、化学変化を化学反応式やイオン反応式で表すことを学び、それをもとにして量的関係が把握できるように理解する。	7	
	酸と塩基の反応	・酸と塩基の定義 (アレニウスの定義、ブレンステッドの定義) を理解する。 ・水は一部が電離していること、水溶液の酸性や塩基性の程度を pH により表すことができることを理解する。	6	
	定期考査		1	
7	酸と塩基の反応	・酸と塩基が中和するときの量的関係を理解する。 ・塩の定義と分類の方法、塩の水溶液の性質を理解する。	7	
	酸化還元反応	・酸化・還元の定義を理解し、さらに原子の酸化数の決め方について学ぶ。酸化数より酸化還元の指摘ができる。	4	
8 ・ 9	酸化還元反応	・酸化剤・還元剤のはたらきとそのときに起こる化学変化を化学反応式で表せるようになる。それをもとに酸化還元の量的関係も理解する。 ・金属が水溶液中でイオンとなることは、酸化還元反応の一つであり、金属のイオン化傾向は、金属の種類によって異なることを理解する。また、金属のイオン化傾向が異なると、金属単体の性質が大きく異なることを理解し、金属の化学的性質と密接に関係していることを理解する。 ・電解質水溶液と金属を利用することによって電池ができることを学び、金属を鉱石から得る精錬の手法についても酸化還元反応と関連しながら理解する。	12	
	化学と人間生活	・人間生活の中の化学における、日常にあふれる様々な物質について、その分類や性質をとらえる。 ・化学とその役割について、化学の果たすべき役割について理解する。	3	
	定期考査		1	

計 64 時間 (55 分授業)

## 6 課題・提出物等

- ・ 单元ごとの演習プリント, 実験プリントの提出
- ・ 定期考査前の問題集ノートの提出
- ・ 連休および長期休業中の課題

## 7 担当者からの一言

化学は, 物質の性質などを知識として覚える面と化学反応の仕組みなどを理論的に理解していく面の二つの面があり, 全体を結びつけて考えられるようになるまでに時間がかかります。それまでは, 日々の授業を大切に, 少しずつ知識と理解を積み重ねるといふ地道な努力を続けてほしい。その際, 自分で考えたり感じたりすることが何より大切です。授業中に疑問に思ったことは, その場で質問してください。理解を深め, 知識を整理するには自主的・主体的な学習が不可欠です。

令和5年度シラバス(理科) 学番61 新潟県立柏崎高等学校

教科(科目)	理科(化学基礎)	単位数	2単位	学年	2学年(文系)
使用教科書	数研出版『化学基礎』				
副教材等	第一学習社『標準セミナー 化学基礎』				

1 学習目標

<p>物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3)物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>
---

2 指導の重点

<p>①思考力・判断力・表現力のもとになる、基礎事項の理解の徹底を図る。</p> <p>②応用事項についての理論構築ができる力を身につけさせる。</p> <p>③問題解決的な演習にも取り組み、化学的な思考力、判断力、表現力を養成する。</p>
---

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	物質とその変化から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

4 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査等の分析 ・観察、実験、式やグラフでの表現の観察 ・レポート、提出物などの内容の確認や分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査等の分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポート、提出物などの内容の確認や分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポート、提出物などの内容の確認や分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、次観点を評価します。 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 内容のまとまりごとの評価規準は授業等で説明します。		



5 学習計画

月	単元名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	物質の構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・混合物と純物質について、物質は混合物と純物質に分類されることを理解する。混合物から純物質を得る方法についても理解する。</li> <li>・物質とその成分について、元素は元素記号で表されることを理解し、元素の種類により単体や化合物に分類されることを理解する。</li> <li>・物質の三態と熱運動について、物質の三態と絶対温度の定義について理解する。</li> </ul>	4	授業への取組 レポート 定期考査 課題テスト  等をもとに、総合的に判断する。
5	物質の構成粒子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原子とその構造において、原子を構成している粒子（陽子、中性子、電子）について理解し、同位体と放射能の関連性を理解する。</li> </ul>	4	
	定期考査		1	
	粒子の結合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原子の電子配置・価電子および安定な貴ガス原子の電子配置について理解し、イオンが生じるしくみを理解する。</li> <li>・イオン式の理解と定着を図る。</li> <li>・元素の性質から考え出された周期律と周期表との関係を理解する。また、価電子の数やイオン化エネルギーの周期性についても、周期表と関連しながら理解する。</li> </ul>	4	
6	粒子の結合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イオン結合について原子や原子団がどのようにして電気を帯びるか、さらにその電気を帯びた粒子がどのような力によって結合するかを理解する。さらに、イオンからなる物質の種類や表し方（組成式）・特徴的な性質の理解と定着を図る。</li> <li>・共有結合のしくみを理解する。また、分子式をはじめ電子式や構造式および分子の形を理解する。さらに、配位結合と錯イオンについて理解する。</li> </ul>	6	
	定期考査		1	
7	粒子の結合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電気陰性度を理解し、共有結合では電子の偏りが生じること、分子の形によって分子全体として極性が生じること理解する。</li> <li>・分子からなる物質の固体である分子結晶や共有結合の結晶について、性質が大きく異なることを理解する。</li> <li>・金属結合について理解し、身のまわりで使われている金属について学ぶ。</li> </ul>	4	
8	物質質量と化学反応式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原子量・分子量・式量について、原子の質量はきわめて小さいため、原子量という概念によって異なる元素の原子の質量が比較しやすくなることを理解する。</li> </ul>	2	

月	単元名	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
9	物質量と 化学反応式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物質量についてそれを単位として扱うほうが便利であることを理解し、物質量の概念を学ぶ。</li> <li>・物質量は化学全体にわたって必須の概念なので、数値的な扱い方を体得する。また、気体については物質量と体積も重要な関係があるのであわせて理解する。</li> <li>・溶液の濃度について、パーセント濃度やモル濃度の定義を学び、扱いに慣れる。</li> <li>・化学反応式と物質量について、化学変化を化学反応式やイオン反応式で表すことを学び、それをもとにして量的関係が把握できるように理解する。</li> </ul>	6	授業への取組 レポート 定期考査 課題テスト  等をもとに、総合的に判断する。
	定期考査		1	
10 ・ 11	酸と塩基の反応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・酸と塩基の定義（アレニウスの定義、ブレンステッドの定義）を理解する。</li> <li>・水は一部が電離していること、水溶液の酸性や塩基性の程度を pH により表すことができることを理解する。</li> <li>・酸と塩基が中和するときの量的関係を理解する。</li> <li>・塩の定義と分類の方法、塩の水溶液の性質を理解する。</li> </ul>	13	
	定期考査		1	
12 ・ 1	酸化還元反応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・酸化・還元の定義を理解し、さらに原子の酸化数の決め方について学ぶ。酸化数より酸化還元の指摘ができる。</li> <li>・酸化剤・還元剤のはたらきとそのときに起こる化学変化を化学反応式で表せるようになる。それをもとに酸化還元の量的関係も理解する。</li> <li>・金属が水溶液中でイオンとなることは、酸化還元反応の一つであり、金属のイオン化傾向は、金属の種類によって異なることを理解する。また、金属のイオン化傾向が異なると、金属単体の性質が大きく異なることを理解し、金属の化学的性質と密接に関係していることを理解する。</li> <li>・電解質水溶液と金属を利用することによって電池ができることを学び、金属を鉱石から得る精錬の手法についても酸化還元反応と関連しながら理解する。</li> </ul>	13	
2	化学と人間生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間生活の中の化学における、日常にあふれる様々な物質について、その分類や性質をとらえる。</li> <li>・化学とその役割について、化学の果たすべき役割について理解する。</li> </ul>	3	
	定期考査		1	

計 64 時間 (55 分授業)

## 6 課題・提出物等

- ・ 単元ごとの演習プリント, 実験プリントの提出
- ・ 定期考査前の問題集ノートの提出
- ・ 連休および長期休業中の課題

## 7 担当者からの一言

化学は、物質の性質などを知識として覚える面と化学反応の仕組みなどを理論的に理解していく面の二つの面があり、全体を結びつけて考えられるようになるまでに時間がかかります。それまでは、日々の授業を大切に、少しずつ知識と理解を積み重ねるといふ地道な努力を続けてほしい。その際、自分で考えたり感じたりすることが何より大切です。授業中に疑問に思ったことは、その場で質問してください。理解を深め、知識を整理するには自主的・主体的な学習が不可欠です。

令和5年度シラバス(理科) 学番61 新潟県立柏崎高等学校

教科(科目)	理科(化学)	単位数	2単位	学年	2学年(理系1・理系2)
使用教科書	数研出版『化学』				
副教材等	第一学習社『セミナー 化学基礎+化学』、文英堂『必修整理ノート 化学』、実教出版『サイエンスビュー 新化学資料』				

1 学習目標

<p>化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3)化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>
---

2 指導の重点

<p>①思考力・判断力・表現力のもとになる、基礎事項の理解の徹底を図る。</p> <p>②応用事項についての理論構築ができる力を身につけさせる。</p> <p>③問題解決的な演習にも取り組み、化学的な思考力、判断力、表現力を養成する。</p>
---

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
化学の基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身につけている。	化学的な事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	化学的な事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

4 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査等の分析 ・観察、実験、式やグラフでの表現の観察 ・レポート、提出物などの内容の確認や分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査等の分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポート、提出物などの内容の確認や分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポート、提出物などの内容の確認や分析 などから、評価します。
	内容のまとめりごとに、次観点で評価します。 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 内容のまとめりごとの評価規準は授業等で説明します。		

5 学習計画

月	単元名	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
10	固体の構造	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原子の電子配置と価電子の意味、イオンは希ガス型の電子配置で安定化していることを理解する。</li> <li>・イオン結晶の種類と性質、構造を理解する。</li> <li>・共有結合を理解する。配位結合や電気陰性度と極性、分子結晶について学ぶ。</li> <li>・共有結合の結晶について理解する。</li> <li>・結晶格子について種類や密度、アボガドロ定数との関係を理解する。</li> </ul>	7	授業への取組 レポート 定期考査 課題テスト  等をもとに、総合的に判断する。
	物質の状態変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・粒子の熱運動について、熱運動から大気圧を理解する。</li> <li>・三態の変化とエネルギーについて、状態変化には熱の出入りがあることを学ぶ。また、融点・沸点が同種の物質どうしでどのように変化するか、分子間力や化学結合の強弱から考える。</li> <li>・気液平衡の概念と蒸気圧、蒸発と沸騰の違い、沸点について学ぶ。</li> </ul>	4	
11	気体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気体の体積と圧力・温度との関係について学ぶ。</li> <li>・気体の状態方程式を導き、その使い方を学ぶ。気体の分子量を測定できることを学ぶ。</li> <li>・混合気体の圧力について理解する。</li> <li>・理想気体とは何かを学び、実在気体との違いを理解する。</li> </ul>	8	
	溶液	<ul style="list-style-type: none"> <li>・溶解の定義、物質の溶解のしくみの違いを学ぶ。</li> <li>・溶解度について、飽和溶液の溶質と溶媒についての量的関係を学び、計算方法を体得する。</li> <li>・希薄溶液の性質について、沸点上昇・凝固点降下を学ぶ。また、浸透圧を利用して分子量の測定ができることを学ぶ。</li> <li>・コロイド溶液について、コロイドの定義と性質を学ぶ</li> </ul>	5	
	定期考査		1	
12	化学反応とエネルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・化学反応と熱について、化学反応の種類と反応エンタルピーおよび状態変化に伴う熱などの種類と定義を学び、これらを化学反応式とエンタルピー変化で表すことができること、またヘスの法則を用いて、未知の熱量を計算で求められることを学ぶ。さらに、共有結合の結合エネルギーについても学ぶ。</li> <li>・化学反応は光によっても引き起こされるものがあること、反応に伴って光を発する現象について学ぶ。また、光触媒や光合成についても学ぶ。</li> </ul>	7	

月	単元名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
12	電池と電気分解	・電池について、電池の電極における反応について知る。また、電池には充電のできない一次電池と充電のできる二次電池があることを理解する。	3	授業への取組 レポート 定期考査 課題テスト  等をもとに、総合的に判断する。
1	電池と電気分解	・電気分解について、水溶液を電気分解したときにどのような物質が生成するかを理解する。また、ファラデーの法則を学び、電気分解における反応物・生成物の量は流れた電気量と密接に関連していることを、演習を通して体得する。 ・電気分解を利用した物質の工業的製法について学ぶ。	5	
	化学反応の速さとしくみ	・化学反応の速さについて、化学反応には、瞬間的に進む反応と長時間かかる反応があることと反応の速さの表し方を学ぶ。反応条件によって、反応の速さが変化するかなどを学ぶ。また、触媒により反応が速くなるしくみを学ぶ。 ・反応条件と反応速度について、反応速度式の表し方を学んだ後、反応物の濃度・温度・触媒によって反応速度がどのように変化するかを学ぶ。また、触媒の工業的な利用について学ぶ。 ・化学反応のしくみについて、化学反応がどのように進行するかについて活性化エネルギーを考えることで理解する。	9	
2	化学平衡	・化学反応には正逆いずれの方向にも進行するものがあること、その多くの場合、反応物も生成物も同時に存在する平衡状態に達することを学ぶ。また、その状態は平衡定数で表されることを学び、それをもとにして質量作用の法則を理解する。 ・ルシャトリエの原理について学び、濃度・圧力・温度の変化とどのような関係があるのかを学ぶ。	6	
	定期考査		1	
3	化学平衡	・電解質水溶液の化学平衡について、電解質の水溶液でも化学平衡が成りたつことを知り、代表的な弱酸や弱塩基について、濃度と電離度・電離定数などの関係を学ぶ。また、化学基礎で学んだpHをさらに深く学習し、電離定数を用いたpHの求め方を、演習を通して体得する。さらに、塩の加水分解、弱酸・弱塩基の遊離、緩衝液、難溶性電解質の電離平衡についても学ぶ。	7	

計 64 時間（55 分授業）



## 6 課題・提出物等

- ・ 单元ごとの演習プリント, 実験プリントの提出
- ・ 定期考査前の問題集ノートの提出
- ・ 連休および長期休業中の課題

## 7 担当者からの一言

化学は, 物質の性質などを知識として覚える面と化学反応の仕組みなどを理論的に理解していく面の二つの面があり, 全体を結びつけて考えられるようになるまでに時間がかかります。それまでは, 日々の授業を大切に, 少しずつ知識と理解を積み重ねるといふ地道な努力を続けてほしい。その際, 自分で考えたり感じたりすることが何より大切です。授業中に疑問に思ったことは, その場で質問してください。理解を深め, 知識を整理するには自主的・主体的な学習が不可欠です。

### 令和5年度シラバス(理科)

教科(科目)	理科(物理)	単位数	2単位
学年(コース)	2学年(普通科理系1・理系2)		
使用教科書	第一学習社『高等学校物理』		
副教材等	第一学習社『セミナー物理』		

#### 1 学習目標

自然界における様々な物理現象について、講義と観察・実験を通して論理的に探究する能力態度を養うとともに、基本的な概念や原理・法則に対する理解を深める。また、問題演習を通して、大学入試などのより高度な問題解決能力を身に付ける。

#### 2 指導の重点

- ① 物理量に関する定義などの基本事項を正しく理解している。
- ② 授業を通して、具体的な物理現象と理論とを結びつけて理解できるようになる。
- ③ 授業での学習内容を受けて、教科書の例題、問、練習問題、章末問題を自力で解くことができる。
- ④ 日々の自宅学習において、担当者の配布する練習問題および問題集の基本問題を確実に解くことができる。
- ⑤ ④を繰り返すことで基礎の定着を図り、応用問題にも積極的に取り組むことができる。

#### 3 学習計画 (※時数の数値は、55分授業での実施回数を記載しています。)

月	単元	学習内容	時間	学習の目標・到達目標
4	第1編 力と運動			
5	第1章 平面内の運動	1. 平面運動の速度・加速度	4	平面内の運動(速度・加速度)をベクトルとして扱うことができる。
		2. 落体の運動		
	1学期中間考査		1	
6	第2章 剛体	1. 剛体にはたらく力のつりあい	5	大きさのある物体のつりあいを理解する。
		2. 剛体にはたらく力の合力と重心		
7	第3章 運動量の保存	1. 運動量と力積	7	物体が衝突や分裂をする際の運動量、力積、運動量の保存などを理解する。
		2. 運動量保存則		
		3. 反発係数		
	1学期期末考査		1	
8 9	第4章 円運動と万有引力	1. 等速円運動	10	円運動、単振動など物体にはたらく力の大きさや向きが一定でない運動について、それらの規則性を理解する。
		2. 慣性力		
		3. 単振動		
		4. 万有引力		
	2学期中間考査		1	
	第2編 熱と気体			
10	第1章 気体のエネルギーと状態変化	1. 気体の法則	5	気体について成り立つ法則、微視的な立場から見た物質の熱的な性質及び気体についての熱力学第一法則を理解する。
		2. 気体分子の運動		
		3. 気体の状態変化		
	第3編 波			
11	第1章 波の伝わり方	1. 正弦波	5	水面波、音や光など、波の伝わり方や干渉、回折などについて理解する。
		2. 波の伝わり方		
	2学期期末考査		1	
12 12~1	第2章 音の伝わり方	1. 音の伝わり方	10	音の干渉、回折及びドップラー効果について基本的な性質を理解する。
		2. 音のドップラー効果		
1~2	第3章 光	1. 光の性質	8	光の伝わり方、回折及び干渉について理解する。
		2. レンズ		
		3. 光の干渉と回折		
3	まとめ 1年間の復習	問題演習	5	基礎を定着させる。
		学年末考査		

計 64

#### 4 課題・提出物等

- ① 授業で課す課題を一定期間ごとに提出
- ② 長期休業前に課題を指示し、新学期開始時に提出
- ③ 外部模試の実施前に、対策用として過去の問題を配布

5 評価規準と評価方法

知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各物理量の定義を覚えている。定義および法則を数式で表すことができる。	諸現象と、それに関わる法則を関連づけることができる。複雑な現象を、要素に分解することができる。	未知の現象に対して、自分が持っている知識を用いて説明しようとする。自ら疑問を発見し、それを解決しようとする。
<p>上記の観点をつまみ、以下の①～③により総合的に評価する。</p> <p>① 定期考査</p> <p>② 課題・レポート等の提出物</p> <p>③ 授業・実験等への取り組み</p>		

6 担当者から

<p>予習について … 授業前に教科書および図録をよく読む</p> <p>授業について … 授業をよく聞き、考えながら板書事項をノートに書き取る。不明な点は、必ず教科担当者に質問をして解決を図ること。</p> <p>復習について … 教科書・ノートで授業内容の再確認を行い、配布されたプリントの未解答の問題に取り組むこと。</p> <p>問題集の問題は授業と並行しながら進め、時期をおいて繰り返し行うこと。内容の定着こそ実力アップの鍵である。</p> <p>実力向上 … 自分にあった参考書や問題集を早期に見つけ演習を何度も繰り返す。</p> <p>外部模試は良問の宝庫。過去の問題も含めて復習は不可欠。</p> <p>物理は、個々の物理法則を言葉・式・グラフなどで表現でき、その成立条件を明確に把握し、他者に説明できるようになってはじめて完全に理解したこととなる。この域に達すれば物理の「おもしろさ」「奥深さ」が分かり、問題も容易に解くことができるようになる。覚えるべき内容は他教科に比べ決して多くないので、一つひとつの物理概念に対する理解を深める努力をしてもらいたい。</p>
--

令和5年度シラバス ( 理科 )

学番 6 1 新潟県立柏崎高等学校

教科 (科目)	理科 (生物)	単位数	2	学年 (コース)	2 学年 (理系 1・理系 2)
使用教科書	東京書籍「生物」				
副教材等	第一学習社「スクエア最新図説生物 neo」 数研出版「リードα生物」				

1 学習目標

生物や生物現象を更に広範に取り扱い、生物学的に探究する能力と態度を身に付けさせるとともに生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深めさせ、科学的な自然観を育てる。

2 指導の重点

- 1 教科書の基本的な内容の理解を深めるとともに、発展的な内容に対する興味・理解を高める。
- 2 観察・実験を多く取り入れ、探究の過程を重視した指導を進める。
- 3 問題演習に積極的に取り組み、学習の定着をはかるとともに、自ら学習の深化をはかる姿勢を育成する。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
生物の進化について、生命の起源と細胞の進化の基本的な概念・原理・法則などの理解・定着がなされている。	生物の進化について、実証的・分析的・総合的に考察を進め、理解を深めようとしている。	生命の起源と細胞の進化に関する事物、現象について積極的に科学的探究を深めようとしている。

4 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・レポートやワークシートなどの内容確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・レポートやワークシートなどの内容確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシートなどの内容確認 などから、評価します。
	内容のまとめりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。		

5 学習計画

月	単元名	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4	1 編 生物の進化 1 章 生命の起源と細胞の進化	生命の起源について理解し、地球上で生活する生物の多様性は、進化の結果生じたものであることについての理解を深める。	6  一学期 中間考査 まで	・授業への 取り組み ・レポート ・定期考査 ・課題テスト  等をもとに、 総合的に判
5	2 章 遺伝子変化と進化のしくみ	DNA の塩基配列に変化が生じたときに形質に変異が起こるしくみを理解し、遺伝子の変化と進化のしくみについて理解を深める。	1 1	

6 7	3章 生物の系統と進化	形態や生態的特徴に基づく生物の分類について理解し、人類の出現と変遷についての理解を深める。	1 1  一学期 期末考査 まで	断する。
8 9	2編 生命現象と物質 1章 細胞と物質	細胞を構成する成分や細胞小器官について理解するとともに、生体内で重要な役割を担うタンパク質について理解する。	1 0  二学期 中間考査 まで	
1 0 1 1	2章 代謝とエネルギー	生物がエネルギーを獲得し、利用するしくみ（呼吸や発酵、光合成等）について、理解を深める。	1 4  二学期 期末考査 まで	
1 2 1	3編 遺伝情報の発現と発生 1章 遺伝情報とその発現	遺伝子の本体である DNA の構造と複製のしくみ、転写、翻訳について理解を深める。	6  三学期期 末考査ま で	
2	2章 発生と遺伝子発現	遺伝子の発現調節のしくみや、動物の配偶子形成とウニ、カエルの発生について理解を深める。	6	
			6 4	

## 6 課題・提出物等

実験・観察に際しては、レポートを提出することとなります。  
各休業時や定期考査時には課題を提出することとなります。  
授業内において、確認テストや小テストを行います。

## 7 担当者からの一言

現在最もめざましい展開をみせる生命科学、そして今後の地球環境の基盤を支える生物界についての理解を、意欲的に進めてほしい。

令和5年度シラバス (理科)

学番61 新潟県立柏崎高等学校

教科 (科目)	理科 (化学)	単位数	5 単位	学年 (コース)	3 学年 (理系)
使用教科書	数研出版『化学』				
副教材等	第一学習社『セミナー化学基礎+化学』、実教出版『サイエンスビュー化学総合資料』、数研出版『チェック&演習 化学』				

1 学習目標

化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探求する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。

2 指導の重点

大多数の生徒が大学進学を希望していることから、

- ①基礎事項の理解の徹底を図る。
- ②応用事項についての理論構築ができる力を身につけさせる。
- ③国公立大学の個別試験および私立大学入試に対応できる学力を養成する。

3 学習計画

月	単元名	教材	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4	電池と電気分解	教科書 副教材 プリント	・電気分解について、水溶液を電気分解したときにどのような物質が生成するかを理解する。また、ファラデーの法則を学び、電気分解における反応物・生成物の量は流れた電気量と密接に関連していることを、演習を通して体得する。電気分解を利用した物質の工業的製法について学ぶ。	4	定期テスト 小テスト 授業の取組
	化学反応の速さとしくみ	教科書 副教材 プリント	・化学反応の速さについて、化学反応には、瞬間的に進む反応と長時間かかる反応があることと反応の速さの表し方を学ぶ。反応条件によって、反応の速さが変化するかなどを学ぶ。また、触媒により反応が速くなるしくみを学ぶ。 ・反応条件と反応速度について、反応速度式の表し方を学んだ後、反応物の濃度・温度・触媒によって反応速度がどのように変化するかを学ぶ。また、触媒の工業的な利用について学ぶ。 ・化学反応のしくみについて、化学反応がどのように進行するかについて活性化エネルギーを考えることで理解する。	7	定期テスト 小テスト 授業の取組
5	化学平衡	教科書 副教材 プリント	・化学反応には正逆いずれの方向にも進行するものがあること、その多くの場合、反応物も生成物も同時に存在する平衡状態に達することを学ぶ。また、その状態は平衡定数で表されることを学び、それをもとにして質量作用の法則を理解する。 ・ル・シャトリエの原理について学び、濃度・圧力・温度の変化とどのような関係があるのかを学ぶ。 ・平衡の状態を数値化 (平衡定数) して表す、その取り扱い方を学ぶ。平衡定数を使えば、様々な状態が数値計算によって求められることを知る。また、平衡定数には濃度平衡定数と圧平衡定数があることを学ぶ。 ・電解質水溶液の化学平衡について、電解質の水溶液でも化学平衡が成り立つことを知り、代表的な弱酸や弱塩基について、濃度と電離度・電離定数などの関係を学ぶ。また、化学基礎で学んだ pH をさらに深く学習し、電離定数を用いた pH の求め方を、演習を通して体得する。さらに、塩の加水分解、弱酸・弱塩基の遊離、緩衝液、難溶性電解質の電離平衡についても学ぶ。	9	定期テスト 小テスト 授業の取組
5	定期テスト			1	
5	非金属元素	教科書 副教材 プリント	・非金属元素の無機物質各論について学習する。周期表の同族元素ごとに学習し、同族元素の性質の共通性や隣り合った族の元素の相違点を整理しながら、学習する。	8	定期テスト 小テスト 授業の取組



6	非金属元素	教科書 副教材 プリント	・非金属元素の無機物質各論について学習する。周期表の同族元素ごとに学習し、同族元素の性質の共通性や隣り合った族の元素の相違点を整理しながら、学習する。	2	定期テスト 小テスト 授業の取組
	金属元素(I) ー典型元素ー	教科書 副教材 プリント	・典型金属元素の無機物質各論について学習する。周期表の同族元素ごとに学習し、同族元素の性質の共通性や隣り合った族の元素の相違点を整理しながら、学習する。	7	定期テスト 小テスト 授業の取組
6	金属元素(II) ー遷移元素ー	教科書 副教材 プリント	・遷移金属元素の無機物質各論について学習する。周期表の同族元素ごとに学習し、同族元素の性質の共通性や隣り合った族の元素の相違点を整理しながら、学習する。	7	定期テスト 小テスト 授業の取組
	定期テスト			1	
7	有機化合物の 分類と分析	教科書 副教材 プリント	・有機化合物の定義にふれ、・炭素原子の結合の仕方 で様々な構造をもつことができる有機化合物について、 正しく分類できるようにする。 ・有機化合物の分析の手順、方法を学ぶ。	2	定期テスト 小テスト 授業の取組
7	脂肪族炭化水 素	教科書 副教材 プリント	・脂肪族炭化水素について、単純な組成の炭化水素に ついて学習し、性質の共通点を中心に理解を進める。	6	定期テスト 小テスト 授業の取組
8	定期テスト			1	
8 9	アルコールと 関連化合物	教科書 副教材 プリント	・酸素を含む有機化合物について学習し、各分類された有 機化合物の性質について共通点、特異点をおさえながら、 学習する。	10	定期テスト 小テスト 授業の取組
9	芳香族化合物	教科書 副教材 プリント	・ベンゼン環をもつ有機化合物について学習する。単純な 芳香族炭化水素から複雑な組成の芳香族化合物について 学習し、各分類された有機化合物の性質について共通点、 特異点をおさえながら、学習する。	8	定期テスト 小テスト 授業の取組
	定期テスト			1	
10	高分子化合物 の性質	教科書 副教材 プリント	・高分子化合物とは何か、まずその特徴や性質について学 ぶ。	2	定期テスト 小テスト 授業の取組
	天然高分子化 合物	教科書 副教材 プリント	・有機高分子化合物の単量体である、単糖について学び、 それらが縮合してできる二糖についても学ぶ。また、それ らの性質についても学習する。 ・有機高分子化合物の単量体である、アミノ酸について学 び、それらがどのような性質をもつかを学習する。また、 それらが縮合重合してどのように高分子を形成し、どのよ うな性質をもつかを学習する。	12	定期テスト 小テスト 授業の取組
	合成高分子化 合物	教科書 副教材 プリント	・合成繊維・合成樹脂・ゴム・機能性高分子について、そ れぞれの単量体、それらが縮合重合してどのように高分子 を形成し、どんな性質をもつようになるかを学習する。ま た、人工的に様々な機能をもつ高分子をどのようににつく っているかを学ぶ。	12	定期テスト 小テスト 授業の取組
11	総合演習	化学基礎～化学の全分野の総合演習		14	
12	定期テスト			1	
12	共通テスト対 策	問題集	・共通テストに向けて各分野が理解されているか確認す る。	15	授業の取組
1	共通テスト対 策	問題集	・共通テストに向けマーク問題の演習を行い、実践力を つける。	15	授業の取組
2	国公立大学の 個別試験およ び私立大学入 試対策	問題集	・記述試験に対応できる応用力をつける。	15	授業の取組

計 160 時間 (55 分授業)

#### 4 課題・提出物等

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 单元ごとの演習プリント, 実験プリントの提出</li> <li>・ 定期考査前の問題集ノート</li> <li>・ 連休および長期休業中の課題</li> </ul>
---

#### 5 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
① 関心・意欲・態度	② 思考・判断・表現	③ 観察・実験の技能	④ 知識・理解
化学的な事物・現象に関心や探究心を持ち, 主体的にそれらを探求するとともに, 科学的態度を身につけている。	化学的な事物・現象の中に問題を見だし, 観察, 実験や課題研究などを行うとともに, 事象を実証的, 論理的に考えたり, 分析的・総合的に考察したりして, 問題を解決し, 事実に基づいて科学的に判断している。	化学的な事物・現象に関する観察, 実験の技能を習得するとともに, それらを科学的に探求する方法を身に付け, 観察, 実験や課題研究及びそこから導き出した自らの考えの過程や結果を的確に表現している。	観察, 実験や課題研究などを通して化学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め, 知識を身につけている。
以上の観点をふまえ, 定期考査や各種提出物の提出状況および学習活動への取組状況(授業中の態度, 発言の内容等)を総合的に評価します。			

#### 6 担当者からの一言

<p>化学は, 物質の性質などを知識として覚える面と化学反応の仕組みなどを理論的に理解していく面の二つの面があり, 全体を結びつけて考えられるようになるまでに時間がかかります。それまでは, 日々の授業を大切に, 少しずつ知識と理解を積み重ねるといふ地道な努力を続けてほしい。その際, 自分で考えたり感じたりすることが何より大切です。授業中に疑問に思ったことは, その場で質問すること。理解を深め, 知識を整理するには自主的・主体的な学習が不可欠です。</p>
---

令和5年度シラバス(理科)

教科(科目)	理科(物理)	単位数	5単位
学年(コース)	3学年(普通科理系1・理系2)		
使用教科書	数研出版『改訂版 物理』		
副教材等	第一学習社『セミナー物理基礎+物理』 数研出版『大学共通テスト対策 チェック&演習 物理』 数研出版『2023物理重要問題集-物理基礎・物理-』		

1 学習目標

自然界における様々な物理現象について、講義と観察・実験を通して論理的に探究する能力態度を養うとともに、基本的な概念や原理・法則に対する理解を深める。また、問題演習を通して、大学入試などのより高度な問題解決能力を身に付ける。

2 指導の重点

- ① 物理量に関する定義などの基本事項を正しく理解している。
- ② 授業を通して、具体的な物理現象と理論とを結びつけて理解できるようになる。
- ③ 授業での学習内容を受けて、教科書の例題、問、練習問題、章末問題を自力で解くことができる。
- ④ 日々の自宅学習において、担当者の配布する練習問題および問題集の基本問題を確実に解くことができる。
- ⑤ ④を繰り返すことで基礎の定着を図り、応用問題にも積極的に取り組むことができる。

3 学習計画 (※時数の数値は、55分授業での実施回数を記載しています。)

月	単元	学習内容	時間	学習の目標・到達目標	
4	第3編 波				
	第1章 波の伝わり方	1. 正弦波 2. 波の伝わり方	7	水面波、音や光など、波の伝わり方や干渉、回折などについて理解する。	
	第2章 音の伝わり方	1. 音の伝わり方 2. 音のドップラー効果	5	音の干渉、回折及びドップラー効果について基本的な性質を理解する。	
	第3章 光	1. 光の性質 2. レンズ	7	光の伝わり方、レンズ、鏡の性質について理解する。	
5~6	1学期中間考査		1		
	第3章 光	3. 光の干渉と回折	8	光の回折および干渉について理解する。	
6~7	第4編 電気と磁気				
	第1章 電場	1. 静電気力 2. 電場 3. 電位 4. 物質と電場 5. コンデンサー	15	電荷が相互に及ぼし合う力、電気量の保存、電場の性質、電気力線、静電誘導、電荷の移動と仕事の関係、電場と電位の関係などを理解する。また、コンデンサーについては充電と放電、電気容量、空気中に置かれた平行板コンデンサーなどの性質を理解する。	
		1学期期末考査		1	
		第1章 電場	5. コンデンサー	4	コンデンサーに蓄えられたエネルギーや、コンデンサーを含む回路のスイッチの切り替えなどの問題を理解する。
		第2章 電流	1. オームの法則 2. 直流回路	7	キルヒホッフの法則、抵抗率の温度変化、電池の起電力と内部抵抗など、電気回路について理解する。
夏季休業					
7~8	第2章 電流	2. 直流回路	4	ホイートストンブリッジ、メートル、ブリッジ、電位差計などの機器の測定回路を	
		3. 半導体	2	半導体、ダイオード、トランジスタなどについて理解する。	
8~9	第3章 電流と磁場	1. 磁場 2. 電流のつくる磁場 3. 電流が磁場から受ける力 4. ローレンツ力	9	直線電流の回り、円形電流の中心、ソレノイドの内部にどのような磁場ができるか理解する。また、電流が磁場から受ける力を表す式を扱い、ローレンツ力についても理解する。	
		2学期中間考査		1	
		第4章 電磁誘導と電磁波	1. 電磁誘導の法則 2. 交流の発生 3. 自己誘導と相互誘導 4. 交流回路 5. 電磁波	20	コイルを貫く磁束が変化するとき及び導線が磁束を横切るときに生じる誘導起電力、自己誘導、相互誘導、交流発電機の仕組みなどを理解する。また、電磁波の基本的な性質や電波がどのように利用されているかを理解する。
			第5編 原子		

11	第1章 電子と光	1. 電子 2. 光の粒子性 3. X線 4. 粒子の波動性	8	電子の比電荷,電気素量を理解する. 光電効果,光量子仮説,電子線回折,物質波などを扱い,X線についても理解する.
	第2章 原子と原子核	1. 原子の構造とエネルギー準位 2. 原子核 3. 放射線とその性質 4. 核反応と核エネルギー 5. 素粒子	5	スペクトルの波長に規則性があることやボーアの原子モデルなどを理解する. また, 原子核の構成, 原子核の崩壊及び核反応について理解する. 素粒子については,クォークとレプトンなどの素粒子の存在を知り,基本的な力などについて知る.
12	2学期期末考査		1	
1 2 3	まとめ 1年間の復習・入試対策	センター試験対策 個別試験対策 などを中心に扱う.	55	問題演習を通して, 大学入試などのより高度な問題解決能力を身に付ける.

計 160

#### 4 課題・提出物等

① 授業で課す課題を一定期間ごとに提出
② 長期休業前に課題を指示し. 新学期開始時に提出
③ 外部模試の実施前に, 対策用として過去の問題を配布

#### 5 評価基準と評価方法

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
それぞれの物理現象について関心を持ち, 意欲的に観察などの活動を行っている.	それぞれの物理現象の観察や計算などの結果から, その物理現象の性質や特徴を考察し, 自分の言葉で表現することができる.	それぞれの物理現象を観察・測定した上で, 数式や文章にまとめたり, 測定値を活用して物理量を求めることができる.	それぞれの物理現象について理解し, 色々な物理量を計算などにより求めることができる.
上記の観点をふまえ, 以下の①～③により総合的に評価する.			
① 定期考査			
② 課題・レポート等の提出物			
③ 授業・実験・問題演習等への取り組み			

#### 6 担当者から

<p>予習について … 授業前に教科書および図録をよく読む</p> <p>授業について … 授業をよく聞き, 考えながら板書事項をノートに書き取る. 不明な点は, 必ず教科担当者に質問をして解決を図ること.</p> <p>復習について … 教科書・ノートで授業内容の再確認を行い, 配布されたプリントの未解答の問題に取り組むこと.</p> <p>問題集の問題は授業と並行しながら進め, 時期をおいて繰り返し行うこと. 内容の定着こそ実力アップの鍵である.</p> <p>実力向上 … 自分にあった参考書や問題集を早期に見つけ演習を何度も繰り返す.</p> <p>外部模試は良問の宝庫. 過去の問題も含めて復習は不可欠.</p> <p>物理は, 個々の物理法則を言葉・式・グラフなどで表現でき, その成立条件を明確に把握し, 他者に説明できるようになってはじめて完全に理解したこととなる. この域に達すれば物理の「おもしろさ」「奥深さ」が分かり, 問題も容易に解くことができるようになる. 覚えるべき内容は他教科に比べ決して多くないので, 一つひとつの物理概念に対する理解を深める努力をしてもらいたい.</p>
--

令和5年度シラバス ( 理科 )

学番 6 1 新潟県立柏崎高等学校

教科 (科目)	理科 (生物)	単位数	5	学年 (コース)	3 学年 普通科理系
使用教科書	東京書籍「改訂 生物」				
副教材等	第一学習社「スクエア最新図説生物 neo」 数研出版「リードα生物」				

1 学習目標

生物や生物現象を更に広範に取り扱い、生物学的に探究する能力と態度を身に付けさせるとともに生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深めさせ、科学的な自然観を育てる。

2 指導の重点

- 教科書の基本的な内容の理解を深めるとともに、発展的な内容に対する興味・理解を高める。
- 観察・実験を多く取り入れ、探究の過程を重視した指導を進める。
- 問題演習に積極的に取り組み、学習の定着をはかるとともに、自ら学習の深化をはかる姿勢を育成する。

3 学習計画

月	単元名	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4 5	第4章 生殖と発生	染色体に遺伝子が存在することを学習する。 有性生殖では、減数分裂と受精によって多様な遺伝子の組み合わせが生じることを理解させる。 動物の配偶子形成・受精と初期発生の過程を学習する。 細胞の分化や形態形成のしくみについて、誘導現象を中心に理解させる。 前後軸形成のしくみと形態形成を調節する遺伝子について学習する。 植物の配偶子形成・受精と胚発生の過程を学習し、器官分化における遺伝子のはたらきについて理解させる。	25  一学期 中間考査 まで	・授業への 取り組み ・レポート ・定期考査 ・課題テスト  等をもとに、 総合的に判断する。
6 7	第5章 動物の反応と行動	ニューロン (神経細胞) の基本的な構造とそのはたらきを理解させる。 受容器で受け取られた刺激 (情報) が、神経系を介して、効果器へと至る経路を学習する。 刺激の受容に関しては視覚器と聴覚器を、効果器に関しては筋肉を中心に学習する。 動物の行動については、神経系における情報の流れと関連づけながら学習する。	30  一学期 期末考査 まで	
8	第6章 植物の環境応答	植物は成長を調節するなどして環境に応答していることを理解させる。 環境応答にはさまざまな植物ホルモンや光受容体が関与していることを学習する。	12	
9	第7章 生物群集と生態系	個体群や生物群集について、それぞれの特徴を学習する。	25	

10		<p>生物群集はさまざまな個体群の集まりによって構成されており、それぞれの個体群は、生態系内で特定の役割を果たしていることを理解させる。</p> <p>生態系における物質生産について学習する。</p> <p>いくつかの生態系の物質生産の特徴や各栄養段階とエネルギー効率の関係について学習する。</p> <p>生物多様性に影響を与える要因を理解させ、生物多様性の重要性を学習する。</p>	<p>二学期 中間考査 まで</p>
11	第8章 生命の起源と進化	<p>生命の起源および生物の変遷を学習する。</p> <p>生命の誕生や生物の変遷は、地球環境の変化と密接に関係していることを理解させる。</p> <p>生物の進化について、そのしくみを学習する。</p> <p>分子進化の概念や種分化のしくみについても学習する。</p>	20
12	第9章 生物の系統	<p>生物の種類は多様であるが、それらが系統によって分類できることを理解させる。</p> <p>形態的な特徴にもとづいた分類ばかりでなく、近年では、DNAの塩基配列やタンパク質のアミノ酸配列といった分子データにもとづいて系統関係が調べられていることについても学習する。</p> <p>個々の分類群について、その概要を学習する。</p>	<p>18</p> <p>二学期 期末考査 まで</p>
1 2 3	まとめ 入試対策	<p>2年間で学んだ生物および生物基礎の内容について復習するとともに、センター試験や個別試験に向けた演習を行う。</p>	30
			160

#### 4 課題・提出物等

実験・観察に際しては、レポートを提出することとなります。

各休業時や定期考査時には課題を提出することとなります。

授業内において、確認テストや小テストを行います。

#### 5 評価基準と評価方法

- |           |                                  |
|-----------|----------------------------------|
| ①関心・意欲・態度 | 生命現象について積極的に興味・関心を持ち、理解・把握しているか。 |
| ②思考・判断・表現 | 実証的・分析的・総合的に考察を行い、理解を深めて表現できるか。  |
| ③観察・実験の技能 | 観察・実験の意味を理解し、技能を身につけているか。        |
| ④知識・理解    | 生命現象に関する基礎的な知識の理解・定着がなされているか。    |

以上の観点を踏まえ、

- ・ペーパーテストの分析
- ・レポートやワークシートなどの内容確認
- ・授業の取組（授業態度、発表や討論の様子、学習活動への参加状況など）

などから総合的に判断します。



## 6 担当者からの一言

現在最もめざましい展開をみせる生命科学、そして今後の地球環境の基盤を支える生物界についての理解を、意欲的に進めてほしい。

令和5年度シラバス(理科) 学番61 新潟県立柏崎高等学校

教科(科目)	理科(理科探究)	単位数	3単位	学年(コース)	3学年(文系)
使用準教科書	数研出版『生物基礎』『生物』『化学基礎』『化学』				
副教材等	数研出版『チェック&演習 生物基礎』 第一学習社『標準セミナー 化学基礎』数研出版『チェック&演習 化学基礎』				

1 学習目標

生物や生物現象および化学的な事物・現象に対する関心や探究心を高め、目的意識をもって観察・実験などを行い、生物学的および化学的に探究する能力と態度を育てるとともに生物学および化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、豊かな自然観を醸成し、将来遭遇する様々な事象に対して科学的な態度で解決に立ち向かう姿勢を育成する。

2 指導の重点

大多数の生徒が大学進学を希望していることより、  
 ① 生物基礎と化学基礎の探究活動や発展内容を活用し、興味関心を高めるとともに、科学的素養を育成する。  
 ② 生物および化学の課題解決学習を通して、科学的思考力・判断力を育成する。

3 学習計画

月	単元名	教材	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	生物と遺伝子 化学と人間生活	教科書 副教材 プリント	・生物の特徴 【実験】細胞に含まれるDNAの抽出 ・化学と人間生活とのかかわり ・物質の探究	7	定期テスト 小テスト 提出物
5	生物と遺伝子 生命現象と物質	教科書 副教材 プリント	・遺伝子とその働き ・遺伝情報の発現 【実験】ブタ腎臓の解剖	4	定期テスト 小テスト 提出物
	定期テスト			1	
	物質の状態と平衡	教科書 副教材 プリント	・物質の状態とその変化	5	定期テスト 小テスト 提出物
6	生物の体内環境の維持 物質の構成	教科書 副教材 プリント	・生物の体内環境 ・物質の構成粒子 ・物質と化学結合	9	定期テスト 小テスト 提出物
	定期テスト			1	
7	生物の環境応答 無機物質の性質と利用	教科書 副教材 プリント	・動物の反応と行動 ・無機物質と人間生活	9	定期テスト 小テスト 提出物
8	生物の環境応答	教科書 副教材 プリント	・植物の環境応答	2	定期テスト 小テスト 提出物
9	生物の多様性と生態系 物質の変化	教科書 副教材 プリント	・植生の多様性と分布 ・物質と化学反応式 【実験】化学反応の量的関係	9	定期テスト 小テスト 提出物
	定期テスト			1	

10	生物の多様性と生態系 物質の変化	教科書 副教材 プリント	・生態系とその保全 ・中和反応 ・酸化還元反応 【実験】金属のイオン化傾向	10	定期テスト 小テスト 提出物
11	生態と環境 化学変化とエネルギー	教科書 副教材 プリント	・個体群と生物群集、生態系 ・電池、電気分解	10	定期テスト 小テスト 提出物
	定期テスト			1	
12	課題解決学習	プリント	生物に関する課題解決学習 化学に関する課題解決学習	10	提出物
1	課題解決学習	プリント	生物に関する課題解決学習 化学に関する課題解決学習	8	提出物
2	課題解決学習	プリント	生物に関する課題解決学習 化学に関する課題解決学習	8	提出物

計96時間 (55分授業)

#### 4 課題・提出物等

<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察や実験のレポート</li> <li>・单元ごとの小テスト</li> <li>・春、夏季休業中の課題</li> </ul>
--

#### 5 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解
生命現象や化学的な現象について積極的に科学的に探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	実証的・分析的・総合的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	観察・実験の技能を身に付けている。	生命現象や化学的な現象に関する基礎的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
以上の観点をふまえ、定期テストや各種提出物の提出状況および学習活動への取組状況（授業中の態度、発言の内容等）を総合的に評価します。			

#### 6 担当者からの一言

<p>目的意識をもった自発的学習がより重視されています。文系においても豊かな自然観と科学的思考が求められています。基礎的事項をしっかりと理解し、様々な事象を解決していける考え方を身につけてほしい。また、考える過程がより重視されています。記憶に頼る学習ではなく、解決法を見出す意識で学習することが大切です。</p>
--

令和5年度シラバス ( 保健体育 )

学番 6 1 新潟県立柏崎高等学校

教科 (科目)	保健体育 (体育)	単位数	3	学年	1 学年
使用教科書	現代高等保健体育(大修館書店) 保体 7 0 1				
副教材等	ステップアップ 高校スポーツ 2023 (大修館書店)				

1 学習目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成することを目指す。

2 指導の重点

体育・スポーツに親しみ、積極的に体力の充実をはかり、自信をもって学校生活を送ることのできる気魄ある人間を育成する。

3 評価の観点の趣旨

知識 技能 a	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。
思考・判断 表現 b	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
主体的に学習に取り組む態度 c	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

4 評価規準と評価方法

評価は、次の3つの観点から行います。

評価の観点と内容		評価方法
知識 技能 a	運動を継続する意義、体の構造、運動の原則、技術の名称や技を理解し、体力の高め方や運動の観察方法を身につけ、運動やスポーツの多様な関わり方を状況に応じて選択し実践できるようにしている。	行動観察 体育日誌 体育週番
思考 判断 表現 b	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えようとしている。	行動観察 体育日誌 体育週番
主体的に学習に取り組む態度 c	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとしている。	行動観察、体育日誌 記録会・ゲーム・試合・発表会の結果

1年間の評定は、1学期～3学期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

5 学習計画 (1 単位時間 55 分)

合計	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
96時間	(8 時間)	(9 時間)	(11 時間)	(8 時間)	(3 時間)	(11 時間)	(8 時間)	(11 時間)	(8 時間)	(8 時間)	(8 時間)	(3 時間)
男子	集団行動 学校体操 体づくり運動	陸上競技・水泳 男女入れ替えで 実施	陸上競技 持久走	領域選択 I バスケット バレー 柔道	体育 理論	選択 II バドミントン ダンス 器械運動						
女子												

単元名	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
集団行動	仲間と協力し、統制の取れた動きを実現するために、練習の仕方や号令のかけ方を工夫できるようにする。	b.c	行動観察 体育日誌
学校体操	本校伝統の学校体操。運動の特性を理解し、協力しながら全員が覚えて行うことができるようにする。	a.c	行動観察 テスト
体づくり運動	体を動かす楽しさや心地よさを味わい、「自己の体力や生活に応じた継続的な運動の計画を立て、実生活に役立てること」ができるようにする。	b.c	行動観察 体育日誌
体育理論	スポーツの意義や歴史、文化的特徴や、現代スポーツを取り巻くさまざまな問題について理解を深める。	a.b	行動観察 プリント レポート
陸上競技	記録の向上や競争及び自己や仲間の課題を解決するなどの多様な楽しさや喜びを味わい、「各種目特有の技能を身につける」ことなどができるようにする。	a.b.c	行動観察 体育日誌 記録
球技選択	勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。	a.b.c	行動観察 体育日誌 テスト
器械運動	技がよりよくできたり自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、「自己に適した技で演技する」ことができるようにする。	a.b.c	行動観察 体育日誌 発表会
水 泳	記録の向上や競争及び自己や仲間の課題を解決するなどの多様な楽しさや喜びを味わい、「自己に適した泳法を身につけ、その効率を高めて泳ぐ」ことができるようにする。	a.b.c	行動観察 体育日誌 記録
柔 道	基本動作と基本となる技を用いて攻防を展開できるようにし、勝敗を競ったり自己や仲間の課題を解決したりする	a.b.c	行動観察 体育日誌

	などの多様な楽しさや喜びを味わい、得意技などを用いた攻防を展開することができるようにする。		
ダンス	感じを込めて踊ったり、仲間と自由に踊ったり、自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、それぞれ特有の表現や踊りを身につけて交流や発表をすることができるようになる。	a.b.c	行動観察 体育日誌 発表会

6 課題・提出物等

学校体操、体育週番日誌、体育理論レポート

7 担当者からの一言

柏高体育に早く慣れ、本校の教育目標にある「気魄ある人間」になれるよう積極的に体を動かし運動に親しみましょう。



令和5年度シラバス ( 保健体育 )

学番 6 1 新潟県立柏崎高等学校

教科 (科目)	保健体育 (体育)	単位数	3	学年	1 学年
使用教科書	現代高等保健体育(大修館書店) 保体 7 0 1				
副教材等	ステップアップ 高校スポーツ 2023 (大修館書店)				

1 学習目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成することを目指す。

2 指導の重点

体育・スポーツに親しみ、積極的に体力の充実をはかり、自信をもって学校生活を送ることのできる気魄ある人間を育成する。

3 評価の観点の趣旨

知識 技能 a	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。
思考・判断 表現 b	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
主体的に学 習に取り組 む態度 c	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

4 評価規準と評価方法

評価は、次の3つの観点から行います。

評価の観点と内容		評価方法
知識 技能 a	運動を継続する意義、体の構造、運動の原則、技術の名称や技を理解し、体力の高め方や運動の観察方法を身につけ、運動やスポーツの多様な関わり方を状況に応じて選択し実践できるようにしている。	行動観察 体育日誌 体育週番
思考 判断 表現 b	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えようとしている。	行動観察 体育日誌 体育週番
主体的に学 習に取り組 む態度 c	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとしている。	行動観察、体育日誌 記録会・ゲーム・試合・発表会の結果

1年間の評定は、1学期～3学期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

5 学習計画（1 単位時間 55 分）

合計 96時間	4月 (8時間)	5月 (9時間)	6月 (11時間)	7月 (8時間)	8月 (3時間)	9月 (11時間)	10月 (8時間)	11月 (11時間)	12月 (8時間)	1月 (8時間)	2月 (8時間)	3月 (3時間)
男子	集団行動 学校体操 体づくり運動	陸上競技・水泳 男女入れ替えて 実施			陸上競技 持久走		領域選択 I バスケット バレー 柔道		体育 理論	選択 II バドミントン ダンス 器械運動		
女子												

単元名	学習活動(指導内容)	評価の 観点	評価方法
集団行動	仲間と協力し、統制の取れた動きを実現するために、練習の仕方や号令のかけ方を工夫できるようにする。	b.c	行動観察 体育日誌
学校体操	本校伝統の学校体操。運動の特性を理解し、協力しながら全員が覚えて行うことができるようにする。	a.c	行動観察 テスト
体づくり運動	体を動かす楽しさや心地よさを味わい、「自己の体力や生活に応じた継続的な運動の計画を立て、実生活に役立てること」ができるようにする。	b.c	行動観察 体育日誌
体育理論	スポーツの意義や歴史、文化的特徴や、現代スポーツを取り巻くさまざまな問題について理解を深める。	a.b	行動観察 プリント レポート
陸上競技	記録の向上や競争及び自己や仲間の課題を解決するなどの多様な楽しさや喜びを味わい、「各種目特有の技能を身につける」ことなどができるようにする。	a.b.c	行動観察 体育日誌 記録
球技選択	勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。	a.b.c	行動観察 体育日誌 テスト
器械運動	技がよりよくできたり自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、「自己に適した技で演技する」ことができるようにする。	a.b.c	行動観察 体育日誌 発表会
水 泳	記録の向上や競争及び自己や仲間の課題を解決するなどの多様な楽しさや喜びを味わい、「自己に適した泳法を身につけ、その効率を高めて泳ぐ」ことができるようにする。	a.b.c	行動観察 体育日誌 記録
柔 道	基本動作と基本となる技を用いて攻防を展開できるようにする。	a.b.c	行動観察

	にし、勝敗を競ったり自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、得意技などを用いた攻防を展開することができるようにする。		体育日誌
ダンス	感じを込めて踊ったり、仲間と自由に踊ったり、自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、それぞれ特有の表現や踊りを身につけて交流や発表をすることができるようになる。	a.b.c	行動観察 体育日誌 発表会

6 課題・提出物等

学校体操、体育週番日誌、体育理論レポート

7 担当者からの一言

柏高体育に早く慣れ、本校の教育目標にある「気魄ある人間」になれるよう積極的に体を動かし運動に親しみましょう。

令和5年度シラバス ( 保健体育 )

学番61 新潟県立柏崎高等学校

教科 (科目)	保健体育(体育)	単位数	2	学年	2学年 (理系2)
使用教科書	現代保健体育(大修館書店) 保体701				
副教材等	ステップアップ 高校スポーツ 2022 (大修館書店)				

1 学習目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成することを目指す。

2 指導の重点

体育・スポーツに親しみ、積極的に体力の充実をはかり、自信をもって学校生活を送ることのできる気魄ある人間を育成する。

3 評価の観点の趣旨

知識 技能 a	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。
思考・判断 表現 b	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
主体的に学習に取り組む態度 c	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

4 評価規準と評価方法

評価は、次の3つの観点から行います。

評価の観点と内容		評価方法
知識 技能 a	運動を継続する意義、体の構造、運動の原則、技術の名称や技を理解し、体力の高め方や運動の観察方法を身につけ、運動やスポーツの多様な関わり方を状況に応じて選択し実践できるようにしている。	行動観察 体育日誌 体育週番
思考 判断 表現 b	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えようとしている。	行動観察 体育日誌 体育週番
主体的に学習に取り組む態度 c	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとしている。	行動観察、体育日誌 記録会・ゲーム・試合・発表会の結果

1年間の評定は、1学期～3学期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

5 学習計画 (1 単位時間 55 分)

合計	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
64 時間	(5 時間)	(6 時間)	(6 時間)	(6 時間)	(2 時間)	(7 時間)	(6 時間)	(7 時間)	(5 時間)	(6 時間)	(6 時間)	(2 時間)
男子	体づくり運動 陸上競技 スポーツテスト	領域選択Ⅲ・水泳 男女で入れ替えて実施 器械運動 ソフトボール サッカー				陸上 競技 (持久走)	選択Ⅳ バスケ バレー 器械運動	体育 理論	選択Ⅴ 柔道 ダンス ハンドボール			
女子												

単元名	学習活動(指導内容)	評価の 観点	評価方法
体づくり 運動	体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくりの運動の行い方などを理解するとともに、実生活に役立てること、生涯にわたって運動を豊に継続するための課題に取り組み、考えたことを他者に伝えること及び体づくり運動に主体的に取り組むとともに、協力、参画、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。	b.c	行動観察 体育日誌
体育理論	運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解できるようにする。	a.b	行動観察 レポート
陸上競技	多様な楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方などを理解するとともに、各種目特有の技能を身につけること、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、考えたことを他者に伝えること及び陸上競技に主体的に取り組むとともに、公正、責任、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。	a.b.c	行動観察 体育日誌 記録会
球技選択	多様な楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方などを理解するとともに、仲間と連携しゲームを展開すること、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、考えたことを他者に伝えること及び球技に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などの意欲を育み、健康安全を確保することができるようにする。	a.b.c	行動観察 体育日誌 テスト
器械運動	多様な楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方などを理解するとともに、自己に適した技で演技すること、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、考えたことを他者に伝えること及び器械運動に主体的に取り組むとともに、公正、協力、共生などの意欲を育み、健康安全を確保することができるようにする。	a.b.c	行動観察 体育日誌 発表会

水 泳	多様な楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方などを理解するとともに、自己に適した泳法の効率を高めて泳ぐこと、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、考えたことを他者に伝えること及び水泳を主体的に取り組むとともに、公正、協力、共生などの意欲を育み、健康安全を確保することができるようにする。	a.b.c	行動観察 体育日誌 記録会
柔 道	多様な楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方などを理解するとともに、技の名称や行い方などを理解するとともに、攻防を展開すること、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、考えたことを他者に伝えること及び武道を主体的に取り組むとともに、伝統的な行動の仕方、責任、共生などの意欲を育み、健康安全を確保することができるようにする。	a.b.c	行動観察 体育日誌 試合
ダンス	多様な楽しさや喜びを味わい、ダンスの名称や用語などを理解するとともに、交流や発表をすること、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、考えたことを他者に伝えること及びダンスに主体的に取り組むとともに、協力、参画、共生などの意欲を育み、健康安全を確保することができるようにする	a.b.c	行動観察 体育日誌 発表会
ハンドボール	勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、「作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。	a.b.c	行動観察、 体育日誌 試合など

## 6 課題・提出物等

体育週番日誌、選択体育ノート、体育理論レポート

## 7 担当者からの一言

心身ともに一番成長する学年です。より「自発的・積極的」に運動に取り組み、自分を磨きましょう。



令和5年度シラバス ( 保健体育 )

学番61 新潟県立柏崎高等学校

教科 (科目)	保健体育(体育)	単位数	3	学年	2 学年 (文系・理系1)
使用教科書	現代保健体育(大修館書店) 保体701				
副教材等	ステップアップ 高校スポーツ 2022 (大修館書店)				

1 学習目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成することを目指す。

2 指導の重点

体育・スポーツに親しみ、積極的に体力の充実をはかり、自信をもって学校生活を送ることのできる気魄ある人間を育成する。

3 評価の観点の趣旨

知識 技能 a	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。
思考・判断 表現 b	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
主体的に学習に取り組む態度 c	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

4 評価規準と評価方法

評価は、次の3つの観点から行います。

評価の観点と内容		評価方法
知識 技能 a	運動を継続する意義、体の構造、運動の原則、技術の名称や技を理解し、体力の高め方や運動の観察方法を身につけ、運動やスポーツの多様な関わり方を状況に応じて選択し実践できるようにしている。	行動観察 体育日誌 体育週番
思考 判断 表現 b	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えようとしている。	行動観察 体育日誌 体育週番
主体的に学習に取り組む態度 c	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとしている。	行動観察、体育日誌 記録会・ゲーム・試合・発表会の結果

1年間の評定は、1学期～3学期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

5 学習計画 (1 単位時間 55 分)

合計	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
96 時間	(8 時間)	(9 時間)	(11 時間)	(8 時間)	(3 時間)	(11 時間)	(8 時間)	(11 時間)	(8 時間)	(8 時間)	(8 時間)	(3 時間)
男子	体づくり運動 陸上競技 スポーツテスト	水泳	選択Ⅲ ソフトボール サッカー	陸上 競技 (持久走)	選択Ⅳ バスケットボ ール バレーボ ール 器械運動	体育理論	選択Ⅳ 武道 (柔道) ダンス ハンドボ ール					
女子			選択Ⅲ ソフトボ ール サッカー					水泳				

単元名	学習活動(指導内容)	評価の 観点	評価方法
体づくり 運動	体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくりの運動の行い方などを理解するとともに、実生活に役立てること、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、考えたことを他者に伝えること及び体づくり運動に主体的に取り組むとともに、協力、参画、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。	b.c	行動観察 体育日誌
体育理論	運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解できるようにする。	a.b	行動観察 レポート
陸上競技	多様な楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方などを理解するとともに、各種目特有の技能を身につけること、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、考えたことを他者に伝えること及び陸上競技に主体的に取り組むとともに、公正、責任、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。	a.b.c	行動観察 体育日誌 記録会
球技選択	多様な楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方などを理解するとともに、仲間と連携しゲームを展開すること、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、考えたことを他者に伝えること及び球技に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などの意欲を育み、健康安全を確保することができるようにする。	a.b.c	行動観察 体育日誌 テスト
器械運動	多様な楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方などを理解するとともに、自己に適した技で演技すること、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、考えたことを他者に伝えること及び器械運動に主体的に取り組むとともに、公正、協力、共生などの意欲を育み、健康安全を確保することができるようにする。	a.b.c	行動観察 体育日誌 発表会

水 泳	多様な楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方などを理解するとともに、自己に適した泳法の効率を高めて泳ぐこと、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、考えたことを他者に伝えること及び水泳を主体的に取り組むとともに、公正、協力、共生などの意欲を育み、健康安全を確保することができるようにする。	a.b.c	行動観察 体育日誌 記録会
柔 道	多様な楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方などを理解するとともに、技の名称や行い方などを理解するとともに、攻防を展開すること、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、考えたことを他者に伝えること及び武道を主体的に取り組むとともに、伝統的な行動の仕方、責任、共生などの意欲を育み、健康安全を確保することができるようにする。	a.b.c	行動観察 体育日誌 試合
ダンス	多様な楽しさや喜びを味わい、ダンスの名称や用語などを理解するとともに、交流や発表をすること、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、考えたことを他者に伝えること及びダンスに主体的に取り組むとともに、協力、参画、共生などの意欲を育み、健康安全を確保することができるようにする	a.b.c	行動観察 体育日誌 発表会
ハンドボール	勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、「作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。	a.b.c	行動観察、 体育日誌 試合など

## 6 課題・提出物等

体育週番日誌、選択体育ノート、体育理論レポート

## 7 担当者からの一言

心身ともに一番成長する学年です。より「自発的・積極的」に運動に取り組み、自分を磨きましょう。

令和5年度シラバス ( 保健体育 )

学番 6 1 新潟県立柏崎高等学校

教科 (科目)	保健体育(体育)	単位数	2	学年	3 学年
使用教科書	現代保健体育(大修館書店)				
副教材等	ステップアップ 高校スポーツ 2021 (大修館書店)				

1 学習目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成することを目指す。

2 指導の重点

体育・スポーツに親しみ、積極的に体力の充実をはかり、自信をもって学校生活を送ることのできる気魄ある人間を育成する。

3 学習計画 (1 単位時間 55 分)

合計	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
64 時間	(5 時間)	(6 時間)	(6 時間)	(6 時間)	(2 時間)	(7 時間)	(6 時間)	(7 時間)	(5 時間)	(6 時間)	(6 時間)	(2 時間)
男子 女子	体づくり運動 選択VI 陸上競技 柔道 ダンス			選択VII フットボール サッカー 水泳 器械運動		陸上 競技 (持久走)		選択8 バスケットボール バレー バドミントン 卓球	体育 理論	全領域選択		

単元名	学習活動(指導内容)	評価方法
体づくり運動	体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくりの運動の行い方などを理解するとともに、実生活に役立てること、生涯にわたって運動を豊に継続するための課題に取り組み、考えたことを他者に伝えること及び体づくり運動に主体的に取り組むとともに、協力、参画、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。	行動観察 体育日誌
体育理論	運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解できるようにする。	行動観察 レポート
陸上競技	多様な楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方などを理解するとともに、各種目特有の技能を身につけること、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、考えたことを他者に伝えること及び陸上競技に主体的に取り組むとともに、公正、責任、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。	行動観察 体育日誌 記録会
球技選択	多様な楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方などを理解するとともに、仲間と連携しゲームを展開すること、生	行動観察 体育日誌

	涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、考えたことを他者に伝えること及び球技に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などの意欲を育み、健康安全を確保することができるようにする。	テスト
器械運動	多様な楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方などを理解するとともに、自己に適した技で演技すること、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、考えたことを他者に伝えること及び器械運動に主体的に取り組むとともに、公正、協力、共生などの意欲を育み、健康安全を確保することができるようにする。	行動観察 体育日誌 発表会
柔道	多様な楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方などを理解するとともに、技の名称や行い方などを理解するとともに、攻防を展開すること、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、考えたことを他者に伝えること及び武道を主体的に取り組むとともに、伝統的な行動の仕方、責任、共生などの意欲を育み、健康安全を確保することができるようにする。	行動観察 体育日誌 試合
ダンス	多様な楽しさや喜びを味わい、ダンスの名称や用語などを理解するとともに、交流や発表をすること、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、考えたことを他者に伝えること及びダンスに主体的に取り組むとともに、協力、参画、共生などの意欲を育み、健康安全を確保することができるようにする	行動観察 体育日誌 発表会
バドミントン	勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、「作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。	行動観察 体育日誌 試合など

4 課題・提出物等

体育週番日誌、選択体育ノート、選択授業相互評価用紙、体育理論レポート

## 5 評価規準と評価方法

評価は、次の4つの観点から行います。

評価の観点と内容		評価方法
関心 意欲 態度	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとしている。	行動観察 体育日誌 体育週番
思考 判断	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。	行動観察 体育日誌 体育週番
運動の技能	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身につけようとしている。	行動観察、体育日誌 記録会・ゲーム・試合・発表会の結果
知識 理解	選択した運動の技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。	行動観察 体育日誌

1年間の評定は、1学期～3学期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

## 6 担当者からの一言

3年間の集大成として、授業の計画から授業の運営、そして評価までを生徒自身で実践します。生涯スポーツにつながるべく、楽しく安全にバラエティーに富んだ練習や競技会を企画し、運営方法を学んでいきましょう。また、困難に負けない体力と精神力を身につけ、学年全員で立ち向かう準備をしましょう。



教科 (科目)	保健体育 (保健)	単位数	1	学年	1 学年
使用教科書	大修館 「現代高等保健体育」 保体701				
副教材等	大修館 「図説 現代高等保健」 保体701				

1 学習目標

保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。

2 指導の重点

健康問題や社会の変化とともに、健康のとらえ方や健康問題への対策のありかたを学び、生活習慣や感染症、さらに薬物乱用、心の問題、交通安全など、現代の健康問題とその対策について理解を深める。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようとしている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習を主体的に取り組もうとしている。

4 評価規準と評価方法

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
現代社会と健康、安全な社会生活とその活用について、個人だけでなく社会生活について総合的に理解できるようにするとともに、それらの内容に関わる技能を身に付けようとしている。	健康に関わる事象や健康情報などから自他や社会の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考したり、様々な解決方法の中から適切な方法を選択するなどの判断をしたりするとともに、それらを他者に表現している。	自他の健康やそれを支える環境づくりに関心をもち、現在だけでなく生涯を通じて健康の保持増進や回復を目指す実践力を身につけ、現在及び将来の生活を健康で活力に満ちた明るく豊かなものにしようとしている。

5 学習計画 (一単位時間 55 分)

月	単元名	教材	学習活動 (学習内容)	時間	評価の観点	評価方法
4 5 6	1 現代社会と健康	現代高等保健体育	1 健康の考え方と成り立ち	8	a b c	授業態度 定期考査
2 私たちの健康のすがた						
3 生活習慣病の予防と回復						
4 がんの原因と予防						
5 がんの治療と回復						
6 運動と健康						
7 食事と健康						
7 8 9 10 11		図説 現代高等保健	8 休養・睡眠と健康	1 5	a b c	授業態度 定期考査
9 喫煙と健康						
10 飲酒と健康						
11 薬物乱用と健康						
12 精神疾患の特徴						

			1 3 精神疾患の予防 1 4 精神疾患からの回復 1 5 現代の感染症 1 6 感染症の予防 1 7 性感染症・エイズとその予防 1 8 健康に関する意思決定・行動選択 1 9 健康に関する環境づくり			
1 2 1 2 3	2 安全な社会 生活	現代高等保健 体育  図説 現代 高等保健	1 事故の現状と発生要因 2 安全な社会の形成 3 交通における安全 4 応急手当の意義とその基本 5 日常的な応急手当 6 心肺蘇生法	9	a b c	授業態度 定期考査
				3 2		

6 課題・提出物等

授業ノート、各種レポート  
 AED や心配蘇生法を実際に使えるようになる（課外 I 期に実施）

7 担当者からの一言

高校進学とともに、体も心も大きく成長する時期です。健康・安全について学び、自ら実践できるようにしましょう。

令和5年度シラバス ( 保健体育 )

学番61 新潟県立柏崎高等学校

教科 (科目)	保健体育 (保健)	単位数	1	学年	2 学年
使用教科書	大修館 「現代高等保健体育」 保体701				
副教材等	大修館 「図説 現代保健」 保体701				

1 学習目標

保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。。

2 指導の重点

生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりをめざし、明るく豊かな活力ある生活を営む態度を養う。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようとしている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習を主体的に取り組もうとしている。

4 評価規準と評価方法

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
<p>生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりに関わろうとしている。</p> <p>労働災害の防止、人間の生活や産業活動、環境衛生活動など、仕事、学校、地域の環境を健康に適したものとすよう基準が設定され、それに基づきさまざまな健康を支える環境づくりを理解している。</p> <p>食品の安全性を確保すること。また、食品衛生活動は、食品の安全性を確保するよう基準が設定されていることをしり、活用しようとしている。</p>	<p>生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現しようとしている。</p> <p>健康に関する環境づくりと社会参加自他の健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方を生かした健康に関する環境づくりが重要であり、それに積極的に参加していくことが必要であること。また、それらを実現するには、適切な健康情報の活用しようとしている。</p> <p>健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現しようとしている。</p>	<p>自他の健康やそれを支える環境づくりに関心を持ち、現在だけでなく生涯を通じて健康の保持増進や回復を目指す実践力を身につけ、現在及び将来の生活を健康で活力に満ちた明るく豊かなものにしようとしている。</p>

5 学習計画 (一単位時間 55分)

月	単元名	教材	学習活動 (学習内容)	時間	評価の観点	評価方法
4 5 6	生涯を通じる健康	現代高等保健体育	1 ライフステージと健康 2 思春期と健康 3 性意識と性行動の選択 4 妊娠・出産と健康 5 避妊法と人工妊娠中絶 6 結婚生活と健康	9	a b c	授業態度 定期考査
7 8 9 10 11			図説 現代高等保健	7 中高年期と健康 8 働くことと健康 9 労働災害と健康 10 健康的な職業生活	14	a b c
12 1 2 3	健康を支える環境づくり	1 大気汚染と健康 2 水質汚濁・土壌汚染と健康 3 環境と健康にかかわる対策 4 ごみ処理と上下水道の整備 5 食品の安全性 6 食品衛生にかかわる活動		9		a b c
		7 保健サービスとその活用 8 医療サービスとその活用 9 医薬品の制度とその活用 10 さまざまな保健活動や社会的政策 11 健康に関する環境づくりを社会参加	32			

6 課題・提出物等

授業ノート、各種レポート

7 担当者から一言

体の変化とともに体と心に「性のエネルギー」が身につく時期に、お互いの心と体を理解しましょう。また、生涯を通じて健康を守るために必要な知識と実践力を身につけましょう。

令和5年度シラバス（芸術）

学番61 新潟県立柏崎高等学校

教科（科目）	芸術（音楽Ⅰ）	単位数	2単位	学年	1学年
使用教科書	教育芸術社『MOUSAⅠ』				
副教材等	教育芸術社『音楽の鑑賞資料と基礎学習』				

1 学習目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成する。

- 1 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけるようにする。
- 2 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。
- 3 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

2 指導の重点

学習目標を達成させるため、

- ①歌唱や器楽などによる表現活動および鑑賞の幅広い学習を通して音楽への興味、関心を高めます。
- ②自己のイメージを表現するための技能を身につけ、それを生かして創造的な音楽表現を目指します。
- ③鑑賞を通して音楽文化の理解を深め、音楽を形作っている要素や要素同士の関連を学びます。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。</li> <li>・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。</li> </ul>	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。</li> <li>・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。</li> </ul>	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・振り返りテストの分析 ・ノートやワークシート、プリント等、提出物などの内容の確認 ・実技試験  などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・ノートやワークシート、プリント等、提出物などの内容の確認 ・実技試験  などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業の取り組みや発言、発表の内容の観察 ・ノートやワークシート、プリント等、提出物などの内容の確認  などから評価します。
------	---	---	---

5 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動（指導内容）	評価の観点	評価方法
4 5 6 7	オリエンテーション	表現 1		・目標と学習内容を理解する。 ・自己紹介シート	c	・授業への取り組み
	歌唱 楽典	表現 3	校歌	・校歌の作詞・作曲者や歌詞の内容などを知る。 ・曲想と音楽の構造や歌詞の関わりについて理解する。 ・音名を理解する。	abc	・ワークシート ・ノート学習・提出 ・歌唱テスト ・授業での取り組み
	楽典	表現 2	音符・休符の読み方 ・書き方	・音符、休符の正しい読み方 ・書き方を身につけ、表現に生かすようにする。	abc	・ノート学習・提出 ・授業での取り組み
	器楽	表現 8	表現を工夫してギターを弾こう	・曲想とギターの音色や奏法との関係を理解し、曲にふさわしい奏法技能を身に付けながらなどイメージを持って表現を工夫して演奏する。	abc	・ワークシート ・実技テスト ・授業での取り組み
	歌唱	表現 6	日本・イタリア歌曲	・曲の性格をとらえ、それぞれにふさわしい表現になるよう工夫する。	abc	・ワークシート ・ノート学習・提出 ・歌唱テスト ・授業での取り組み
	鑑賞	鑑賞 4	日本の伝統音楽の鑑賞	・さまざまな日本の伝統音楽について学び、楽曲を鑑賞する。	bc	・ワークシート ・授業での取り組み
8 9 10 11	器楽	表現 10	三味線（または三線）	・調絃や勘所の押さえ方など、三味線（または三線）の正しい奏法を身につけ、曲を演奏する。	abc	・ワークシート ・実技テスト ・授業での取り組み



	楽典	表現 4	コードについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>コードのしくみを理解し、コード進行をもとに簡単なメロディを創作する。</li> </ul>	abc	<ul style="list-style-type: none"> <li>ノート学習・提出</li> <li>授業での取り組み</li> </ul>
	器楽	表現 1 2	キーボードで伴奏を弾こう	<ul style="list-style-type: none"> <li>前回学んだ楽典の内容を生かし、楽譜を見ながらコード伴奏を完成させる。</li> <li>メロディに合わせて演奏する。</li> <li>楽譜を見ながらコード伴奏を弾く。</li> </ul>	abc	<ul style="list-style-type: none"> <li>振り返りシート</li> <li>実技テスト</li> <li>授業での取り組み</li> </ul>
			ギターで伴奏を弾こう	<ul style="list-style-type: none"> <li>メロディも覚え、ロズさみながら曲に合った奏法を理解し表現を工夫しながら演奏する。</li> </ul>	abc	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート</li> <li>実技テスト</li> <li>授業での取り組み</li> </ul>
12 1 2 3	鑑賞	鑑賞 4	音楽の様々な要素を探ろう	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽を形作っている要素や働きに注目しながら曲を聴き、曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解する。</li> <li>根拠を持って曲や演奏を批評する。</li> </ul>	bc	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート</li> <li>授業での取り組み</li> </ul>
	楽典	表現 1 0	リズムアンサンブル	<ul style="list-style-type: none"> <li>今まで学んだ楽典の内容を復習し、リズムの創作をする。</li> <li>グループでリズムアンサンブル演奏を行う。</li> <li>協働的に表現活動をしている。</li> </ul>	abc	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート</li> <li>演奏発表</li> <li>授業での取り組み</li> </ul>

計 64 時間 (55 分授業)

## 6 課題・提出物等

- ・歌唱や器楽の実技テストを学期ごとに実施しています。
- ・歌唱や鑑賞で取り上げる作品についてはノートやワークシートを記入し、学習後は提出してもらいます。

## 7 担当者からの一言

音楽は好きだけでも楽譜が読めない、楽器演奏の仕方が分からない等を少しでも「わかる」「できる」ようにしていきます。また演奏、鑑賞を通して音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わりを学び、音楽的な見方・考え方を身につけてみましょう。真剣に取り組むようにしてください。

担当者 ( 大矢 恵美子 )

令和5年度シラバス 美術 I

学番 6 1 新潟県立柏崎高等学校

教科 (科目)	芸術 (美術 I)	単位数	2 単位	学年	1 学年
使用教科書	高校生の美術 1 (日本文教出版)				

1 学習目標

美術の幅広い創造活動を通して造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに意図に応じ表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

2 指導の重点

- ①美術の幅広い創造活動や鑑賞に親しみ、そして取り組む。
- ②創造する事の価値を捉え、自己や他者の作品などに表れている創造性を尊重する態度の形成。
- ③表現方法を創意工夫し、発想や構想したことを基に創造的に表す技能を身につける。
- ④主題の生成から表現の確認及び完成に至る過程を通し、自分の良さを発見し喜びを味わう。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。</li> <li>・創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。</li> </ul>	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。</li> <li>・創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。</li> </ul>	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
評価方法	以下の観点を踏まえ、 ・授業内課題作品の確認 ・レポートや授業内プリントなどの内容の確認  などから、評価します。	以下の観点を踏まえ、 ・授業内の質問や発言の観察 ・授業内課題作品とそれに伴うエスキースの確認  などから、評価します。	以下の観点を踏まえ、 ・授業内の質問や発言の観察 ・授業内課題作品とそれに伴うエスキースの確認 ・レポートや授業内プリントなどの内容の確認  などから、評価します。

### 5 学習計画 (1 単位時間 : 5 5 分授業)

計 6 4 時間 (合計時間や時間配分は学校行事・ローテーションにより変動する) 主要学習領域は全て表現と鑑賞。

月	時間	単元名	教材	学習活動 (指導内容)	評価の観点	評価方法
4	2	ガイダンス 自己紹介 イラスト	デザイン	・美術とは何か ・自身を言葉ではなく絵で自己紹介する	b c	提出作品 (思考の確認) エスキース (記述の点検) 授業内態度 (行動の確認)
4 ~ 6	1 2	色彩構成と 切り絵	色彩構成	・明暗、色彩、彩度対比を使用する ・色から感じ取れるイメージについて学ぶ ・色の対比やそれに伴う色の見え方を学ぶ	a b c	ワークシートと提出作品 (練習用課題への取り組みと技能の確認) エスキース (思考の確認) (記述の点検) 授業態度 (行動の確認)
6 ~ 8	1 0	鳥獣戯画	鑑賞 絵画	・鳥獣戯画や絵巻物を鑑賞し、学ぶ ・筆使いやタッチを学び、自身の作品へ取り入れる	a b c	提出作品 (練習プリントによる実技と知識の確認と点検) エスキース (思考の確認と記述の点検) 授業態度 (行動の確認)
8 ~ 1 0	1 2	アニメーション の基礎	映像 メディア	・フリップブックを用いてアニメーションの基礎を学ぶ ・映像表現における動きなどの視覚的要素について考え、創造的な表現の構想を練る	a b c	提出作品 (練習作品による実技と知識の確認と点検) アイデアスケッチとエスキース (思考の確認と記述の点検) 授業態度 (行動の確認)
1 0 ~ 1 2	1 0	ロゴデザイン	デザイン 絵画	・企業のロゴデザインを考える ・ロゴデザインの目的や条件、美しさについて学ぶ	a b c	提出作品 (技能の確認) アイデアスケッチとエスキース (思考の確認と記述の点検) 授業態度 (行動の確認)
1 2 ~ 2	1 0	自分の国と 建国記念切手	デザイン	・自身で新たな国を想像し、国旗や歴史などの詳細を考える ・記念切手を作成する際に、切手の役割について考える ・作品の発表と鑑賞	a b c	提出作品 (実技の確認) ワークシート (思考の確認と記述の点検) 授業態度 (行動の確認)
2 ~ 3	8	自分を描く	絵画	・自分自身のパーツを一部デッサンし作品とする。 ・全身クロッキーを行い、素早くものの形を捉える目を養う。	a b c	提出作品 (練習プリントによる実技と知識の確認と点検) エスキース (思考の確認と記述の点検) 授業態度 (行動の確認)

### 6 課題・提出物等

作品/クロッキー、アイデアスケッチ、ラフスケッチ/課題、感想、アンケート/鑑賞レポート/自習課題
--

### 7 担当者からの一言

高校の美術 (芸術) の授業は、ほぼこの講座のみである。授業を通して創造力を養い、美術の楽しさや美術に親しむ心を育くみ、生涯にわたり美術を愛好し、心豊かに生活を送ることを心掛るとは何かについて学んで欲しい。

(担当 : 田村千晴)

## 令和5年度シラバス 書道 I

学番61 新潟県立柏崎高等学校

教科(科目)	芸術 I (書道 I)	単位数	2単位	学年	1学年
使用教科書	書 I (教育図書)				
副教材	なし				

### 1 学習目標

<p>書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>
--

### 2 指導の重点

<p>(1) 漢字仮名交じりの書では、身近なことばや、詩歌などを題材として学習する。</p> <p>(2) 漢字の書では、楷書・行書を中心に、様々な書体や書風について学習する。</p> <p>(3) 仮名の書では、その成立を理解し、その美しさと技法を学習する。</p>
--

### 3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>書の表現の方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深めている。</li> <li>書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付け、表している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。</li> </ul>

### 4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>書の表現の方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深めている。</li> <li>書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付け、表している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。</li> </ul>
評価方法	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> <li>課題や作品の確認</li> <li>レポートやプリントなどの内容の確認</li> </ul> などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> <li>課題や作品の確認</li> <li>レポートやプリントなどの内容の確認</li> </ul> などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> <li>課題や作品の確認</li> <li>レポートやプリントなどの内容の確認</li> </ul> などから、評価します。

5 学習計画（1単位時間：55分）

月	単元名	教材	主要学習領域	学習活動	時間	評価の観点	評価方法
4	導入 漢字仮名 交じりの書	ことばを 書く	書の伝統と文化 用具用材の理解 執筆法、用筆法	・書写から書道へ ・書の歴史 ・書美と書表現の理解	6	c b a	制作作品
5 6	漢字の書	楷書の古典 北魏・唐代 の楷書	楷書の鑑賞と臨書	楷書の多様な書風を鑑賞し、用筆法や字形の違いを理解する。	14	a、b、c	制作作品 鑑賞シート
7 8 9	漢字の書	行書の古典 蘭亭序など	行書の鑑賞と臨書	行書の特徴を理解し、その表現の技能を身につける。	16	a、b、c	制作作品 鑑賞シート
10	漢字の書	創作作品	楷書と行書による創作	半紙以上の大きな紙面に、楷書と行書による創作を行う。	6	a、b、c	制作作品 制作シート
11	篆刻の学習	篆刻用具	落款印の作成	印の歴史を学び、篆刻の手順と技法の理解を深める。	6	a、b、c	制作作品 制作シート
12	仮名の書	仮名の古典	仮名の成立と書美	仮名の成立を理解し、その書美を実践する。	4	a、b、c	制作作品
1	漢字仮名 交じりの書	名言、詩	漢字仮名交じりの書と書表現	今までに習得してきた書表現を生かし、身近なことばや詩文に親しむ。	6	a、b、c	制作作品
2 3	作品制作	古典臨書 創作作品	課題研究 書表現の実践	1年間の集大成として自主課題の作品制作をする。	6	a、b、c	制作作品
					64		

6 課題・提出物等

・制作した作品。制作シート・鑑賞シートなど。

7 担当者からの一言

「書写」とは違い、芸術教科として学ぶ「書道」では、長い歴史や風土の中で生まれた様々な書体を学びます。学習内容としては、書体の変遷の過程において、文字文化にまで発展させた先人たちが残した名筆（古典）を鑑賞し、臨書することが基本となります。その古典の種類は、綺麗に整っているものばかりではなく、一見、地味で素朴なものから、力強く、豪快で見る者に訴えかけるものなど、まさに多種多様です。それぞれがもつ魅力を感じられるような幅広い視野を養うことによって、表現力や感性を高めることができます。

より多くの名筆から多様な書表現を吸収し、更に仲間達と作品を批評・鑑賞し合うことによって、各々の個性と創造力を豊かにしましょう。創作活動においては、大胆な発想と、表現の工夫によって作品を生み出す過程を大切に、創り上げた時の感動を味わうことができるような力を身につけましょう。



令和5年度シラバス (外国語)

学番61 新潟県立柏崎高等学校

教科(科目)	外国語 (英語コミュニケーション I)	単位数	4 単位	学年	1 学年
使用教科書	BLUE MARBLE English Communication I (数研出版)				
副教材等	BLUE MARBLE ワークブック (数研出版)、リスニング問題集 Listening & Speaking Training Seminar (株式会社ラーンズ)、チャンクで英単語 basic (三省堂)、チャンクで英単語 basic ドリルノート (三省堂)、Rapid Reading Level I 改訂版 (美誠社)				

1 学習目標

英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、英語の言語活動（読むこと、聞くこと、話すこと[やり取り、発表]、書くこと）を通じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報や考えを的確に理解したり、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して適切に表現したりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。

2 指導の重点

- ア. 基本的な言語材料の定着を重視しながら、段階的に学習を行う。
- イ. 聞く・読む・話す[やり取り/発表]・書くの4技能5領域の統合的な学習活動を行う。
- ウ. 各レッスンにおいて、概要や要点をとらえたり、論理展開を確認したり、多面的・多角的に考察したりするなどして同じ英文に何度も触れて学びを深める。
- エ. 言語活動では、具体的で身近な使用場面を設定し、学んだことや経験したことに基づいて積極的にコミュニケーションを行う態度を養う。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語の音声や語彙, 表現, 文法, 言語の働きなどについて理解を深めている。</li> <li>・外国語の音声や語彙, 表現, 文法, 言語の働きなどの知識を, 聞くこと, 読むこと, 話すこと, 書くことによる実際のコミュニケーションにおいて, 目的や場面, 状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。</li> </ul>	コミュニケーションを行う目的や場面, 状況などに応じて, 日常的な話題や社会的な話題について, 外国語で情報や考えなどの概要や要点, 詳細, 話し手や書き手の意図などを的確に理解したり, これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め, 聞き手, 読み手, 話し手, 書き手に配慮しながら, 主体的, 自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語の音声や語彙, 表現, 文法, 言語の働きなどについて理解を深めている。</li> <li>・外国語の音声や語彙, 表現, 文法, 言語の働きなどの知識を, 聞くこと, 読むこと, 話すこと, 書くことによる実際のコミュニケーションにおいて, 目的や場面, 状況などに応じて適切に活用で</li> </ul>	コミュニケーションを行う目的や場面, 状況などに応じて, 日常的な話題や社会的な話題について, 外国語で情報や考えなどの概要や要点, 詳細, 話し手や書き手の意図などを的確に理解したり, これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め, 聞き手, 読み手, 話し手, 書き手に配慮しながら, 主体的, 自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。



	きる技能を身に付けている。		
評価方法	以上の観点を踏まえ、 a 授業中の活動の取組の観察（音読、発言、発表や討論など） b 提出物の内容の分析 c 小テスト・定期考査の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 a 授業中の活動の取組の観察（音読、発言、発表や討論など） b 提出物の内容の分析 c 小テスト・定期考査の分析 d 振り返りシートの分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 a 授業中の活動の取組の観察（音読、発言、発表や討論など） b 提出物の内容の分析 c 小テスト・定期考査の分析 d 振り返りシートの分析 などから、評価します。

### 5 学習計画

	範囲	課	学習内容と活動	時間	評価方法
1 学期	中間	Lesson 1	<b>デジタル時代における友だち作り【基本的な文構造】</b> (1)本文に関する写真を参考にしながらやり取りすることができる。 全 Part を通した本文の概要を把握することができる。 (2)各 Part の本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。また、本文の内容を再生できる。 (3)本文の内容について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す/書くことができる。 (4)本文の内容を自分のことばで簡潔に伝えることができる。また、本文に関連したテーマの英文を聞いて、意見をやり取りすることができる。 (5)本文で扱った発音、読解スキル、文法を理解し、それを用いて正しく英文を表現できる。 以下の課についても(1)~(5)の要領で行う	7	a, b, c, d
		Lesson 2	<b>万博における日本の関わりと、未来の万博の役割【時制】</b>	7	a, b, c, d
	期末	Lesson 3	<b>1人のアメリカ女性を魅了した日本の伝統話芸の世界【助動詞・態】</b>	12	a, b, c, d
		Lesson 4	<b>人々の行動をよい方向に変えるための「仕掛け」とは【不定詞・動名詞】</b>	12	a, b, c, d
2 学期	中間	Lesson 5	<b>ルワンダ大虐殺を生き延びた1人の女性の物語【分詞】</b>	14	a, b, c, d
		Lesson 6	<b>「測る」という行為を通して人類の進化の歴史をひも解く【関係代名詞】</b>	14	a, b, c, d
	期末	Lesson 7	<b>野生動物の秘密に迫る「バイオリギング」【関係副詞】</b>	14	a, b, c, d
		Lesson 8	<b>「オーバーツーリズム」とは何か、そしてその解決策を考える【仮定法】</b>	14	a, b, c, d
3 学期	学年末	Lesson 9	<b>玉石混交の膨大な情報から真実にたどり着くために何をすべきか</b>	14	a, b, c, d
		Lesson10	<b>「禅」の精神とは何か、そして現代の世界に与えた影響とは</b>	14	a, b, c, d
			<b>総合問題</b>	6	a, b, c, d

計 128 時間（1 単位 55 分授業）

### 6 課題・提出物等

- ・授業に積極的に参加し、主体的に日々学習に取り組みましょう。
- ・教科書のワークブック、単語・熟語のドリルノートは定期的に提出となります。計画的に取り組んでください。

### 7 担当者からの一言

間違いを恐れずに、クラスメイトと英語で自分の考えなどを伝えましょう。  
多様な話題を扱うので、様々な視点から現代社会について理解することができます。自他国の伝統・文化を尊重しながら、国際社会の平和や発展に寄与できる人材になりましょう。

令和5年度シラバス (外国語)

学番 6 1 新潟県立柏崎高等学校

教科(科目)	外国語 (論理・表現 I)	単位数	2 単位	学年 (コース)	1 学年
使用教科書	be English Logic and Expression I (いいずな書店)				
副教材等	総合英語 be (いいずな書店)、be smart Workbook (いいずな書店)				

1 学習目標

言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーションを図ろうとする態度を養うとともに、論理的な思考力を養い、論理の展開や表現の方法を工夫し、伝える能力を養う。

2 指導の重点

ア. コミュニケーションを図る資質・能力を育成するために、話したり書いたりする言語活動を中心に、情報や考えなどを表現したり伝え合ったりする能力の向上を図る。  
 イ. 準備段階を踏んだ上で、話すこと[やりとり]、話すこと[発表]、書くことの三つの領域を学び、英語を実際の場面設定で使用する。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得すべき知識や重要な概念等を理解している。それらを既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、概念等として理解したり技能を習得したりしている。	知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を見に付けている。	知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力を見に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みの中で、自らの学習を調整しようとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	習得すべき知識や重要な概念等を理解している。それらを既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、概念等として理解したり技能を習得したりしている。	知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を見に付けている。	知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力を見に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みの中で、自らの学習を調整しようとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 a 活動の取組 b パフォーマンステスト c 小テスト・定期考査 d 課題提出 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 a 活動の取組 b パフォーマンステスト c 小テスト・定期考査 d 課題提出 e 自己評価及び振り返り などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 a 活動の取組 b パフォーマンステスト d 課題提出 e 自己評価及び振り返り などから、評価します。

5 学習計画

計 64 時間 (1 単位 55 分)

	範囲	課	学習内容と活動	時間	評価方法
1 学期	中間考査	L1	Meeting People 自分のことを話す	10	a, b, c, d, e
		L2	Holidays and Weekends 休日、週末にしたことを話す		
	期	L3	Making plans 予定について話す	10	a, b, c, d, e

	末 考 査	L4	Travel 旅行について話す		
		L5	Study and Activities 学習・課外活動について話す		
2 学 期	中 間 考 査	L6	Food 食べ物について話す	14	a, b, c, d, e
		L7	School Life 学校生活について話す		
		L8	Daily Life 日常生活について話す		
		L9	Transportation Issues 交通機関の問題について話す		
	期 末 考 査	L10	The Future 将来したいことについて話す	14	a, b, c, d, e
		L11	Staying Healthy 健康について話す		
L12		New Products 新しい製品について話す			
L13		Hobbies and Interests 趣味・関心について話す			
L14		The World of Nature 自然について話す			
L15		Trouble and Accidents トラブル・事故について話す			
3 学 期	学 年 末 考 査	L16	Technology and Invention 技術・発明について考える	16	a, b, c, d, e
		L17	Achievements 達成したことを話す		
		L18	Cities and Towns 都市・町について話す		
		L19	Living Environment 生活環境について話す		
		L20	Social Problems 社会問題について話す		
		L21	Making a Wish 願い事について話す		
		L22	Cross-cultural Communication 異文化を理解する		
		L23	Giving Opinions 意見を述べる		

## 6 課題・提出物等

計画的にワークブックで予習・復習をしてください。配布のハンドアウトを利用して予習をし、自分の考えなどを英語で書いたものを決められた期限までに提出してください。

## 7 担当者からの一言

コミュニケーション活動をクラスメイトとともに、コミュニケーションの手段として実際に英語を使いながら学んでいきましょう。

令和5年度シラバス (外国語)

学番61 新潟県立柏崎高等学校

教科(科目)	外国語 (英語コミュニケーションⅡ)	単位数	4単位	学年	2学年
使用教科書	BLUE MARBLE English Communication II (数研出版)				
副教材等	BLUE MARBLE ワークブック (数研出版)、リスニング問題集 Focus on Listening Pre-standard (エミル出版)、WORDBOX Advanced 2 <sup>nd</sup> edition 英単語・熟語 (美誠社)、Rapid Reading Level 2 改訂版 (美誠社)、大学入試長文シリーズ Front Runner 1 改訂版 (数研出版)				

1 学習目標

英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、英語の言語活動（読むこと、聞くこと、話すこと[やり取り、発表]、書くこと）を通じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報や考えを的確に理解したり、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して適切に表現したりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。

2 指導の重点

- ア. 基本的な言語材料の定着を重視しながら、段階的に学習を行う。
- イ. 聞く・読む・話す[やり取り/発表]・書くの4技能5領域の統合的な学習活動を行う。
- ウ. 各レッスンにおいて、概要や要点をとらえたり、論理展開を確認したり、多面的・多角的に考察したりするなどして同じ英文に何度も触れて学びを深める。
- エ. 言語活動では、具体的で身近な使用場面を設定し、学んだことや経験したことに基づいて積極的にコミュニケーションを行う態度を養う。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語の音声や語彙, 表現, 文法, 言語の働きなどについて理解を深めている。</li> <li>・外国語の音声や語彙, 表現, 文法, 言語の働きなどの知識を, 聞くこと, 読むこと, 話すこと, 書くことによる実際のコミュニケーションにおいて, 目的や場面, 状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。</li> </ul>	コミュニケーションを行う目的や場面, 状況などに応じて, 日常的な話題や社会的な話題について, 外国語で情報や考えなどの概要や要点, 詳細, 話し手や書き手の意図などを的確に理解したり, これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め, 聞き手, 読み手, 話し手, 書き手に配慮しながら, 主体的, 自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語の音声や語彙, 表現, 文法, 言語の働きなどについて理解を深めている。</li> <li>・外国語の音声や語彙, 表現, 文法, 言語の働きなどの知識を, 聞くこと, 読むこと, 話すこと, 書くことによる実際のコミュニケーションにおいて, 目的や場面, 状況などに応じて適切に活用で</li> </ul>	コミュニケーションを行う目的や場面, 状況などに応じて, 日常的な話題や社会的な話題について, 外国語で情報や考えなどの概要や要点, 詳細, 話し手や書き手の意図などを的確に理解したり, これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め, 聞き手, 読み手, 話し手, 書き手に配慮しながら, 主体的, 自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

	きる技能を身に付けている。		
評価方法	以上の観点を踏まえ、 a 授業中の活動の取組の観察（音読、発言、発表や討論など） b 提出物の内容の分析 c 小テスト・定期考査の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 a 授業中の活動の取組の観察（音読、発言、発表や討論など） b 提出物の内容の分析 c 小テスト・定期考査の分析 d 振り返りシートの分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 a 授業中の活動の取組の観察（音読、発言、発表や討論など） b 提出物の内容の分析 c 小テスト・定期考査の分析 d 振り返りシートの分析 などから、評価します。

## 5 学習計画

	範囲	課	学習内容と活動	時間	評価方法
1 学期	中間	Lesson 1	<b>Leadership in Modern Times</b> 現代社会において求められるリーダーシップ (1)本文に関する写真を参考にしながらやり取りすることができる。 全 Part を通した本文の概要を把握することができる。 (2)各 Part の本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。また、本文の内容を再生できる。 (3)本文の内容について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す/書くことができる。 (4)本文の内容を自分のことばで簡潔に伝えることができる。また、本文に関連したテーマの英文を聞いて、意見をやり取りすることができる。 (5)本文で扱った発音、読解スキル、文法を理解し、それを用いて正しく英文を表現できる。 以下の課についても(1)~(5)の要領で行う	10	a, b, c, d
		Lesson 2	<b>The Diversity of Traditional Houses</b> 世界の伝統家屋の特徴と、それらが現在果たす役割	10	a, b, c, d
	期末	Lesson 3	<b>Improving Society with Avatar Robots</b> 社会の「孤独」を解消するため、1人の男性が生み出した「分身ロボット」	12	a, b, c, d
		Lesson 4	<b>Approaches to Food Waste</b> 食品ロスの現状と、私たちにできる身近な取り組みを考える	12	a, b, c, d
2 学期	中間	Lesson 5	<b>Animals as Indispensable Partners</b> 私たちのよりよい暮らしと社会をサポートしてくれる動物たち	14	a, b, c, d
		Lesson 6	<b>An Irish Poet on a Mission</b> 翻訳を通して日本文学の美しさを世界に広めるアイルランド出身の詩人	14	a, b, c, d
	期末	Lesson 7	<b>Be Free from Gender Bias</b> 身近にひそむ男性/女性への偏見と、それをなくそうとする取り組み	14	a, b, c, d
		Lesson 8	<b>The Diminutive Giant Who Fought for Refugees</b> 難民保護に尽力した「小さな巨人」、緒方貞子の信念とは	14	a, b, c, d
3 学期	学年末	Lesson 9	<b>Tackling Global Warming</b> 地球温暖化の新しい対応策、ジオエンジニアリングの利点・欠点を考える	14	a, b, c, d
		Lesson10	<b>Keys to Finding Happiness</b> 「幸せ」を自分で切り開く方法を科学的に見てみよう	14	a, b, c, d

計 128 時間（1 単位 55 分授業）

## 6 課題・提出物等

- ・授業に積極的に参加し、主体的に日々学習に取り組みましょう。
- ・ワークシート、教科書のワークブックは定期的に提出をします。締め切りに間に合うように計画的に取り組んでください。

## 7 担当者からの一言

間違いを恐れずに、クラスメイトと英語で積極的に交流しましょう。  
多様な話題を扱うので、様々な視点から現代社会について理解することができます。自他国の伝統・文化を尊重しながら、国際社会の平和や発展に寄与できる人物になりましょう。



教科(科目)	外国語 (論理・表現 I)	単位数	3単位	学年 (コース)	2 学年
使用教科書	FACTBOOK English Logic and Expression II (桐原書店)				
副教材等	総合英語 FACTBOOK (桐原書店)、FACTBOOK Workbook [Essential] (桐原書店) 英文法・語法 Engage 3rd Edition (いいずな書店)				

### 1 学習目標

英語の言語活動 (話すこと [やり取り、発表]、書くこと) を通じて、コミュニケーションを図るために必要な基本的な発信能力を育成するとともに、論理の構成や展開を考察することで情報や考えなどを論理的に伝える基礎的な英語力を養う。

### 2 指導の重点

ア. 実用的な場面・状況を設定した **Speaking・Writing** のタスク活動を行い、必要性を実感しながら文法を学習することで、発信の基盤となる文法を体系的に理解し、活用を促す。

イ. **Thinking Logically** ではテーマに関連した話題について、ステップを踏みながら 100 語程度の論理的な意見文を書くことを目指す。

### 3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して、伝え合う技能 / 話して伝える技能 / 書いて伝える技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを、 - 話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりしている。 - 論理性に注意して話して伝え合っている / 書いて伝えている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて、伝え合おうと / 話そうと / 書こうとしている。

### 4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して、伝え合う技能 / 話して伝える技能 / 書いて伝える技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを、 - 話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりしている。 - 論理性に注意して話して伝え合っている / 書いて伝えている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて、伝え合おうと / 話そうと / 書こうとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 a 活動の取組の観察 b パフォーマンステスト c 小テスト・定期考査の分析 d 提出物の内容の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 a 活動の取組の観察 b パフォーマンステスト c 小テスト・定期考査の分析 d 提出物の内容の分析 e 振り返りシートの分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 a 活動の取組の観察 b パフォーマンステスト c 小テスト・定期考査の分析 d 提出物の内容の分析 e 振り返りシートの分析 などから、評価します。



5 学習計画

計 96時間 (1 単位 55 分)

	範囲	課	学習内容と活動	時間	評価方法
1 学期	中間 考查	Unit 1	【健康・ライフスタイル】 人々が抱える健康の問題や健康のための習慣について議論することができる。 健康の問題や健康のための習慣について長めの意見を述べることができる。 砂糖税の導入について意見文を書くことができる。	13	a, b, c, d
		Unit 2	【貧困・飢餓】 飢餓を解決する方法について聞いた情報をもとに説明することができる。 飢餓を解決する方法について議論することができる。 飢餓支援の事例を紹介する校内新聞を書くことができる。		a, b, c, d, e
		Thinking Logically ①	【貧困と健康問題】 フードバンクへの寄付に適した食品について、描写型のパラグラフを書くことができる。 描写型の文章のキーワードを整理し、言い換えをしながら要約文を書くことができる。		
	期末 考查	Unit 3	【都市化の問題】 大都市で起きている問題について議論することができる。 大都市で起きている問題について長めの意見を述べることができる。 都市化が及ぼす影響について意見文を書くことができる。	15 + 9	a, b, c, d
		Unit 4	【持続可能な都市】 都市問題について聞いた情報をもとに説明することができる。 都市問題を解決する方法について議論することができる。 自分の住む地域の自治体に要望書を書くことができる。		a, b, c, d, e
		Thinking Logically ②	【都市化の問題と解決策】 大都市で起きている問題について、問題解決型のパラグラフを書くことができる。 問題解決型の文章のキーワードを整理し、言い換えをしながら要約文を書くことができる。		
2 学期	中間 考查	Unit 5	【環境保護と文化】 野生生物保護公園の成功事例について議論することができる。 野生生物保護公園の成功事例について長めの意見を述べることができる。 環境保護のあり方について意見文を書くことができる。	16	a, b, c, d
		Unit 6	【プラスチックごみ問題】 プラスチックパッケージの代替素材について聞いた情報をもとに説明することができる。 プラスチックパッケージの代替素材について議論することができる。 プラスチックごみ削減を促進する企画を提案するメールを書くことができる。		a, b, c, d, e
		Thinking Logically ③	【環境保護のためにできること】 環境を助けるためにできる簡単な方法について、原因・結果型のパラグラフを書くことができる。 原因・結果型の文章のキーワードを整理し、言い換えをしながら要約文を書くことができる。		
	期末 考查	Unit 7	【NGO 活動と共生】 NGO の活動について情報を共有しながら議論することができる。 NGO の活動について長めの意見を述べることができる。 海外の国際機関で働きたいかどうかについて意見文を書くことができる。	19 + 8	a, b, c, d
		Unit 8	【ジェンダー平等】 ジェンダー平等について聞いた情報をもとに説明することができる。 女性のクォータ制が必要かどうかについて議論することができる。 海外の大学への志望理由書を書くことができる。		a, b, c, d, e
		Thinking Logically ④	【チャリティー活動】 関心のあるチャリティに関して、比較・対比型のパラグラフを書くことができる。 比較・対比型の文章のキーワードを整理し、言い換えをしながら要約文を書くことができる。		
3 学期	学年 末 考查	Unit 9	【地産地消】 地産地消の利点について議論することができる。 地産地消の利点について長めの意見を述べることができる。 地産地消について意見文を書くことができる。	12 + 4	a, b, c, d
		Unit 10	【シェアリングエコノミー】 シェアリングエコノミーについて聞いた情報をもとに説明することができる。 シェアリングエコノミーについて事例をもとに議論することができる。 学校で始めてほしいシェアリングサービスについての要望書を書くことができる。		a, b, c, d, e
		Thinking Logically ⑤	【都市・地方での生活】 都市や地方での生活の利点について、3 パラグラフの意見文を書くことができる。 3 パラグラフの文章のキーワードを整理し、言い換えをしながら要約文を書くことができる。		

6 課題・提出物等

計画的にワークブックで予習・復習をしてください。ワークブックと意見文は定期的に提出します。

7 担当者からの一言

クラスメイトと一緒に英語を学習する同士です。お互いを尊重し協力し合いながら、積極的にコミュニケーション活動を楽しみましょう。

令和5年度シラバス ( 英語 )

学番 6 1 新潟県立柏崎高等学校

教科 (科目)	コミュニケーション英語Ⅲ	単位数	5	学年 (コース)	3年普通科(文系)
使用教科書	WORLD TREK English Communication Ⅲ (桐原書店)				
副教材等	総合英語 EMPOWER、Listening Ace 10				

1 学習目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を更に伸ばし、社会生活において活用できるようにする。

2 指導の重点

ア. 紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。  
 イ. 説明や物語などを読んで、速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をする。また、聞き手に伝わるよう音読や暗唱を行う。  
 ウ. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどなどについて、話し合うなどして結論をまとめる。  
 エ. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、まとまりのある文章を書く。

3 学習計画 ( 1 単位時間 5 5 分 )

	範囲	課	学習内容	時間	評価方法
1 学期	中間考査	Lesson 1, 2	人生、動物	59	a, b, c, d
	期末考査	Lesson 3, 4	食・歴史、貿易・国際		
	期末考査後	Lesson 5	科学技術		
2 学期	中間考査	Lesson 5, 6	科学技術、国際協力・医療	53	
	期末考査	Lesson 7, 8	人間関係・健康、コミュニケーション		
3 学期	学年末考査	長文読解	まとまった分量の文を読む	48	
	学年末考査後				
				160	

※ a 授業中の活動    b 発表    c 課題の提出    d 小テスト・定期考査

4 課題・提出物等

定期的に配付される計画表で確認してください。

5 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。				
評価の観点 および 内容	ア コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての 知識・理解
	リズムやイントネーション、 話す速度、声の大きさなどに 注意しながら聞いたりはなし たりしている。	内容の要点を示す語句や 文、つながりを示す語句な どに注意しながら話したり 書いたりしている。	英文を読んだり聞いたりし て、情報や相手が伝えたい ことを理解している。	言語やその運用について の知識を身につけている とともに、その背景にある 文化などを理解している。
評価方法	a 授業中の活動    b 発表    c 課題の提出    d 小テスト・定期考査の観点から総合的に評価します。			

6 担当者からの一言

意味が瞬時にわかるまで音読、シャドーイングできるまで練習を徹底しましょう。できるできないじゃない、やるかやらないか。

令和5年度シラバス ( 英語 )

学番 6 1 新潟県立柏崎高等学校

教科 (科目)	英語表現Ⅱ	単位数	3	学年 (コース)	3年普通科 (文系)
使用教科書	Empower English Expression Ⅱ (桐原書店)				
副教材等	総合英語 EMPOWER、ゲートウェイ英作文 (文英堂)、リスニング問題集 All Ears Pre-Advanced				

1 学習目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。

2 指導の重点

ア. 与えられた条件に合わせて、即興で話す。また、伝えたい内容を整理して論理的に話す。  
 イ. 主題を決め、様々な種類の文章を書く。  
 ウ. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表する。また、発表されたものを聞いて、質問したり意見を述べたりする。  
 エ. 多様な考え方ができる話題について、立場を決めて意見をまとめ、相手を説得するために意見を述べ合う。

3 学習計画 ( 1 単位時間 5 5 分 )

	範囲	課	学習内容	時間	評価方法
1 学期	中間考査	EEE L18~20	比較・仮定法	13	a, b, c, d
	期末考査	GW 1-1~4	語順	15	a, b, c, d
	期末考査後	GW 1-5~7, 2-1	語順、句や節	9	a, b, c, d
2 学期	中間考査	GW 2-2~6	句や説	16	a, b, c, d
	期末考査	GW 2-6~10	句や説	19	a, b, c, d
	期末考査後	英作文問題集	多様な英文を書く	8	a, b, c, d
3 学期	学年末考査 学年末考査後	英作文問題集	多様な英文を書く	16	a, b, c, d
				96	

※ a 授業中の活動    b 発表    c 課題の提出    d 小テスト・定期考査

4 課題・提出物等

定期的に配付される予定表で確認してください。

5 評価の観点と評価方法

評価は次の観点から行います。				
評価の観点 および 内容	ア コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての 知識・理解
	コミュニケーションに関心を もち、積極的に言語活動を行 い、コミュニケーションを図 ろうとしている。	外国語で話したり書いたり して、自分の考えなどを表 現している。	外国語を聞いたり読んだり して、話し手や書き手の意 向などを理解している。	外国語の学習を通じて、言語やその 運用についての知識を身につけて いるとともに、その背景にある文化 などを理解している。
評価方法	a 授業中の活動    b 発表    c 課題の提出    d 小テスト・定期考査の観点から総合的に評価します。			

6 担当者からの一言

意味が瞬時にわかるまで音読、シャドーイングできるまで練習を徹底しましょう。できないじゃない、やるかやらないか。

令和5年度シラバス ( 英語 )

学番61 新潟県立柏崎高等学校

教科 (科目)	英語 (英語探究)	単位数	2	学年 (コース)	3 学年普通科 (文系)
使用教科書	WORLD TREK English Communication III (桐原書店) EMPOWER English Expression II				
副教材等	Viewpoint Standard、EMPOWER 総合英語				

1 学習目標

- ・表現活動の基礎となる、文法や構文の知識の確認や定着を図る。
- ・長文の記述読解を通して、文構造を理解し、テーマへの理解を深める。

2 指導の重点

- ア. 2年生までに学んだ、文法や構文の知識を確認し、重要例文や基本的表現などを定着させる。
- イ. 記述問題に取り組み、正しい答えの導き方を学ぶ。
- ウ. 与えられた話題・テーマ、また他者の意見に対して、文のつながりや段落構成に気を付けて、自分の考えをまとめたり、意見を英語で表現したりする力を養う。

3 学習計画 ( 1 単位時間 55 分 )

	単 元	学 習 内 容	時間	評価方法
1 学期	英文法・構文の確認	英文法・構文の確認 和文英訳、音読	24	a.b.c.d
2 学期	英語表現の確認	英文法・構文の確認 和文英訳、音読	28	a.b.c.d
3 学期	英語による自己表現 評価活動	長文英作文・自由英作文 評価	12	a.b.c.d
			64	

※ a 授業中の活動 b 発表 c 課題の提出 d 小テスト・定期考査

4 課題・提出物等

定期的に配布される計画表で確認してください。

5 評価の観点と評価方法

評価は次の観点から行います。				
	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
観点	コミュニケーションに関 心をもち、積極的に自己表 現活動に取り組んでいる。	文法や構文の知識をも とに、概ね正確な英文を 書いている。	与えられた話題や他者 の意見に対して、論理的 に自分の意見を英語で 表現している。	文化的背景や考え方の 違いを理解し、適切な方 法で自分の意見を表現 している。
評価方法	上記 a～d の観点から総合的に評価します。			

6 担当者からの一言

意味が瞬時にわかるまで音読、シャドーイングできるまで練習を徹底しましょう。できないじゃない、やるかやらないか。

令和5年度シラバス ( 英語 )

学番 6 1 新潟県立柏崎高等学校

教科 (科目)	コミュニケーション英語Ⅲ	単位数	4	学年 (コース)	3年普通科(理系)
使用教科書	WORLD TREK English Communication Ⅲ (桐原書店)				
副教材等	総合英語 EMPOWER、Listening Ace 10				

1 学習目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を更に伸ばし、社会生活において活用できるようにする。

2 指導の重点

ア. 紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。  
 イ. 説明や物語などを読んで、速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をする。また、聞き手に伝わるよう音読や暗唱を行う。  
 ウ. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどなどについて、話し合うなどして結論をまとめる。  
 エ. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、まとまりのある文章を書く。

3 学習計画 ( 1 単位時間 5 5 分 )

	範囲	課	学習内容	時間	評価方法
1 学期	中間考査	Lesson 1, 2	人生、動物	47	a, b, c, d
	期末考査	Lesson 3, 4	食・歴史、貿易・国際		
	期末考査後	Lesson 5	科学技術		
2 学期	中間考査	Lesson 5, 6	科学技術、国際協力・医療	43	
	期末考査	Lesson 7, 8	人間関係・健康、コミュニケーション		
3 学期	学年末考査	長文読解	まとまった分量の文を読む	38	
	学年末考査後				
				128	

※ a 授業中の活動    b 発表    c 課題の提出    d 小テスト・定期考査

4 課題・提出物等

定期的に配付される計画表で確認してください。

5 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。				
評価の観点 および 内容	ア コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての 知識・理解
	リズムやイントネーション、 話す速度、声の大きさなどに 注意しながら聞いたりはなし たりしている。	内容の要点を示す語句や 文、つながりを示す語句な どに注意しながら話したり 書いたりしている。	英文を読んだり聞いたりし て、情報や相手が伝えたい ことを理解している。	言語やその運用について の知識を身につけている とともに、その背景にある 文化などを理解している。
評価方法	a 授業中の活動   b 発表   c 課題の提出   d 小テスト・定期考査の観点から総合的に評価します。			

6 担当者からの一言

意味が瞬時にわかるまで音読、シャドーイングできるまで練習を徹底しましょう。できるできないじゃない、やるかやらないか、です。

令和5年度シラバス ( 英語 )

学番 6 1 新潟県立柏崎高等学校

教科 (科目)	英語表現Ⅱ	単位数	2	学年 (コース)	3年普通科 (理系)
使用教科書	Empower English Expression Ⅱ (桐原書店)				
副教材等	総合英語 EMPOWER、ゲートウェイ英作文 (文英堂)、リスニング問題集 All Ears Pre-Advanced				

1 学習目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。

2 指導の重点

- ア. 与えられた条件に合わせて、即興で話す。また、伝えたい内容を整理して論理的に話す。
- イ. 主題を決め、様々な種類の文章を書く。
- ウ. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表する。また、発表されたものを聞いて、質問したり意見を述べたりする。
- エ. 多様な考え方ができる話題について、立場を決めて意見をまとめ、相手を説得するために意見を述べ合う。

3 学習計画 ( 1 単位時間 5 5 分 )

	範囲	課	学習内容	時間	評価方法
1 学期	中間考査	EEE L18~20	比較、仮定法	8	a, b, c, d
	期末考査	GW 1-1~3	「描写・説明」のパラグラフ	10	a, b, c, d
	期末考査後	GW1-4~6	「因果関係」のパラグラフ	5	a, b, c, d
2 学期	中間考査	GW1-7, 2-1~5	「問題解決」のパラグラフ	11	a, b, c, d
	期末考査	GW2-6~10	多様な英文を書く	14	a, b, c, d
	期末考査後	英作文問題集	多様な英文を書く	5	a, b, c, d
3 学期		英作文問題集	多様な英文を書く	11	a, b, c, d
				64	

※ a 授業中の活動      b 発表      c 課題の提出      d 小テスト・定期考査

4 課題・提出物等

定期的に配付される予定表で確認してください。

5 評価の観点と評価方法

評価は次の観点から行います。				
評価の観点 および 内容	ア コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての 知識・理解
	コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしている。	外国語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現している。	外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。	外国語の学習を通じて、言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。
評価方法	a 授業中の活動   b 発表   c 課題の提出   d 小テスト・定期考査の観点から総合的に評価します。			

6 担当者からの一言

意味が瞬時にわかるまで音読、シャドーイングできるまで練習を徹底しましょう。できないじゃない、やるかやらないか。



## 令和5年度 シラバス (家庭基礎)

学番61 新潟県立柏崎高等学校

教科(科目)	家庭(家庭基礎)	単位数	2単位	学年	2学年
教科書	東京書籍 家庭基礎 自立・共生・創造				
副教材	東京書籍 家庭基礎学習ノート 第一学習社2023最新生活ハンドブック				

### 1 学習目標

生活の営みに関わる見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに関わる技能を身に付けるようにする。
- (2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。
- (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

### 2 指導の重点

- ① 青年期の発達課題でもある自立に向けた準備を促します。近い将来に自立することを強く意識させ、そのために必要な知識の習得と実践する力を育みます。生徒自らが生活を創造していく主体であることを理解し、生活の充実向上を高めることを目指します。
- ② 地域の生活にも目を向け生徒自身が地域社会の一員であること、社会の中で共生していくことを理解させます。

### 3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに関わる技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家族、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

### 4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解するとともに、それらに関わる技能を身に付けるようにする。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けるようにする。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画するとともに、自分や家族、地域の生活を創造し、実践する。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の内容の確認 ・課題作品のできばえ などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査、授業中の取組の観察、レポート、学習ノート、課題作品などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の取組の観察、レポートなどの内容の確認、学習ノート、課題作品、提出物の状況 などから、評価します。

## 5 学習計画

月	単元	学習内容	時間	評価の観点と評価方法
4 5	第1章 生涯を見通す 第2章 人生をつくる 第11章 これからの生活を創造する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解する。生涯を見通して生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性を学ぶ。ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について考え、生活設計を考える。</li> <li>・青年期の課題を理解し、家族・家庭の機能と家族関係、それを取り巻く社会環境の変化や課題について学ぶ。責任を持って行動すること、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性を学ぶ。</li> </ul>	8	<b>【1学期】</b> a b 定期考査 a b c 課題作品 b c 学習ノート レポート (記述の確認) c 授業での取り組み、提出物の状況 (行動の確認)
6	第7章 衣生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被服の機能と着装について理解する。</li> <li>・被服材料、被服構成及び被服衛生について理解し、被服計画・管理に必要な技能を身に付ける。(作品製作)</li> </ul>	8	
7 8	第7章 衣生活をつくる  (夏期休業)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被服材料、被服構成及び被服衛生について理解し、被服計画・管理に必要な技能を身に付ける。</li> <li>・ホームプロジェクト</li> <li>・学校家庭クラブ活動</li> </ul>	6	<b>【2学期】</b> a b 定期考査 a b c 課題作品 b c 学習ノート レポート (記述の確認) c 授業での取り組み、提出物の状況 (行動の確認)
9	第8章 経済生活を営む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて学ぶ。自立した消費者として生活情報を活用し適切な意思決定に基づいて行動する責任ある消費について学ぶ。</li> <li>・持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について学ぶ。</li> </ul>	8	
10 11	第6章 食生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養の特徴や食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について学ぶ。</li> <li>・おいしさの構成要素や食品の調理上の特徴、食品衛生について理解し、目的に応じた調理に必要な技能を身に付ける。</li> <li>・食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画。健康や環境に配慮した食生活について考える。</li> </ul>	16	
12 1	第3章 子どもと共に育つ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子供を取り巻く社会環境、子育て支援について理解する。乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身に付ける。</li> <li>・子供を生み育てることの意義について考え、子供の健やかな発達のために親や家族及び地域社会の果たす役割の重要性を学ぶ。</li> </ul>	10	<b>【3学期】</b> a b 定期考査 a b c 課題作品 b c 学習ノート レポート (記述の確認) c 授業での取り組み、提出物の状況 (行動の確認)
2	第8章 住生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住生活の特徴、防災など安全な環境に配慮した住居の機能について学ぶ。</li> </ul>	4	
3	第4章 超高齢社会を共に生きる 第5章 共に生き、共に支える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢期の心身の特徴、高齢者を取り巻く社会環境、高齢者の尊厳と自立生活や支援や介護について理解する。</li> <li>・家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解する。</li> </ul>	4	

計64時間 (55分授業)

## 6 課題と提出物

- 学期末に学習ノートを提出する。
- 長期休業にはホームプロジェクト、学校家庭クラブ等の課題を出す。

## 7 担当者から一言

柏崎高校で家庭科を学べるのは3年間の中でこの1年間だけです。みなさんがこれからどう生きるかに役立つ内容がぎっしり詰まっています。この授業を通し、家庭科の魅力と重要性を知ってほしいです。そして、自立した生活者へと成長していきましょう。

令和5年度シラバス (情報)

学番61 新潟県立柏崎高等学校

教科(科目)	情報(情報I)	単位数	2	学年(コース)	1学年普通科
使用教科書	東京書籍 『情報I Step Forward!』				
副教材等	東京書籍 『情報I Step Forward!学習ノート』 東京書籍 『ニュースステップアップ情報I』				

1 学習目標

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育成することを旨とするとともに情報を発信する能力・技術を養う。

2 指導の重点

- ① 情報に関する法制度や個人の責任としての情報モラルなどを学び、情報や情報技術が社会に与える影響について、目的と状況に応じて自ら判断し、意思決定する力をつける。
- ② 情報技術の発達によってコミュニケーションの手段が変化し、情報の流通の範囲が拡大し、即時性や利便性が向上した状況を学び、多くの情報が流通するなかで、目的や受け手の状況に応じてわかりやすく伝える方法として、図表やピクトグラム、ページデザインなどの情報デザインの工夫ができる力をつける。
- ③ コンピュータの内部や情報通信ネットワークの仕組みなどを学ぶとともに、プログラミングやシミュレーションによって問題を発見・解決する力をつける。
- ④ 情報通信ネットワークや情報システムによって提供されるサービスを活用することで、データを蓄積、管理、提供する方法や情報セキュリティを確保する方法を学び、アンケートの設計から収集データの統計的な分析、テキストマイニングなど、データ分析の力を身に付ける。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身につけているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。	・事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	・情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。

4 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	以上の観点を踏まえ ・定期考査 ・課題提出物の内容 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ ・定期考査 ・課題提出物の内容 ・授業への取り組み などから、評価します。	以上の観点を踏まえ ・課題提出物の内容 ・授業への取り組み などから、評価します。
	内容のまとめりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。		

5 学習計画 (1 単位時間 55 分)

月	単元名	授業 時数	学習活動 (指導内容)	評価の 観点	評価方法
4	1 章 情報社会	24	オリエンテーション 1 情報とその特性 2 メディアとその特性 (問)人と連絡を取るときの, 適切なメディア 3 問題を解決する方法 4 情報の収集と分析 5 解決方法の考案 実 55 アイディアの大量生産 6 知的財産 7 個人情報 (問)写真で個人が特定される情報を見つける 8 情報セキュリティ 9 情報モラルと個人の責任 (問)不適切な行動に対しての法規とマナー 21 メディアと文化の発展 (問)UGC について調べる。 22 ネットコミュニケーションの特徴	c a a, b c a a a, b c a a, b c a c a, b	授業の取組 課題提出物の内容
5					
6	2 章 情報デザイン		10 情報技術の進歩と役割 11 情報技術が社会に与える光と影 12 コミュニケーションとメディア 13 情報のデジタル化 14 数値の表現 (問) 2 進法, 10 進法, 16 進法の変換 15 2 進法の計算 16 文字のデジタル表現 17 音のデジタル表現 18 画像のデジタル表現 19 データの圧縮 20 デジタルデータの特徴 23 情報デザイン 実 58 図解表現	a a a, b a a c a a, b a a a a, b a a	
7					
	期末考査			a, b	考査、課題提出物
7	2 章 情報デザイン	28	24 操作性の向上と情報技術 25 全ての人に伝わるデザイン 26 コンテンツ設計 実 60 部活紹介 CM	a a, b a c	授業の取組 課題提出物の内容
8	3 章 プログラミング		27 コンピュータの構成 28 ソフトウェア 29 処理の仕組み 30 論理回路 31 アルゴリズムの表現 32 アルゴリズムの効率性 (問)探索アルゴリズムを考える (問)整列アルゴリズムを考える	a a a a a a a c c	
9			33 プログラムの仕組み 34 プログラミング入門 35 プログラムの応用 (問)じゃんけんのプログラム (問)サイコロのシミュレーションのプログラム (問)円の面積を求めるプログラム	a a a, b c c c	

月	単元名	授業 時数	学習活動 (指導内容)	評価の 観点	評価方法
10	3章 プログラミ ング		実 67 プログラムの改善 実 68 My お天気キャスター 36 問題のモデル化 37 モデル化の活用 38 シミュレーション 実 70 シミュレーションをしよう 39 シミュレーションの活用	a, b, c a, b, c a a, b a, b c	授業の取組 課題提出物の内容
11	4章 ネットワー クの活用		40 情報通信ネットワーク (問)ネットワーク接続した場合の機器の機能拡張 (問)家庭内 LAN を構築する 41 デジタル通信の仕組み 42 インターネットの利用 44 情報システム 45 さまざまな情報システム (問)身の回りの端末の情報システム 43 安全安心を守る仕組み 46 情報システムの信頼性	a, b a, b c c a a, b a a, b c a a, b	
	期末考査			a, b	考査、課題提出物
12 1 2	5章 問題解決	12	47 データの活用とデータベース 48 データの管理 実 73 コンビニデータベース 49 データの収集と種類 (問)データの種類と尺度を判断する 50 データの分析 (問)テキストマイニングでできることを考える 51 不確実な事象の解釈 52 2つのデータの関係 実 72 高校生の実態調査	a a, b c a, b c a, b c a a, b c	授業の取組 課題提出物の内容
	学年末考査			a, b	考査、課題提出物

計 64 時間 (55 分授業)

## 6 課題・提出物等

- ・ 授業の中で使用するワークシート
- ・ 『情報 I Step Forward! 学習ノート』
- ・ 授業で指示された成果物 等

## 7 担当者からの一言

情報は他教科の基本となる教科です。常に他教科ではどのように活用できるかを考えて学習して欲しいものです。その様な意識でのぞむことにより、いろいろな場面で役立つさまざまな技術や考え方を身に付けることができるようになるでしょう。